DENON

AV サラウンドアンプ

AVC-1909

取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け

● 記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜け

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水をかけたり、濡らしたりしない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意 禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施 禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施 禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

総目次

ステレオ音のエチケット

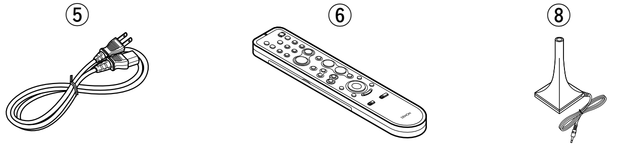


- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

付属品について

本体とは別に下記の付属品が入っています。
お使いになる前にご確認ください。

① 取扱説明書（本書）..1
② 簡単セットアップガイド 1
③ 保証書（梱包箱に貼付）... 1
④ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内 1
⑤ 電源コード（長さ：約 1.7m）【本機専用】....................1
⑥ リモコン（RC-1099）..1
⑦ 単３形乾電池...2
⑧ セットアップマイク
（DM-A409、コードの長さ：約 7.6m）.........................1

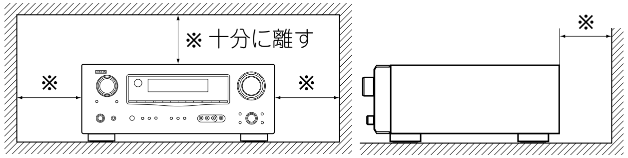


本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他の AV 機器などとは十分に離して設置してください。



携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話を使用すると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置でお使いください。

お手入れについてのご注意

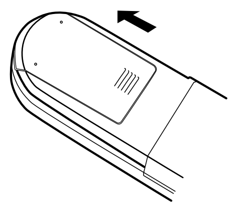
- キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。
  化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色したりすることがありますので使用しないでください。

リモコンについて

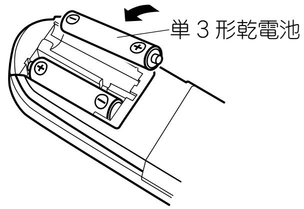
付属のリモコン（RC-1099）は、本機の操作以外に次の機器の操作もできます。
① DENON製コンポーネント製品
② DENON製以外のコンポーネント製品
- プリセット登録による設定（☞55～57ページ）

乾電池の入れかた

① つまみを引き上げながら、裏ぶたを取り外す。



② 乾電池（2本）を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



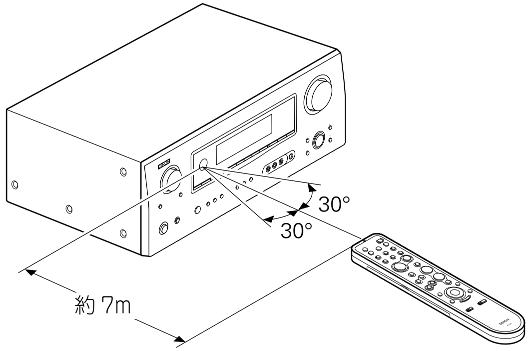
③ 裏ぶたを元通りにしてください。

ご注意

- リモコンには単３形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてお使いください。



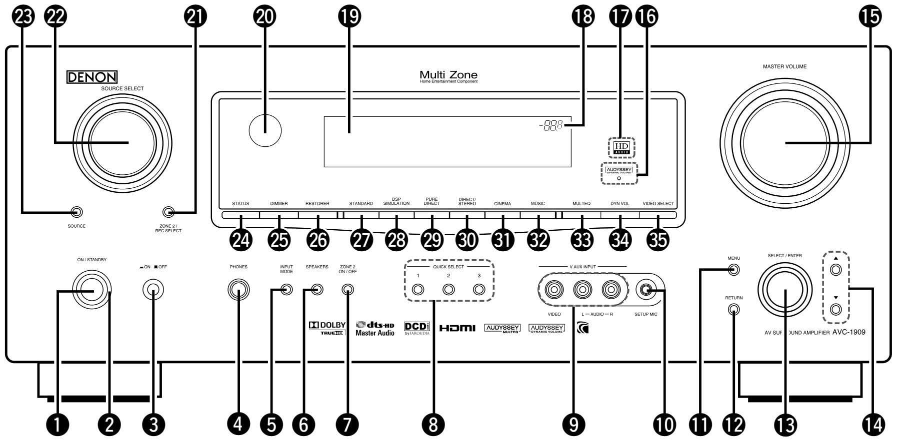
ご注意

リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

各部の名前とはたらき

各部のはたらきなど詳しい説明については、（ ）内のページを参照してください。

フロントパネル



❶ 電源ボタン（ON/STANDBY）……（48）

❷ 電源表示……（48）

❸ 電源スイッチ（▁ON ■OFF）……（48、54）

❹ ヘッドホン端子（PHONES）……（49）

❺ 入力モード切り替えボタン（INPUT MODE）……（36）

❻ スピーカーボタン（SPEAKERS）……（49、54）

❼ ゾーン 2 用電源ボタン（ZONE2 ON/OFF）……（60）

❽ クイックセレクトボタン（QUICK SELECT）……（53）

❾ V.AUX 入力端子（V.AUX INPUT）……（17）

❿ セットアップマイク端子（SETUP MIC）……（22）

⓫ メニューボタン（MENU）……（19）

⓬ リターンボタン（RETURN）……（19）

⓭ セレクト / エンターつまみ（SELECT/ENTER）……（19）

- 本体の **SELECT/ENTER** つまみは、リモコンのカーソル ◁ ▷ ボタンと同じ動作をします。
- つまみを左に回すとカーソル ◁ ボタン、右に回すとカーソル ▷ ボタンと同じ動作をします。
- つまみを押すと、リモコンの **ENTER** ボタンと同じ動作をします。

⓮ カーソルボタン（△▽）……（19）

⓯ 主音量調節つまみ（MASTER VOLUME）……（49）

⓰ AUDYSSEY DYNAMIC VOLUME 表示……（44）

⓱ HD AUDIO 表示……（38）

⓲ 主音量表示

⓳ ディスプレイ……（8）

⓴ リモコン受光部……（6）

㉑ ゾーン 2/ 録音出力切り替えボタン（ZONE2/REC SELECT）……（52、60）

㉒ 入力ソース切り替えつまみ（SOURCE SELECT）……（49）

㉓ ソース切り替えボタン（SOURCE）……（49）

㉔ ステータスボタン（STATUS）……（46）

㉕ ディマーボタン（DIMMER）……（33）

㉖ RESTORER ボタン……（45）

㉗ スタンダードボタン（STANDARD）……（38）

㉘ DSP シミュレーションボタン（DSP SIMULATION）……（39）

㉙ ピュアダイレクトボタン（PURE DIRECT）……（40）

㉚ ダイレクト / ステレオボタン（DIRECT/STEREO）……（39）

㉛ シネマボタン（CINEMA）……（41）

㉜ ミュージックボタン（MUSIC）……（41）

㉝ MULTEQ ボタン……（43）

㉞ DYNAMIC VOLUME ボタン……（44）

※Dynamic Volume について

Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。

また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

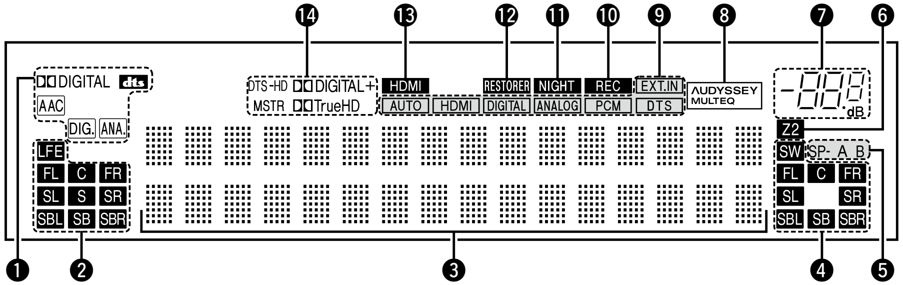
※Dynamic EQ について

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。

Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ 技術と連動することによりすべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

㉟ ビデオセレクトボタン（VIDEO SELECT）……（35）

ディスプレイ



❶ **入力信号表示**

❷ **入力信号チャンネル表示**
デジタル信号入力時に点灯します。

❸ **インフォメーションディスプレイ**
入力ソース名、サラウンドモード、設定値などを表示します。

❹ **出力信号チャンネル表示**

❺ **フロントスピーカー表示**
フロントスピーカー A と B の設定に合わせて点灯します。

❻ **ゾーン 2 出力表示**
ゾーン2の電源が入っているときに点灯します。

❼ **主音量表示**

❽ **AUDYSSEY MULTEQ 表示**
MultEQ 選択時に点灯します。

❾ **入力モード表示**

❿ **録音出力ソース表示**
RECOUT モード選択時に点灯します。
（"SOURCE" 選択時は消灯します。）

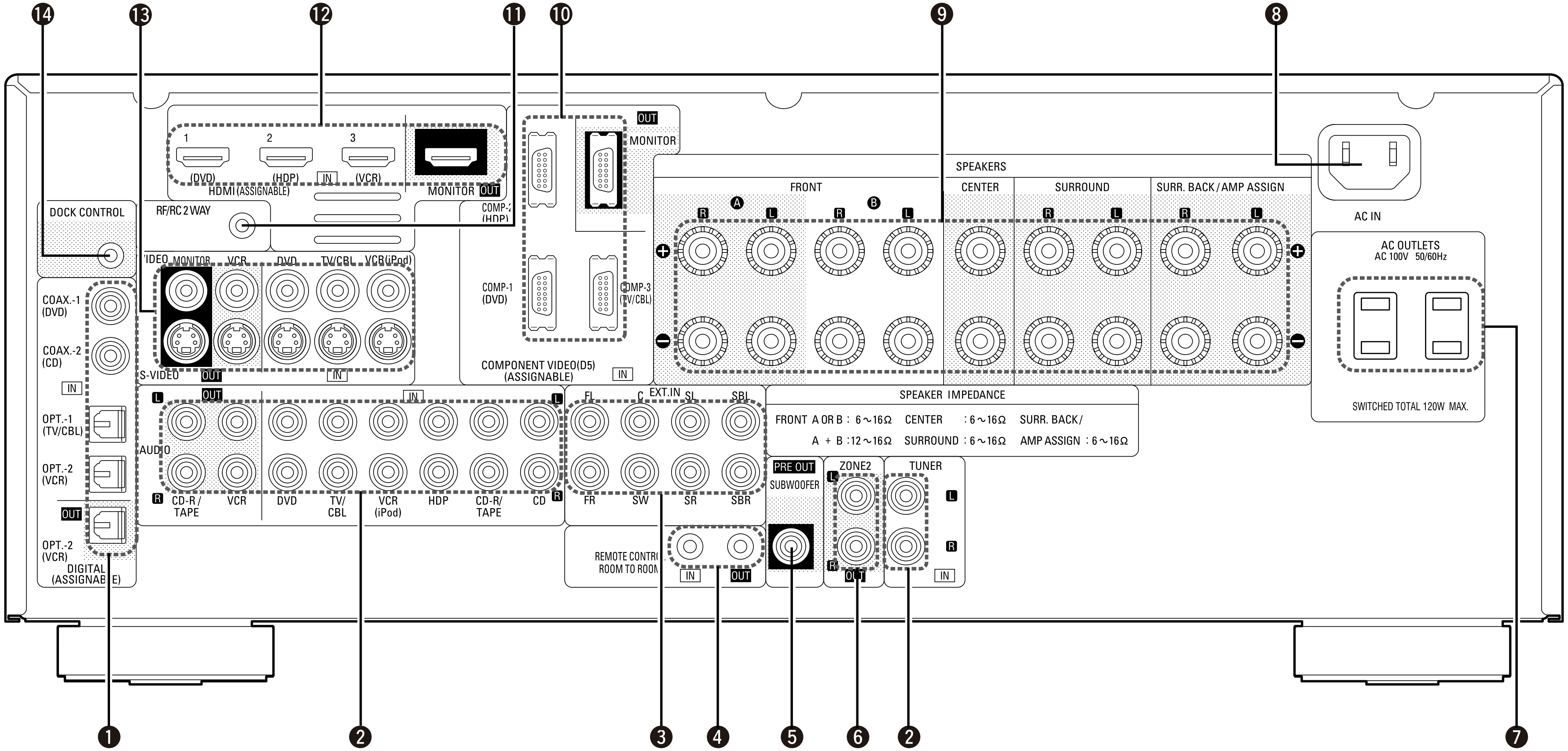
⓫ **NIGHT 表示**
ナイトモード選択時に点灯します。

⓬ **RESTORER 表示**
RESTORER モード選択時に点灯します。

⓭ **HDMI 表示**
HDMI 接続で再生しているときに点灯します。

⓮ **デコーダー表示**
各デコーダー動作時に点灯します。

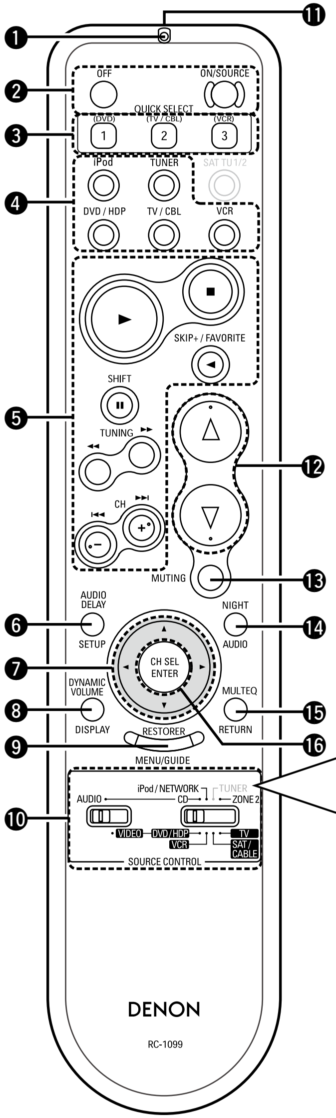
リアパネル



❶ デジタル音声端子（OPTICAL/COAXIAL）……………………（15、16）
❷ アナログ音声端子（AUDIO）…………（15 ～ 17）
❸ 外部入力端子（EXT. IN）……………………………（17）
❹ リモートコントロール端子（REMOTE CONTROL）……………………………（18）
❺ プリアウト端子（PRE OUT）……………………（13）
❻ ゾーン 2 端子（ZONE2）……………………………（18）
❼ AC アウトレット（AC OUTLETS）…………（18）
❽ AC インレット（AC IN）……………………………（18）
❾ スピーカー端子（SPEAKERS）…………………（13）
❿ コンポーネント / D5 ビデオ端子 ……（15、16）
⓫ RF/RC 2WAY 端子 ………………………………（18）
⓬ HDMI 端子……………………………………（14 ～ 16）
⓭ ビデオ / S ビデオ端子（VIDEO/S-VIDEO）…………………………（15、16）
⓮ ドックコントロール端子（DOCK CONTROL）………………………………（16）

リモコン

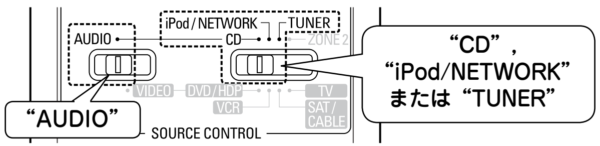
【前面】



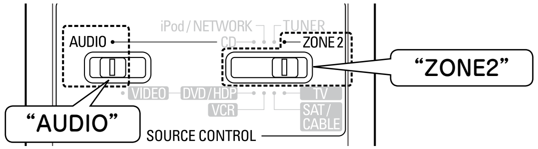
❶ 送信表示…………(55)
❷ 電源ボタン…………(48)
❸ クイックセレクトボタン
(QUICK SELECT)…………(48、53)
❹ 入力ソース選択ボタン…………(49)
❺ システムボタン…………(51)
❻ オーディオディレイボタン
(AUDIO DELAY)…………(46)
❼ カーソルボタン（△▽◁ ▷）…………(19)
❽ DYNAMIC VOLUME ボタン…………(44)
❾ RESTORER ボタン…………(45)
❿ ソースコントロールスイッチ
(SOURCE CONTROL)…………(19、55)
⓫ リモコン信号送信窓
⓬ 主音量調節ボタン…………(49)
⓭ ミューティングボタン（MUTING）…………(49)
⓮ ナイトボタン（NIGHT）…………(45)
⓯ MULTEQ ボタン…………(43)
⓰ チャンネル切り替えボタン（CH SEL）／
エンターボタン（ENTER）…………(40)

SOURCE CONTROL スイッチの設定と操作できるボタンについて

❑ メインゾーンを操作する場合



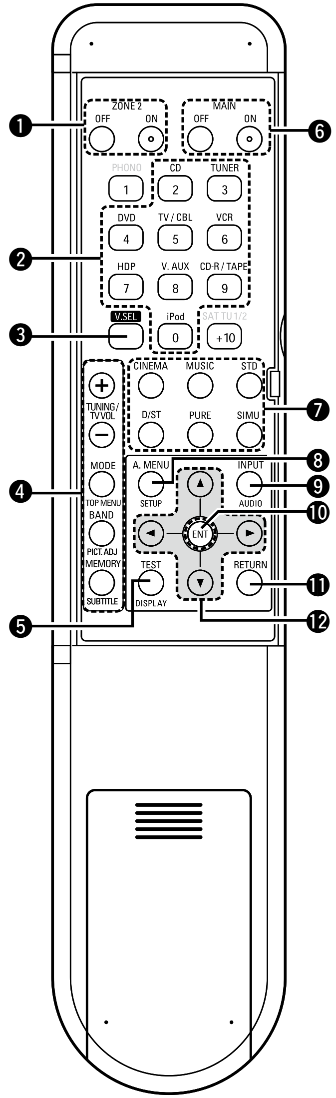
❑ ゾーン 2 を操作する場合



ご注意

この設定では、ゾーン2用のボタンのみ操作できます。
操作できるボタンについては、60ページをご覧ください。

【裏面】



❶ ゾーン 2 用電源ボタン（ZONE2）…………(60)
❷ 入力ソース選択ボタン…………(48)
❸ ビデオセレクトボタン（V.SEL）…………(35)
❹ システムボタン…………(57)
❺ テストトーンボタン（TEST）…………(27)
❻ メインゾーン用電源ボタン（MAIN）…………(60)
❼ サラウンドモードボタン…………(38)
❽ アンプメニューボタン（A. MENU）…………(19)
❾ 入力モードボタン（INPUT）…………(36)
❿ エンターボタン（ENT）…………(19)
⓫ リターンボタン（RETURN）…………(19)
⓬ カーソルボタン（△▽◁ ▷）…………(19)

ご注意

- **SAT TU 1/2** ボタンおよび **SOURCE CONTROL 2** スイッチの"TUNER"は使用できません。
- 前面または裏面のボタンを強く押すと、それぞれの反対側のボタンも一緒に動作してしまう場合がありますので、ご注意ください。

接続のしかた

この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法をお選びください。
接続方法によっては、本機の設定が必要なものもあります。詳しくは、各接続項目の説明をご覧ください。

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

準備

接続に使用するケーブル

ご使用になる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

音声ケーブル

同軸デジタル接続

（オレンジ）

同軸デジタル（75 Ωピンプラグ）ケーブル

光デジタル接続


光伝送ケーブル

アナログ接続（ステレオ）

（白）
（赤）


ステレオピンプラグケーブル

アナログ接続（モノラル、サブウーハー用）

（黒）

ピンプラグケーブル

スピーカー接続



スピーカーケーブル

映像ケーブル

コンポーネントビデオ接続


D 端子用ビデオケーブル

S ビデオ接続


S ビデオケーブル

ビデオ接続

（黄）

映像用 75 Ωピンプラグケーブル

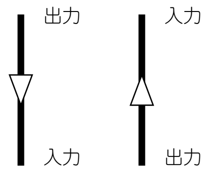
音声 & 映像ケーブル

HDMI 接続

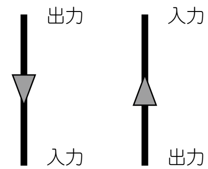

19 ピン HDMI ケーブル

信号方向

音声信号：



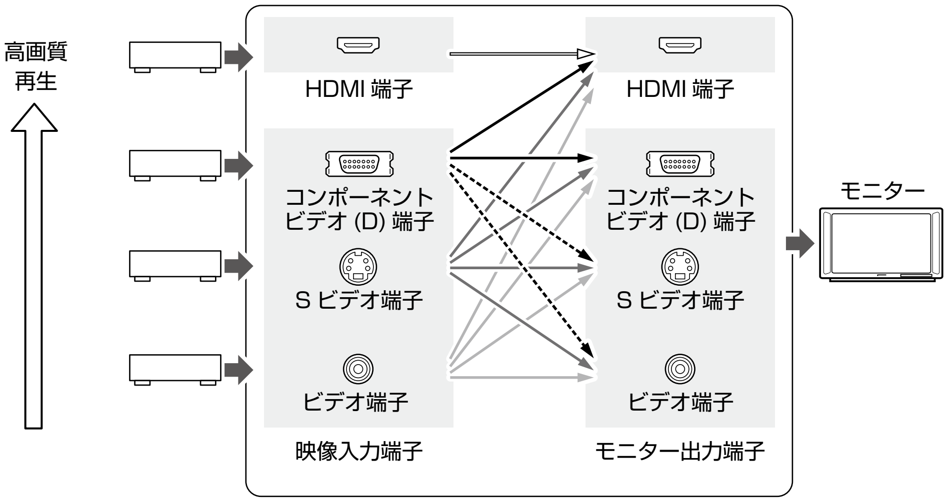
映像信号：



ビデオコンバージョン機能

- この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からモニターに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです。
- 本機の映像入出力は、次の 4 つの映像信号に対応しています。
  デジタル映像信号：HDMI
  アナログ映像信号：コンポーネントビデオ、S ビデオ、ビデオ

【本機内部での映像信号の流れ】



----：入力信号が 480i/576i の場合

- この機能を使用しない場合は、映像入力端子と同じ種類の端子からモニターへ出力してください。
- 本機と接続している HDMI 入力対応モニターの解像度は、メニューの“Information”-“HDMI Information”で確認できます（☞47 ページ）。

ご注意

- HDMI 信号は、アナログ信号に変換できません。
- コンポーネントビデオ入力の 1080p の信号は、コンポーネントビデオ以外の端子には出力できません。
- コンポーネントビデオ入力の 480p/576p、1080i および 720p の信号は、S ビデオ / ビデオ信号に変換できません。
- ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。

入力信号によるオンスクリーンディスプレイ表示について

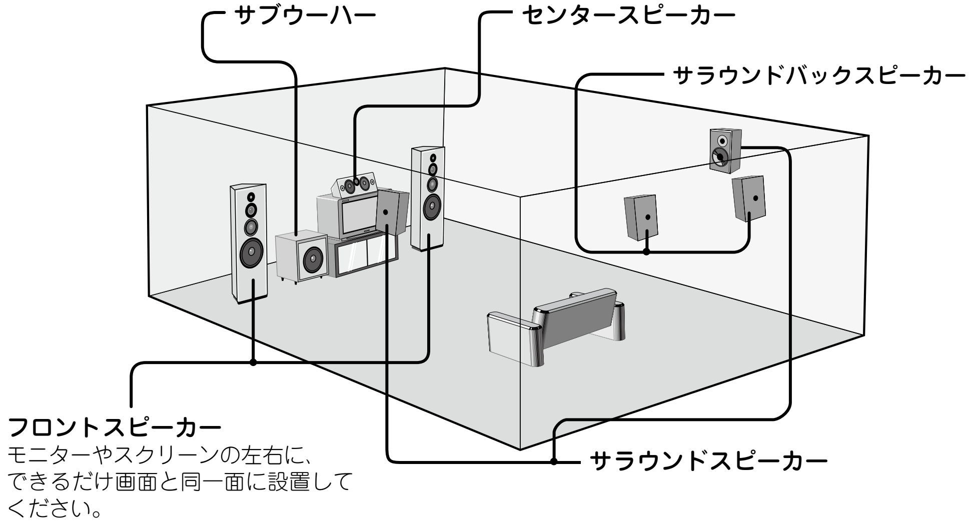
本機に入力するビデオ信号の種類によって、オンスクリーンディスプレイ（OSD）表示のしかたが異なります。

使用しているビデオ入力	メニュー表示	操作時の一時的な状態表示（入力ソースや音量を切り替えたときの表示など）
HDMI端子、コンポーネント端子	OSDのみを表示	表示しません
Sビデオ端子、ビデオ端子	入力画像にOSDを重ねて表示	表示します

スピーカーの接続

スピーカーの設置

下図は、スピーカー（8台）とモニターを組み合わせた基本的な設置例(7.1チャンネル)です。

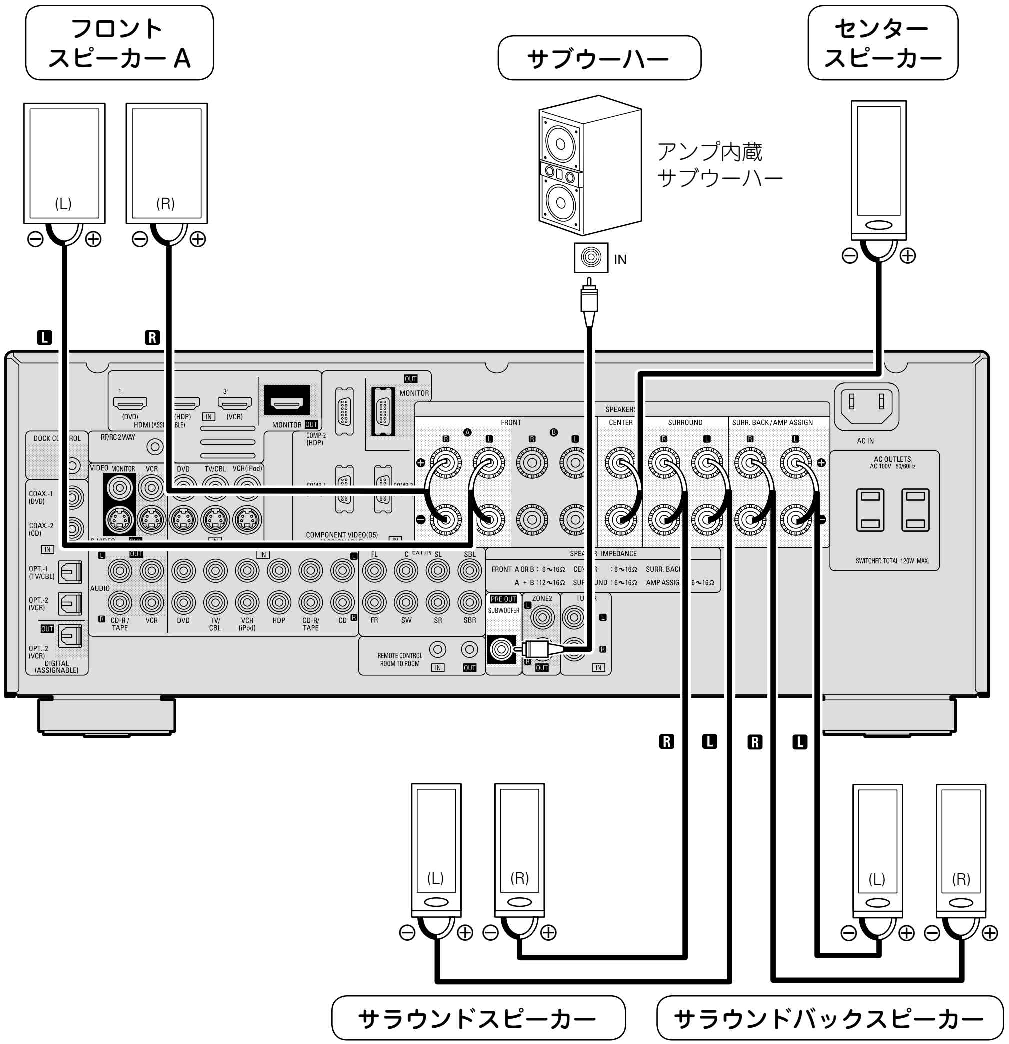


以下の表は、本機が対応している代表的なスピーカー構成です。

	フロントA/B		センター	サラウンド		サラウンドバック			サブウーハー
	L	R		L	R	L	R	1本のみ	
7.1チャンネル	○	○	○	○	○	○	○	–	○
6.1チャンネル	○	○	○	○	○	–	–	○	○
5.1チャンネル	○	○	○	○	○	–	–	–	○
3.1チャンネル	○	○	○	–	–	–	–	–	○
2.1チャンネル	○	○	–	–	–	–	–	–	○
2チャンネル	○	○	–	–	–	–	–	–	–

スピーカーの接続

【例】5.1/7.1 チャンネル



7.1 チャンネル使用時に接続します。

ご注意

サラウンドバックスピーカー：

- サラウンドバックスピーカーを1本のみお使いになる場合は、左チャンネル（SBL）に接続してください。

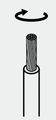
ゾーン 2 スピーカー：

- ゾーン 2 でサラウンドバックスピーカーから音声を出力する場合は、メニューの“Manual Setup”–“Option Setup”–“Amp Assign”を、“ZONE2”に設定してください。マルチゾーンで再生をおこなう場合は、「アンプアサインの設定と接続について」をご覧ください（☞58 ～ 60 ページ）。

スピーカーケーブルを接続する

本機とご使用になるスピーカーの左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、＋（赤）、－（黒）をよく確認して、同じ極性を接続してください。

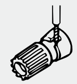
1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。



2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

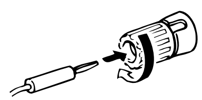


4 スピーカー端子を右に回してしめる。



バナナプラグを使用する場合

スピーカー端子を強くしめてから、バナナプラグを差し込む。



ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが 6 ～ 16 Ωのものをお使いください。また、フロントスピーカー A/B を同時に使用する場合は、12 ～ 16 Ωのものをお使いください。
- スピーカーケーブルは、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します（☞「保護回路について」）。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

保護回路について

芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作して電源表示が約 0.5 秒間隔で赤色に点滅します。

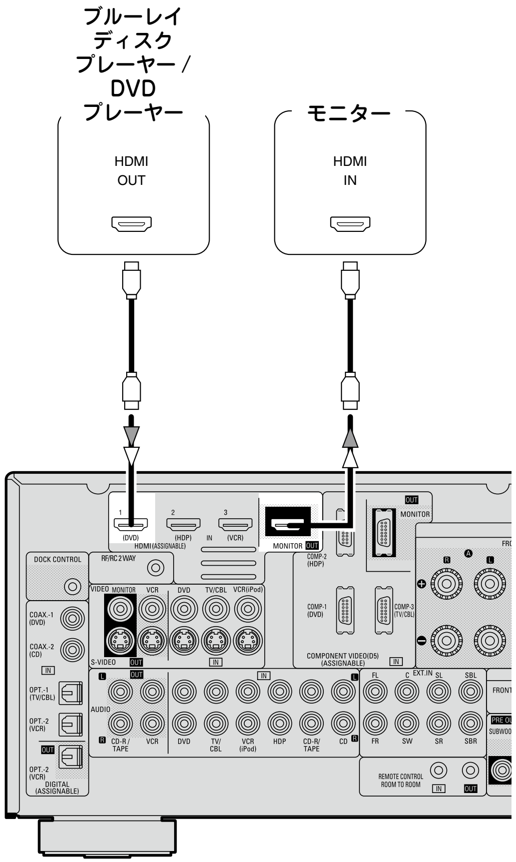
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源はスタンバイ状態になります。電源を切るか、電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの接続を確認してください。

また、指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例：4 Ω）を使用して大音量で再生すると、本機の温度が上昇して、保護回路が動作する場合があります。電源はスタンバイ状態になり、電源表示が約 2 秒間隔で赤色に点滅します。この場合は、電源を切って、周囲の通風状態を良くして、本機が冷えるのをお待ちください。

周囲の通風や接続に問題がないのにも関わらず保護回路が動作する場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で当社の修理相談窓口にご連絡ください。

HDMI 端子付き機器

HDMIで接続する場合は、映像および音声をHDMIケーブル1本で伝送することができます。



●お買い上げ時の設定では、HDMI 音声は本機に接続されているスピーカーから出力されます。
●テレビから音声を出力する場合は、メニューの“Manual Setup”-“HDMI Setup”-“HDMI Audio Out”-“TV”の設定をおこなってください（☞28 ページ）。

※ 本機は、HDMI のバージョン 1.3a に対応しています。他のバージョンとは互換性がありますので、HDMI 端子を装備した機器と接続してご使用いただけます。
※ 本機は、30 ビットと 36 ビットの Deep Color、xvYCC および Auto Lipsync に対応しています。

対応する音声フォーマット	詳　細	ディスク（例）
2 チャンネル リニア PCM	2ch 32-192kHz 16/20/24bits	CD、DVD-Video、 DVD-Audio
マルチチャンネル リニア PCM	8ch 32-192kHz 16/20/24bits	DVD-Audio、 Blu-ray
Dolby Digital、 DTS	ビットストリーム	DVD-Video
Dolby Digital Plus、 Dolby TrueHD、 DTS-HD	ビットストリーム	Blu-ray

HDMI/DVI 変換ケーブル（アダプター）で接続する場合

● HDMI の映像信号は、DVI と原理的に互換性があります。
DVI-D 端子付きモニターなどに接続する場合は、HDMI/DVI 変換ケーブルで接続できますが、機器の組み合わせによっては映像が出力されない場合があります。
● HDMI/DVI 変換アダプターを使用して接続する場合、接続したケーブルとの接触不良などにより映像が正しく出力されない場合があります。

著作権保護システム（HDCP）

HDMI/DVI 接続を通して DVD ビデオや DVD オーディオのデジタル映像と音声を再生する場合は、接続されたブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーとモニターの双方が HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。
HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。
本機は HDCP に対応しています。ご使用になるブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーまたはモニターについては、各機器の取扱説明書をご覧ください。

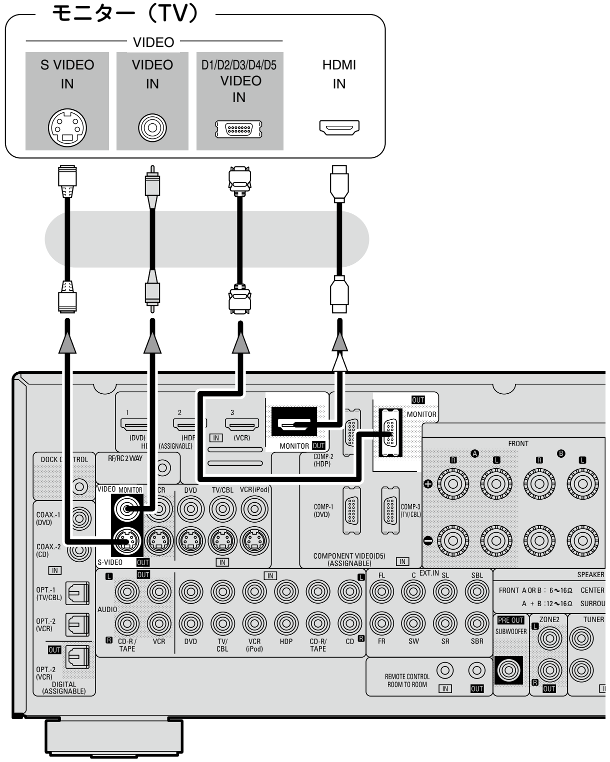
ご注意

●HDMI 端子から出力される音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、接続する機器により制限される場合があります。
●HDCP に対応していない機器をご使用の場合は、映像が正しく出力されません。
●入力された映像信号とモニターの解像度が合っていない場合は、映像が出力されません。このような場合は、ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの解像度をモニターが対応している解像度に合わせてください。
●メニューの“Manual Setup”-“HDMI Setup”-“HDMI Audio Out”の設定（☞28 ページ）が“AMP”のときにモニターの電源を切ると、音声が途切れる場合があります。
●HDMI 端子の接続には、HDMI ロゴが表記されているケーブル（HDMI 認証品）をお使いください。HDMI ロゴが表記されていないケーブル（HDMI 非認証品）を使用すると、正しく再生できない場合があります。
●モニターまたはブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーが Deep Color に対応していない場合は、Deep Color での伝送ができません。
●モニターまたはブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーが xvYCC に対応していない場合は、xvYCC での伝送ができません。
●モニターが Auto Lipsync に対応していない場合、オートリップシンク補正機能は動作しません。
●本機は HDMI の CEC（Consumer Electronics Control）機能に対応しています。次の点にご注意ください。
・接続する機器や設定によって、動作しない場合があります。
・HDMI の CEC 機能に対応していないテレビやプレーヤーは操作できません。

●本機とブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーを HDMI ケーブルで接続した場合は、本機とモニターも HDMI ケーブルで接続してください。
●接続するモニターまたはブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーが DVI-D 端子のみ対応の場合は、HDMI/DVI 変換ケーブルをお使いください。**DVI ケーブルをお使いの場合、音声信号は伝送されません。**
●Deep Color 対応の機器と接続する場合は、Deep Color 対応のケーブルをお使いください。

モニターの接続

- お使いになる端子を選んで接続してください（☞12 ページ「ビデオコンバージョン機能」）。
- HDMI で接続する場合は、映像および音声を HDMI ケーブル 1 本で伝送することができます。
- HDMI 接続したテレビから音声を再生する場合は、メニューの “Manual Setup” - “HDMI Setup” - “HDMI Audio Out” を “TV” に設定してください。



- モニターによって、コンポーネントビデオ端子の表示が異なります。詳しくは、モニターの取扱説明書をご覧ください。
- 本機の D 端子は、D1 〜 D5（480i、480p、1080i、720p、1080p）の映像端子に対応しています。
- 本機の D 端子をコンポーネント変換ケーブルで接続した場合、D 端子から入力された解像度などの識別信号は出力されません。

ご注意

HDMI 入力端子から音声信号が入力された場合のみ、HDMI モニター出力端子から音声を出力します。

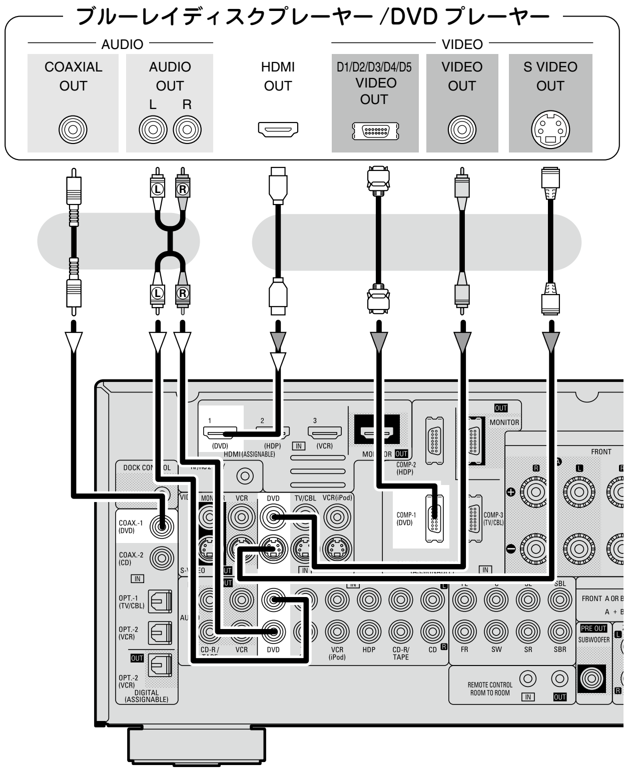
再生機器の接続

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）を確認してから、正しく接続してください。

ブルーレイディスクプレーヤー / DVD プレーヤー

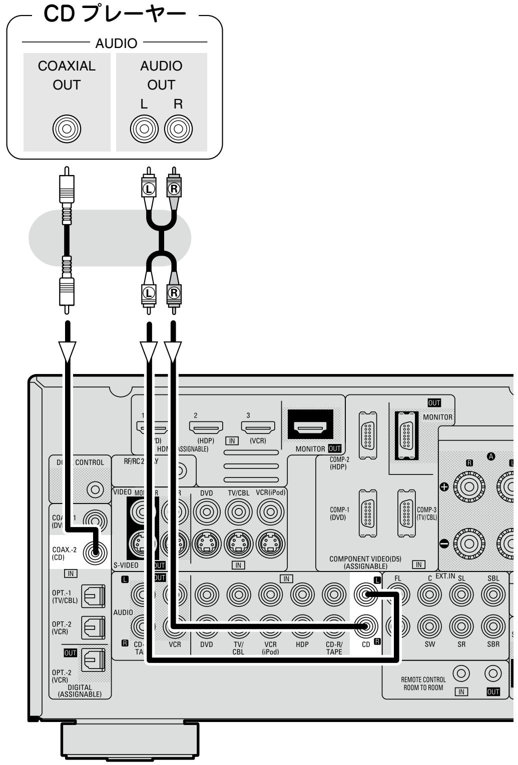
お使いになる端子を選んで接続してください。

※ 本機をブルーレイディスクプレーヤーと接続して Dolby TrueHD、DTS-HD または Dolby Digital Plus を再生する場合は、HDMI 接続をしてください。



デジタル音声の接続に光伝送ケーブルをお使いになる場合は、メニューの “Input Setup” - “Assign” - “Digital In” の設定をおこなってください（☞35 ページ）。

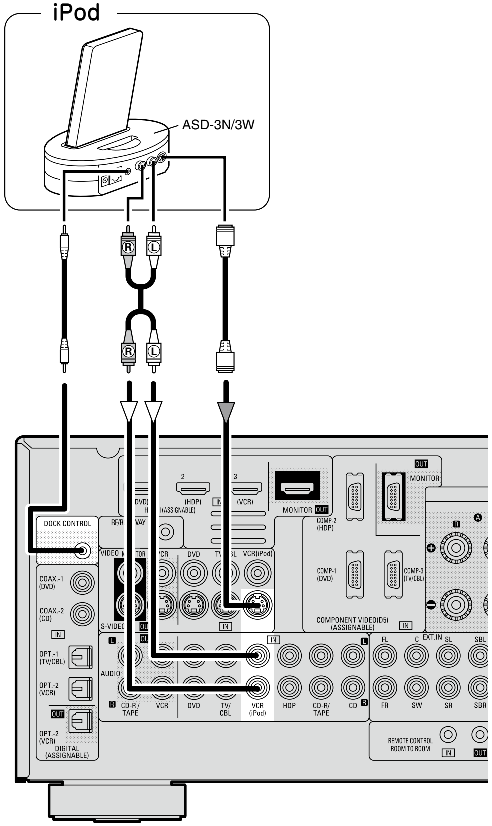
CD プレーヤー



デジタル音声の接続に光伝送ケーブルをお使いになる場合は、メニューの “Input Setup” - “Assign” - “Digital In” の設定をおこなってください（☞35 ページ）。

iPod®

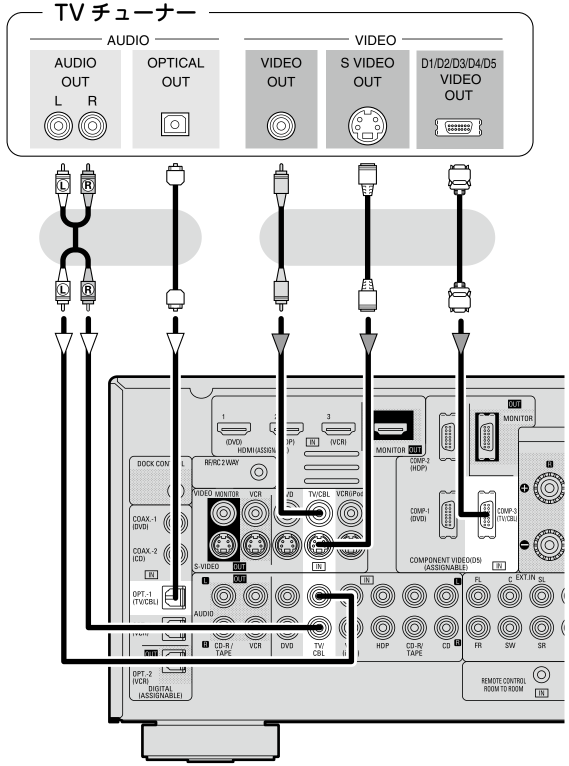
本機と iPod の接続には、DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W、別売り）をお使いください。この場合、iPod 用コントロールドック側の設定も必要です。詳しくは、iPod 用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。



- お買い上げ時の設定では、iPod を VCR（iPod）端子に接続してお使いいただけます。
- iPod を VCR（iPod）端子以外に割り当てたい場合は、iPod Dock を割り当てたい入力ソースで、メニューの "Input Setup" – "Assign" – "iPod Dock" の設定をおこなってください（☞35 ページ）。

TV チューナー

お使いになる端子を選んで接続してください。



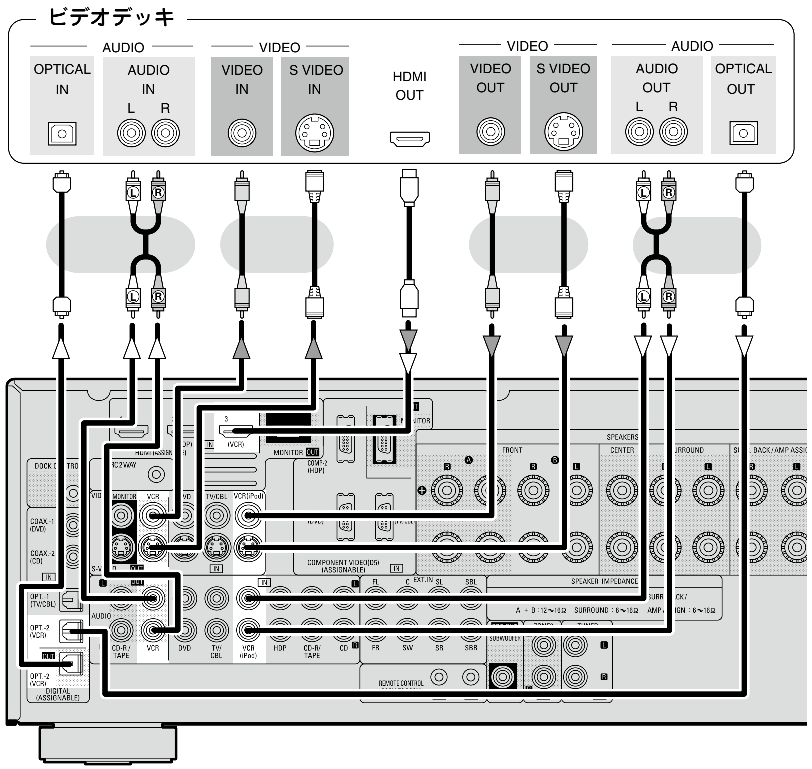
デジタル音声の接続に同軸デジタル（75 Ω ピンプラグ）ケーブルをお使いになる場合は、メニューの "Input Setup" – "Assign" – "Digital In" の設定をおこなってください（☞35 ページ）。

録音 / 録画機器の接続

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）を確認してから、正しく接続してください。

ビデオデッキ

お使いになる端子を選んで接続してください。



- 本機を通して録音する場合は、再生機器のケーブルの種類を本機の VCR 出力端子に接続するケーブルの種類と同じにする必要があります。

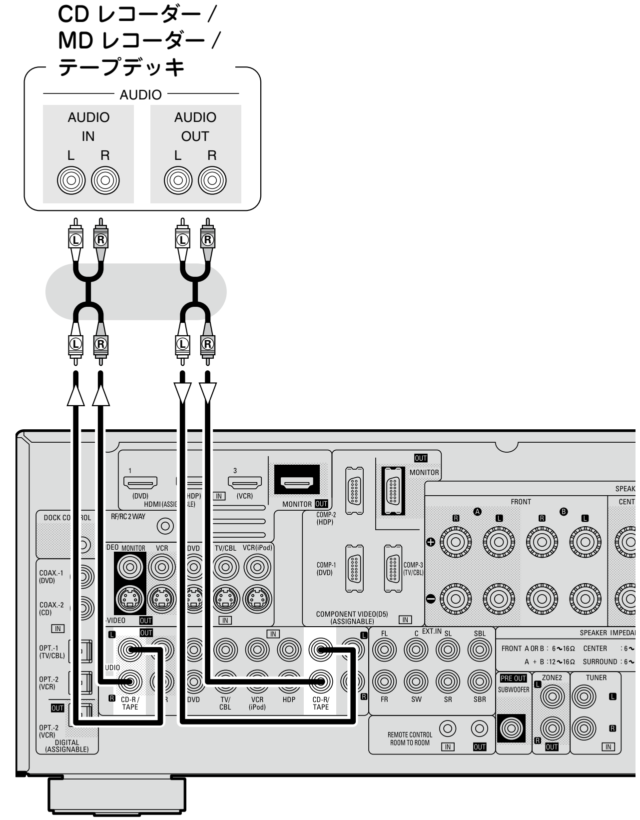
【例 1】 TV 入力 → S ビデオケーブル：
VCR 出力 → S ビデオケーブル

【例 2】 TV 入力 → 映像用 75 Ω ピンプラグケーブル：
VCR 出力 → 映像用 75 Ω ピンプラグケーブル

- 映像の接続に D 端子用ビデオケーブルをお使いになる場合は、メニューの "Input Setup" – "Assign" – "Component In" の設定をおこなってください（☞35 ページ）。

CD レコーダー /MD レコーダー / テープデッキ

お使いになる端子を選んで接続してください。

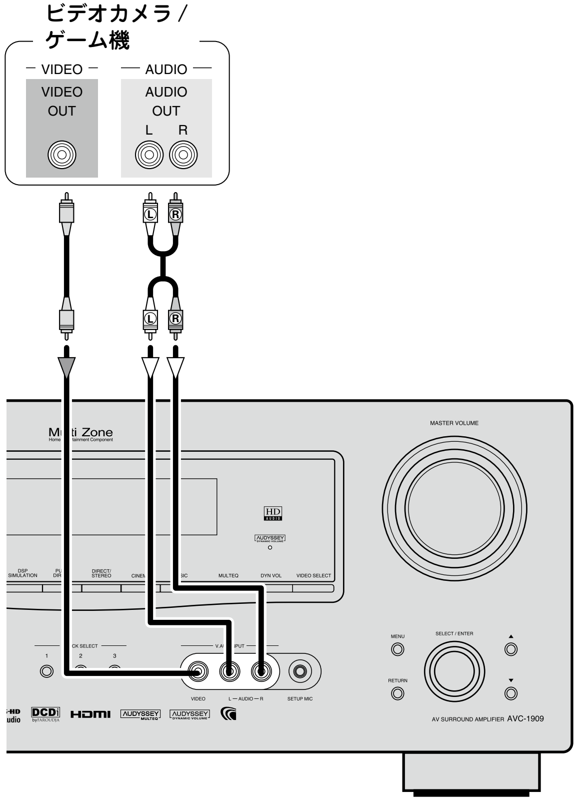


お使いになる機器の端子に合わせて、アナログ音声を録音する場合はアナログ接続を、デジタル音声を録音する場合はデジタル接続をしてください。

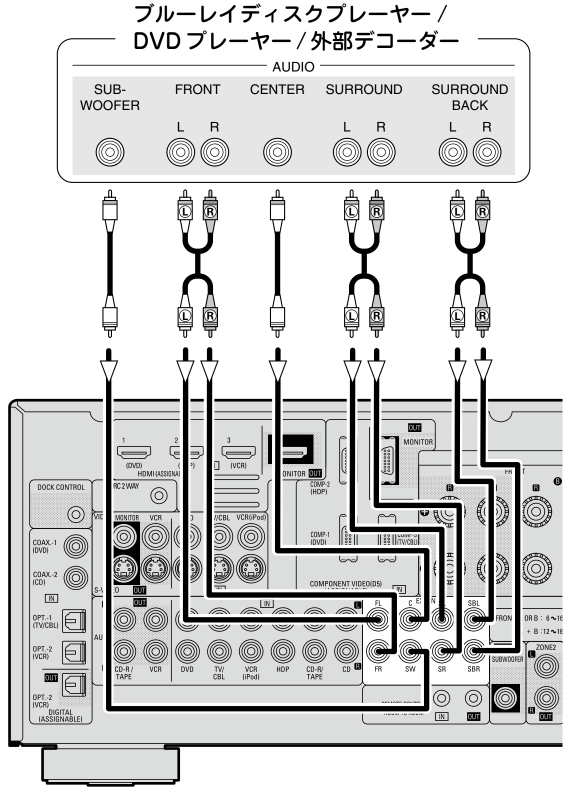
その他の機器の接続

左チャンネル（L)、右チャンネル（R)、入力（IN)、出力（OUT）を確認してから、正しく接続してください。

ビデオカメラ / ゲーム機



マルチチャンネル出力端子がある機器

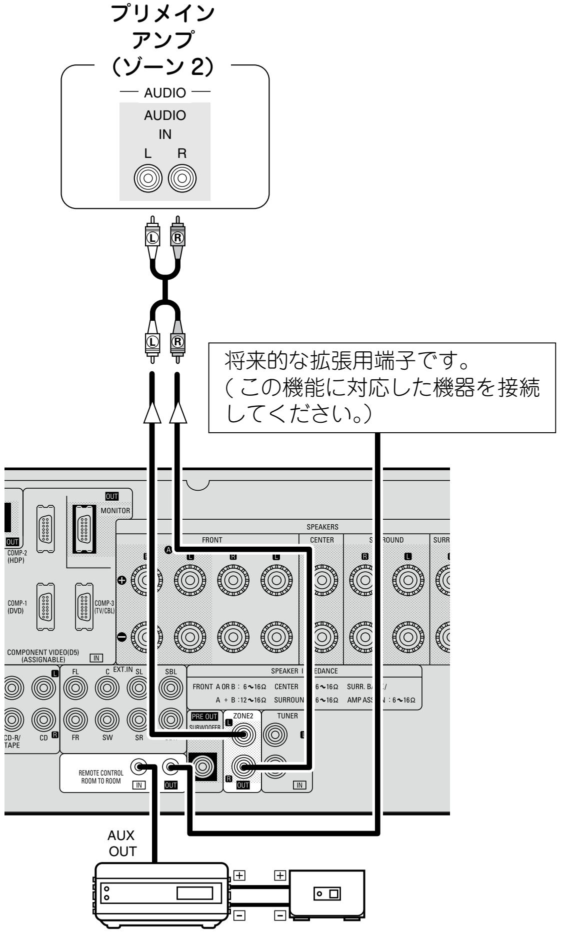


- ハイビジョン（MUSE 3-1 方式）を接続するとき、サラウンドチャンネル出力がモノラルの場合には、別売りのモノ / ステレオケーブルをお使いください。
- 外部入力（EXT. IN）端子に入力されたアナログ入力信号を再生する場合は、本体の **INPUT MODE** ボタンまたはリモコンの **INPUT** ボタンを押して“EXT. IN”を選ぶか、メニューの“Input Setup”–“Input Mode”–“Input Mode”–“EXT. IN”の設定をおこなってください（☞36 ページ）。
- 映像信号はブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーと同じ方法で接続することができます（☞15 ページ）。
- 著作権保護がかかったディスクを再生する場合は、本機の外部入力 (EXT. IN) 端子とブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーのアナログマルチチャンネル出力端子を接続してください。

マルチゾーン

ゾーン 2 出力の接続

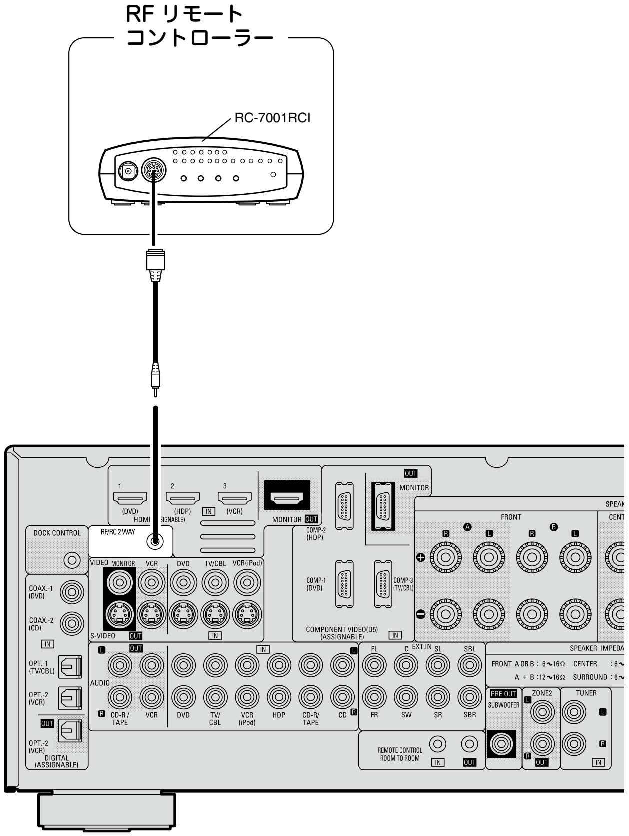
本機にプリメインアンプを接続すると、メインゾーンとゾーン 2 で別のプログラムソースを同時に楽しむことができます（☞58 ～ 60 ページ）。



ご注意

- 音声出力については、誘導ハム音や雑音がないように高品質のピンプラグケーブルをお使いください。
- 別売りの機器の設置や操作については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- マルチゾーンで再生をおこなう場合は、「アンプアサインの設定と接続について」をご覧ください（☞58 ～ 60 ページ）。

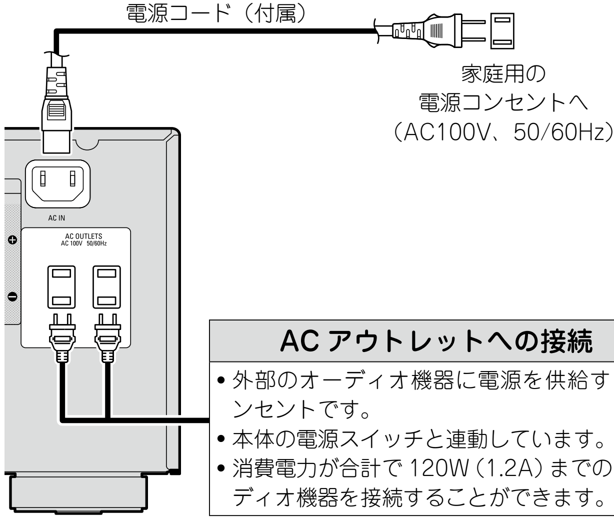
外部のコントロール機器



- 本機を RF リモートコントローラー（RC-7000CI、別売り）や RF リモートレシーバー（RC-7001RCI、別売り）と組み合わせてお使いになると、本機とリモートコントローラーとの間で双方向通信ができます。本機のステータス情報や iPod のブラウズを、RF リモートコントローラーのディスプレイを見ながら操作できます。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- RF リモートコントローラーや RF リモートレシーバーと組み合わせてお使いになる場合は、メニューの“Manual Setup”–“Option Setup”–“2Way Remote”–“Used”の設定をおこなってください（☞33 ページ）。

電源コードの接続

すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。



AC アウトレットへの接続

- 外部のオーディオ機器に電源を供給するコンセントです。
- 本体の電源スイッチと連動しています。
- 消費電力が合計で 120W（1.2A）までのオーディオ機器を接続することができます。

ご注意

- 電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- AC アウトレットへは、オーディオ機器の電源プラグを差し込んでください。ドライヤーなどオーディオ機器以外の電源としては使用しないでください。

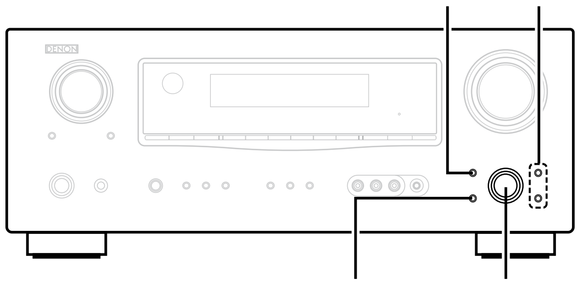
接続が終わったら

電源を入れる（☞48 ページ）

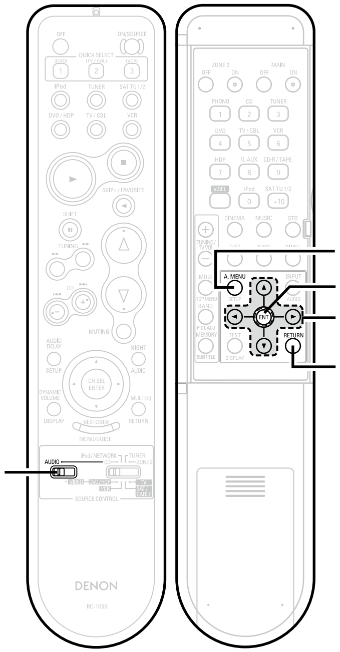
メニュー操作

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**



【前 面】　【裏 面】



本機では、ほとんどの機能の設定や操作を、モニター画面に表示されたメニューで操作することができます。

メニューの操作のしかた

本体でもリモコンでも同じ操作ができます。

1 **<MENU> または [A.MENU] を押す。**
メニューを表示します。

※ リモコンで操作する場合は、**[SOURCE CONTROL 1]** を“AUDIO”に設定してください（☞55ページ）。

2 **△▽を押して、設定/操作したいメニューを選び、ENTER を押す。**

3 **△▽を押して、設定/操作したい項目を選び、ENTER を押す。**

4 **設定を変更する場合は、△▽で変更したい項目を選び、◁▷で設定を変更する。**

※ 前の項目に戻る場合は、**RETURN** を押してください。
※ “Default Yes”を選んだ後に ◁ を押すと、お買い上げ時の設定に戻ります。

5 **ENTER を押して、設定を確定する。**

6 **<MENU> または [A.MENU] を押して終了する。**

✎

<MENU> または **[A.MENU]** ボタンを押すと、それまでに設定した内容を確定して、設定メニューを解除します。

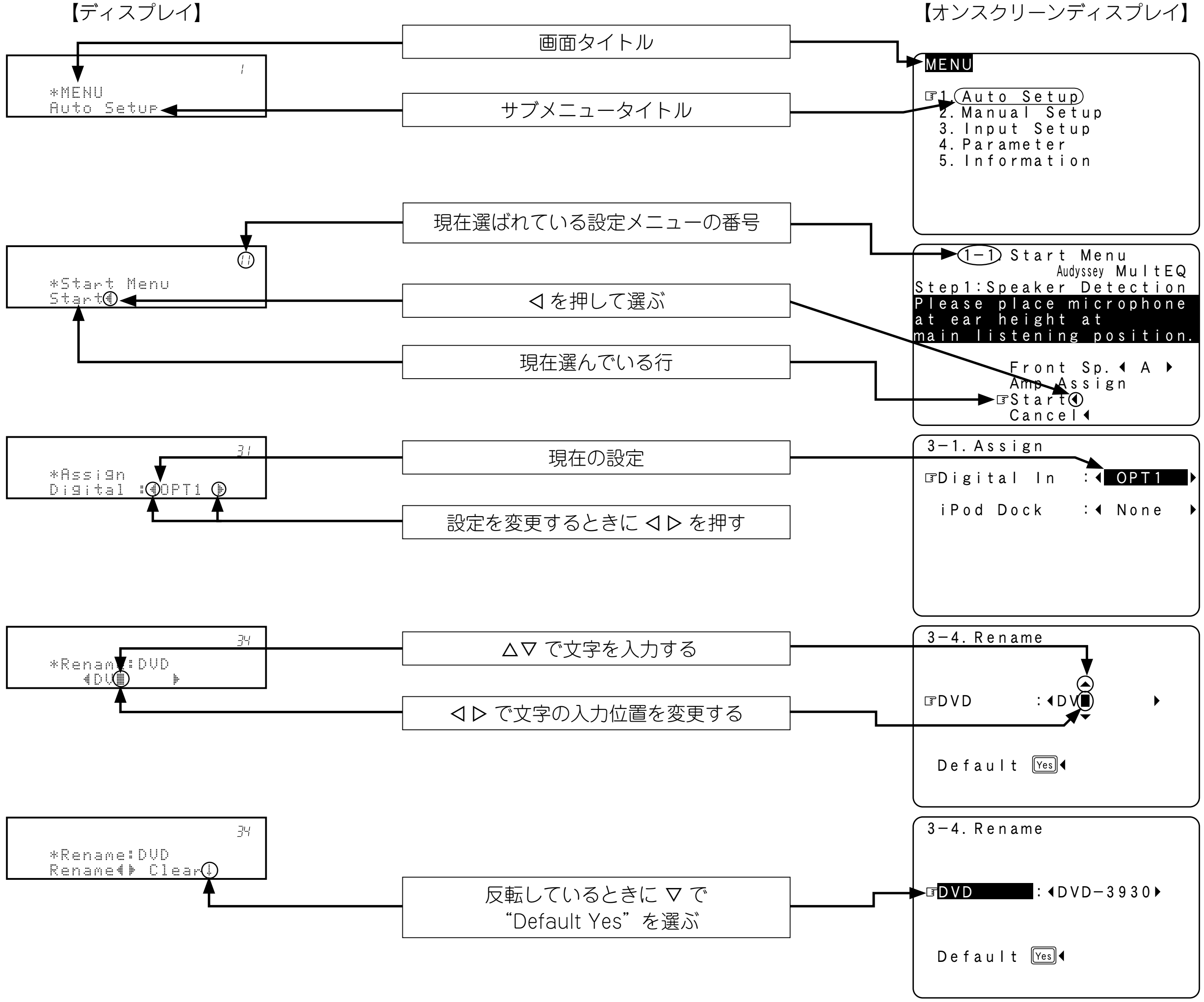
お買い上げ時の設定（初期設定）の表示例

枠線が付いている項目は、お買い上げ時の設定項目または設定値です。

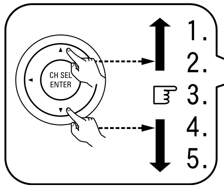
【選択できる項目】 **A** **B** **A + B**

オンスクリーンディスプレイとディスプレイ表示例

代表的な例を説明します。



メニューマップ



MENU

1. Auto Setup
2. Manual Setup
3. Input Setup
4. Parameter
5. Information

Auto Setup（オートセットアップ）（☞22～25ページ）

❑ Start Menu
- Step 1: Speaker Detection
- Step 2: Measurement
- Step 3: Calculation
- Step 4: Check
- Step 5: Store

❑ Parameter Check
- Speaker Configuration Check
- Distance Check
- Channel Level Check
- Crossover Frequency Check
- EQ Check
- Restore

Manual Setup（マニュアル設定）（☞26～33ページ）

❑ Speaker Setup （☞26～28ページ）
- Speaker Configuration
- Subwoofer Setup
- Distance
- Channel Level
- Crossover Frequency
- Front Speaker Setup

❑ HDMI Setup （☞28、29ページ）
- Color Space
- RGB Range
- Auto Lipsync
- HDMI Audio Out
- HDMI Control
- Power Off Control

❑ Audio Setup （☞29、30ページ）
- EXT. IN Subwoofer Level
- 2ch Direct/Stereo
- Dolby Digital Setup
- Auto Surround Mode
- EQ Preset
- Bilingual Mode

❑ ZONE2 Setup （☞31ページ）
- Level Lch
- Level Rch
- Volume Limit
- Power On Level
- Mute Level

❑ Option Setup （☞31～33ページ）
- Amp Assign
- Volume Control
- Source Delete
- On-Screen Display
- Quick Select Name
- Remote ID Setup
- 2Way Remote
- Display
- Setup Lock

Input Setup（入力の設定）（☞34～37ページ）

❑ DVD, HDP, TV/CBL, VCR, V.AUX, TUNER, CD, CDR/TAPE
- Assign
- Video
- Input Mode
- Rename
- Source Level
- iPod

Parameter（パラメーター）（☞40～46ページ）

❑ Surround Parameter
- Mode
- Cinema EQ
- Dynamic Range Control
- Dynamic Range Compression
- LFE
- Center Image
- Panorama
- Dimension
- Center Width
- Delay Time
- Effect Level
- Room Size
- AFDM
- SB CH Out
- SUBWOOFER ATT
- Subwoofer

❑ Tone
- Tone Control
- Bass
- Treble

❑ Audyssey Settings
- MultEQ
- Dynamic EQ
- Dynamic Volume
- Setting

❑ RESTORER

❑ Night Mode

❑ Audio Delay

Information（情報）（☞46～48ページ）

❑ Status
- MAIN ZONE
- ZONE2

❑ Audio Input Signal

❑ HDMI Information

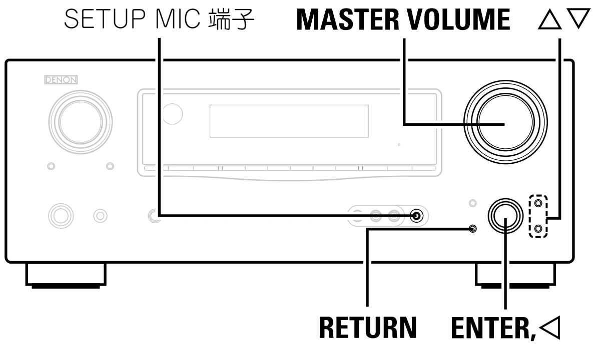
❑ Auto Surround Mode

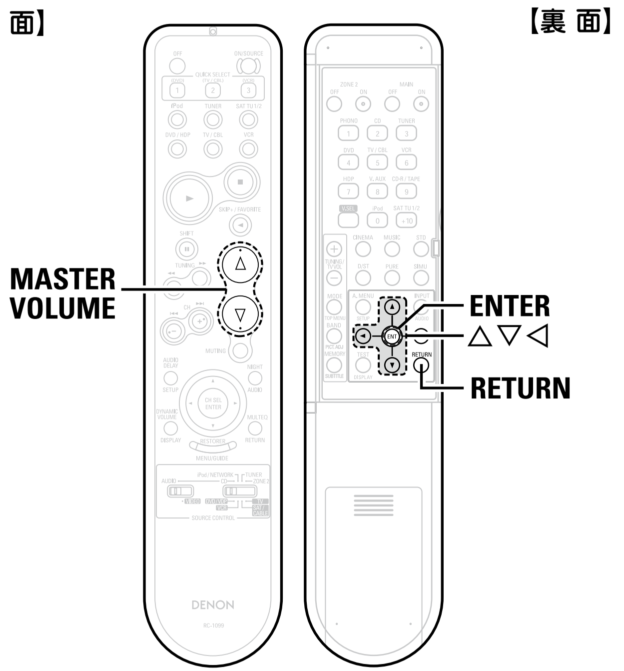
❑ Quick Select

Auto Setup（オートセットアップ）

取説中のボタン名の表示について

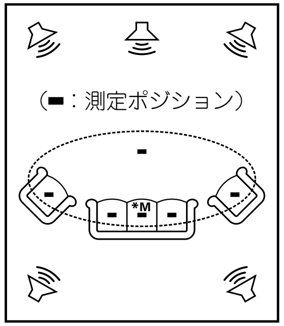
本体とリモコンの両方にあるもの	**BUTTON**
本体のみにあるもの	**<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの	**[BUTTON]**



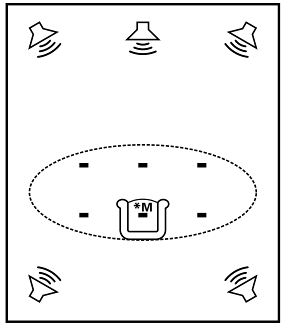


- 本機のオートセットアップ機能 Audyssey MultEQ® は、リスニングルームの音響特性の測定・解析・設定を自動的におこない、最適なホームシアターオーディオ環境を提供します。
- オートセットアップは付属のセットアップマイク（DM-A409）を使っておこないます。
- 測定は、【例①】に示すように、リスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを連続的に配置しておこないます。最善の結果を得るには、図のように 6 ポジションで測定することをおすすめします。
  リスニング環境が【例②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

【例①】



【例②】



メインリスニングポジション（*M）について
メインリスニングポジションとは、リスナーが一人のときに音場のほぼ中心に座る位置をいいます。Audyssey MultEQ はこの位置からの測定値を用いて、スピーカー距離、レベル、極性、およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

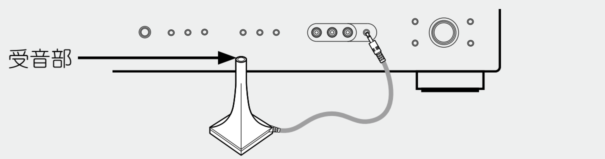


設定のマニュアル調節については、26 ～ 28 ページをご覧ください。

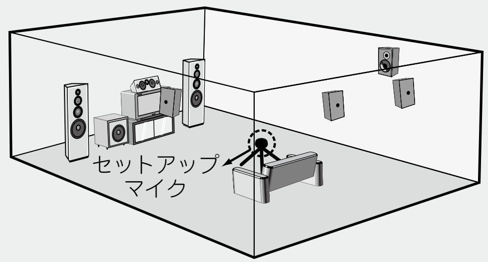
準備

1 付属のセットアップマイク（校正済み）を本機の SETUP MIC 端子に接続する。

自動的にオートセットアップ画面を表示します。



2 セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポジションに設置し、受音部を耳の高さにする。



※ セットアップマイクを手で持ちながらオートセットアップをおこなわないでください。
※ セットアップマイクと各スピーカーの間には障害になるものがないようにしてください。
※ セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

サブウーハーをお使いになる場合は、オートセットアップをおこなう前に、次の設定をおこなってください。

- ダイレクトモード機能を搭載しているサブウーハーの場合は、“オン”にして音量と周波数の調節を無効にしてください。
- ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合は、次のように設定してください。
  - ・音量　　　　　　　：“12 時”の位置
  - ・クロスオーバー周波数：“最大 / 最高周波数”
  - ・ローパスフィルター　：“オフ”
  - ・スタンバイモード　　：“オフ”

ご注意

- セットアップマイクは、オートセットアップが終わるまで抜かないでください。
- ヘッドホンを使用している場合は、オートセットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

Auto Setup

（オートセットアップ）

お使いになるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。

1 Start Menu（スタートメニュー）

自動的に設定をします。

【オートセットアップの流れ】

Step 1：Speaker Detection（スピーカー構成の検出）

↓

Step 2：Measurement（測定）

↓

Step 3：Calculation（解析）

↓

Step 4：Check（解析結果）

↓

Step 5：Store（保存）

ご注意

- オートセットアップの測定中に、大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。室内の騒音が大きいとさらにテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクとの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができなくなります。
- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯などの電化製品をオフにしてください。測定はこれらの騒音の影響を受けることがあります。
  測定中、携帯電話はリスニングルームとは別の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨害する原因になることがあります。
- 測定中に **MASTER VOLUME** を操作すると、測定を中止します。

オートセットアップについて

Audyssey MultEQオートセットアップ機能が、各スピーカーの有無やサイズ、チャンネルレベル、距離、クロスオーバー周波数の最適設定を自動的に計算します。また、Audyssey MultEQ がリスニングエリア内の音響歪みを補正します。
オートセットアップをはじめると、Audyssey MultEQ は各スピーカーからテストトーンを出力します。
スタートの前にすべてのスピーカーを接続し、設置してください。

※ オートセットアップをはじめる前に（☞①）

環境に合わせて必要であれば、以下の項目を設定してからおこなってください。

❑ Front Speaker（フロントスピーカー）

測定するフロントスピーカーをあらかじめ選びます。

【選択できる項目】

A	：フロントスピーカー A からテストトーンを出力します。
B	：フロントスピーカー B からテストトーンを出力します。
A + B	：フロントスピーカー A と B からテストトーンを出力します。

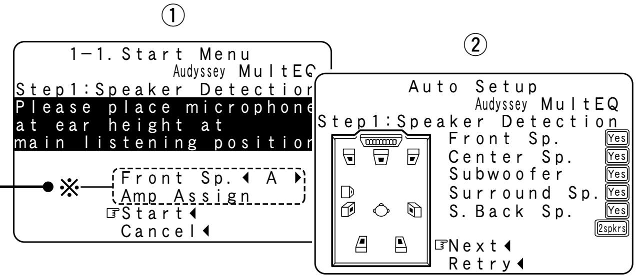
❑ Amp Assign（アンプの割り当て）

パワーアンプの割り当てを変更します。
サウンドバックスピーカーを、マルチゾーンやフロントチャンネルのバイアンプ用に使用することができます。（お買い上げ時の設定：7.1ch）
上級者向けの設定です（☞31ページ）。

Step 1 : Speaker Detection

（ステップ1：スピーカー構成の検出）

●メニュー画面●



スピーカーの接続の有無と極性を最初の測定位置（メインリスニングポジション）で検出し、スピーカーのサイズ・チャンネルレベル・距離・クロスオーバー周波数の測定をおこないます。

① “Start ◀” を選び、◁ を押す。
  ・メインリスニングポジションの測定をはじめます。

② “Next ◀” を選び、◁ を押す。

❑ オートセットアップをキャンセルするには

△▽ で “Cancel ◀” を選び、◁ を押す。

- 接続している状態と異なる結果が出た場合や、エラーメッセージが表示された場合は、「エラーメッセージ」（☞25 ページ）をご覧になり、▽ で “Retry ◀” を選んだ後に ◁ を押して、再びオートセットアップをおこなってください。
- 再測定後の結果も、接続している状態と異なる結果が出た場合や、再度エラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性がありますので、必ず一度本機の電源を切ってからスピーカーの接続を確かめて、最初から測定をやり直してください。

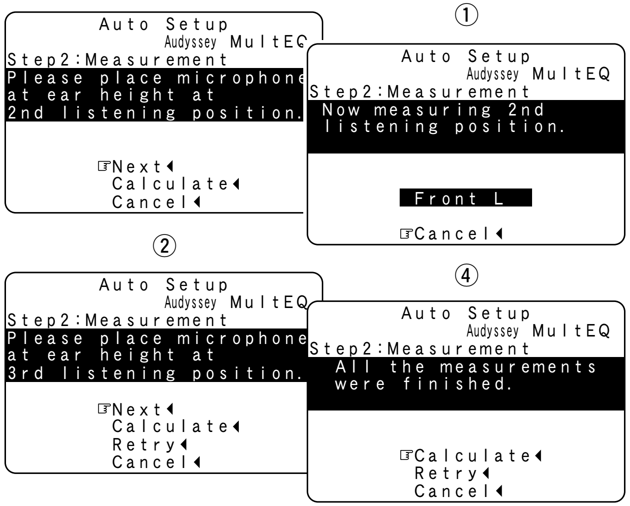
ご注意

“Step 1” の測定をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。

Step 2 : Measurement
（ステップ2：測定）

●メニュー画面●

① ① ② ④



① “Next ◀” を選び、◁ を押す。
- 2ポジション目の測定をはじめます。
- “Calculate ◀” を選んだ後に ◁ を押すと、Step 3へ進みます。

② セットアップマイクを3ポジション目に移動し、◁ を押す。
- 3ポジション目の測定をはじめます。
- “Calculate ◀” を選んだ後に ◁ を押すと、Step 3へ進みます。

③ 操作 ② をくり返して、4〜6ポジション目を測定する。

④ 6ポジションの測定が完了すると、オンスクリーンディスプレイに “All the measurements were finished.” を表示します。
- “Calculate ◀” を選んだ後に ◁ を押すと、Step 3へ進みます。

❑ オートセットアップをキャンセルするには

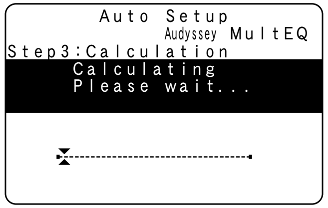
△▽ で “Cancel ◀” を選び、◁ を押す。

1 ポジション目の測定が完了したら、セットアップマイクを次の位置に移動してください。6 ポジション（メインリスニングポジションとその周囲の5 ポジション）で測定します。最善の結果を得るには、**6 ポジション**で測定することをおすすめします。

Step 3 : Calculation
（ステップ3：解析）

●メニュー画面●

①



得られた測定値を自動的に解析し、リスニングルームにおけるそれぞれのスピーカーの特性を決定します。

① Step 2 で “Calculate ◀” を選び、◁ を押す。
- 解析をはじめます。

- 解析には数分間かかります。
- 解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定ポジション数に依存します。スピーカー数が多ければ多いほど、解析に要する時間は長くなります。

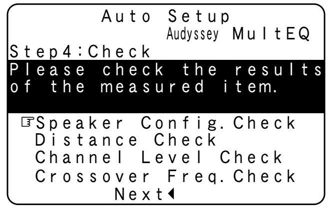
ご注意

- 測定をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの接続を変更しないでください。もし変更した場合は、オートセットアップを再度おこなってください。
- 例えば、スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適な EQ 補正を得るために、再度オートセットアップをおこなってください。

Step 4 : Check
（ステップ4：解析結果）

●メニュー画面●

①



解析が終わったら、次の 4 項目の解析結果を確認します。

① △▽ で選び、**ENTER** を押す。
- スピーカーの有無やサイズ
  “Speaker Config. Check”
- リスニングポジションからのスピーカーの距離
  “Distance Check”
- スピーカーのチャンネルレベル
  “Channel Level Check”
- クロスオーバー周波数
  “Crossover Freq. Check”

② ▽△ で各スピーカーの表示を切り替える。

③ **RETURN** を押す。
解析結果の項目に戻りますので、①の操作をくり返しおこなってください。

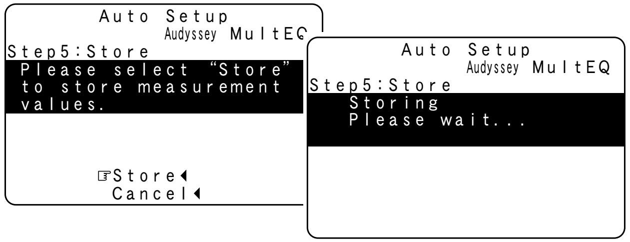
④ ▽ で “Next ◀” を選んだ後に ◁ を押すと、Step 5 へ進みます。

フィルター内蔵スピーカー（サブウーハーなど）では、実際の距離と異なる値が表示される場合があります。これは、フィルターが信号に電気的遅延を加えているためです。

Step 5 : Store
（ステップ5：保存）

●メニュー画面●

①



オートセットアップの測定結果を、本機に保存します。

① “Store ◀” を選び、◁ を押す。
- 保存中はオンスクリーンディスプレイに “Storing Please wait...” を表示します。
- 保存が終了すると、オンスクリーンディスプレイに “Storing complete. Auto Setup is now finished.” を表示します。

② 本機からセットアップマイクを抜く。

❑ 保存をキャンセルするには

△▽ で “Cancel ◀” を選び、◁ を押す。
- 測定されたすべてのオートセットアップデータを消去します。

ご注意

設定結果の保存中は、電源を切らないでください。

2 Parameter Check（パラメーター確認）

オートセットアップの測定結果を確認します。
（このメニュー項目は、オートセットアップ実行後に表示します。）

【確認できる項目】

Speaker Config. Check（スピーカー構成確認）

Distance Check（距離確認）

Channel Level Check（チャンネルレベル確認）

Crossover Freq. Check（クロスオーバー周波数確認）

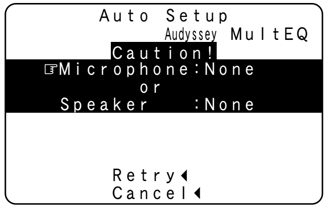
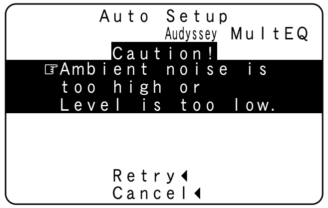
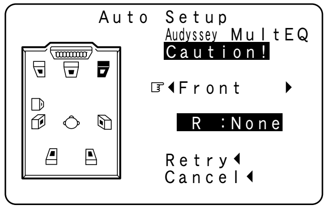
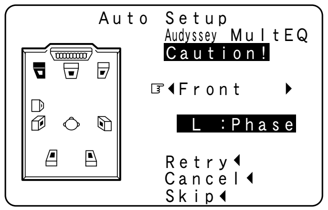
EQ Check（EQ確認）

✎

“Restore” を選ぶと、各設定を手動で変更した場合でもオートセットアップの結果（MultEQ が当初計算した値）に戻すことができます。

エラーメッセージ

スピーカーの設置や測定環境などにより、オートセットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目をチェックし、必要な処理をおこなってください。問題点を修正したら、再びオートセットアップをおこなってください。

エラーメッセージ（例）	原　因	処　理
	●付属のセットアップマイクが接続されていません。 ●すべてのスピーカーが検出されません。 ●フロント左スピーカーが正しく検出されません。	●付属のセットアップマイクを本機の SETUP MIC 端子に接続してください。 ●スピーカーの接続を確認してください。
	●部屋の騒音が大きいため、正しく測定できません。 ●スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しく測定できません。	●騒音を発生する機器の電源を切るか、遠ざけてください。 ●周囲がより静かなときに再度試みてください。 ●スピーカーの設置や向きを確認してください。 ●サブウーハーの音量を調節してください。
	●表示されたスピーカーが検出されませんでした。 ・フロント右スピーカーが正しく検出されません。 ・サラウンドスピーカーの片方のチャンネルしか検出されていません。 ・サラウンドバックスピーカーを 1 台のみ接続している場合に、右チャンネルから検出されました。 ・サラウンドバックスピーカーが検出されましたが、サラウンドスピーカーが検出されません。	●表示されたスピーカーの接続を確認してください。
	●表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	●表示されたスピーカーの極性を確認してください。 ●スピーカーによっては、正しく接続されていてもこのエラーメッセージが表示される場合があります。接続が正しければ、“Skip” を選んでください。

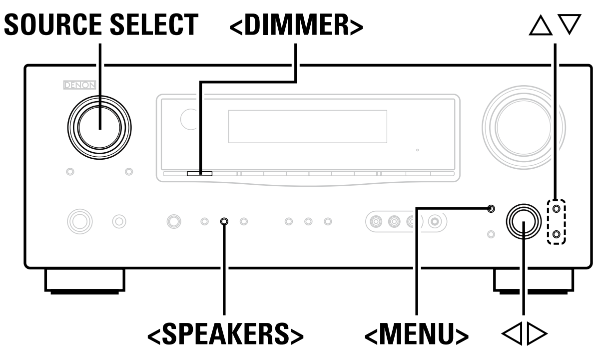
✎ 再度測定をおこなうには、“Retry” を選んでください。

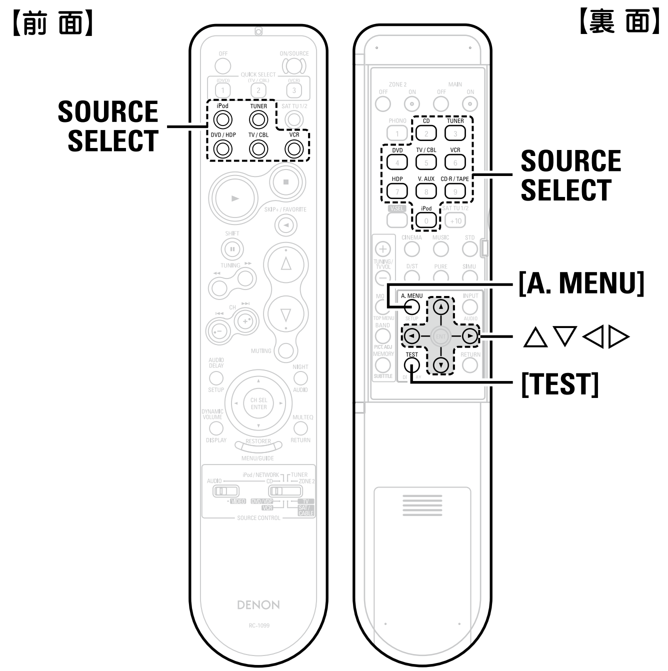
ご注意 スピーカーの接続を確認する前に、必ず電源を切ってください。

Manual Setup（マニュアル設定）

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**





いろいろなパラメーターの詳細な設定をおこないます。

Speaker Setup
（スピーカーの設定）

スピーカーを手動で設定する場合、またはオートセットアップで設定された内容を変更する場合におこなってください。

●メニュー画面●

```
MENU

 1. Auto Setup
☞2. Manual Setup
 3. Input Setup
 4. Parameter
 5. Information
```

```
2. Manual Setup

☞1. Speaker Setup
 2. HDMI Setup
 3. Audio Setup
 4. ZONE2 Setup
 5. Option Setup
```

```
2-1. Speaker Setup

☞1. Speaker Config.
 2. Subwoofer Setup
 3. Distance
 4. Channel Level
 5. Crossover Freq.
 6. Front Speaker Setup
```

1 Speaker Configuration
（スピーカーの構成）

スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。

Front Speaker（フロント）

フロントスピーカーの大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large　Small

Center Speaker（センター）

センタースピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large　Small　None

Subwoofer（サブウーハー）

サブウーハーの有り・無しを選びます。

【選択できる項目】 Yes　No

Surround Speaker（サラウンド）

サラウンドスピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large　Small　None

Surround Back Speaker（サラウンドバック）

サラウンドバックスピーカーの有り･無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large　Small　None　2spkrs　1spkr

Large：低音域を十分に再生できる能力があるスピーカーを使用するときに選びます。

Small：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用するときに選びます。

None：スピーカーを使用しないときに選びます。

Yes：サブウーハーを使用するときに選びます。

No：サブウーハーを使用しないときに選びます。

2spkrs　1spkr：使用するサラウンドバックスピーカーの数を選びます。

サラウンドバックスピーカーを設定していても、再生するソースによっては、サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない場合があります。このような場合は、メニューの “Parameter” – “Surround Parameter” – “SB CH Out”の設定を“OFF”以外に設定してください（☞42ページ）。

- “Large” と “Small” の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、“Crossover Frequency”（☞28ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。
- “Front Speaker” を “Small” に設定すると、“Subwoofer” の設定は自動的に “Yes” になります。
- “Subwoofer” を “No” に設定すると、“Front Speaker” の設定は自動的に “Large” になります。
- “Surround Speaker” を “None” に設定すると、“Surround Back Speaker” の設定は自動的に “None” になります。
- “Front Speaker” を “Small” に設定した場合 “Center Speaker” および “Surround Speaker” を “Large” に設定することはできません。
- サラウンドバックスピーカーを1本のみ使用する場合は、左チャンネル（SBL）に接続してください。
- “Amp Assign” が “7.1ch” 以外に設定されている場合、“Surround Back Speaker” は表示されません。

2 Subwoofer Setup（サブウーハーの設定）

サブウーハーで再生する低音域信号を選びます。

【選択できる項目】

LFE：“Small” に設定したチャンネルの低音域と LFE 信号を再生します。

LFE+Main：すべてのチャンネルの低音域信号と LFE 信号を再生します。

- メニューの “Speaker Configuration” - “Subwoofer” の設定が “Yes” のときに設定できます。
- 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られる方のモードを選んでください。
- 常にサブウーハーから低音域信号を出力する場合は、“LFE+Main” を選んでください。

3 Distance（距離）

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定します。
設定をおこなう前に、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を測っておいてください。

Unit（ユニット）

距離の単位を選びます。

【選択できる項目】 **Meters** **Feet**

Step（ステップ）

ステップ（最小可変距離）を切り替えます。

【選択できる項目】

0.1m **0.01m**：“Meters” のときに表示します。

1ft **0.1ft**：“Feet” のときに表示します。

Default（初期化）

設定を初期化します。

距離の設定

設定したいスピーカーを選び、距離を設定します。
測定した距離に最も近い値に設定してください。

【可変できる範囲】

0.00m ~ 18.00m：“Meters” のときに表示します。

0.0ft ~ 60.0ft：“Feet” のときに表示します。

ご注意

リスニングポジションから各スピーカーまでの距離の差は、6.00m（20.0ft）以下に設定してください。

4 Channel Level（チャンネルレベル）

すべてのスピーカーからの音量が同じになるように各チャンネルのレベルを調節します。

Test Tone（テストトーン）

テストトーンの再生方法を選びます。

【選択できる項目】

Auto：テストトーンを出力するスピーカーを自動的に切り替えます。

Manual：テストトーンを出力するスピーカーを手動で選びます。

Test Tone Start（テストトーンスタート）

テストトーンを出力します。

【可変できる範囲】 **OFF*** **–12dB** ~ **0dB** ~ **+12dB**

*：サブウーハーの場合 “-12dB” のときに音量を下げる操作をおこなうと、“OFF（なし）” の設定になります。

Default（初期化）

設定を初期化します。

リモコンでも操作できます

テストトーンによる調節は、下記の通りリモコンからでもおこなえます。
リモコンでのテストトーンによる調節は “Auto” のみで、STANDARD（Dolby/DTS サラウンド）モード時に有効です。調節したレベルは上記各サラウンドモードに自動的に記憶されます。

① **[TEST]** を押す。
テストトーンを各スピーカーより出力します。
② ◁ ▷ ボタンを押して各スピーカーの音量が同じになるように調節する。
③ 調節が終わったら、もう一度 **[TEST]** を押す。

- メニューの “Speaker Configuration” - “Surround Back Speaker” の設定が “1spkr” の場合、サラウンドバックスピーカーの表示は “SB” になります。
- “Speaker Configuration” の設定で、“None” に設定されているスピーカーは表示しません。
- “Channel Level” を調節すると、調節された値がすべてのサラウンドモードに対して設定されます。サラウンドモード別にチャンネルレベルを調節する場合は、53 ページをご覧ください。

5 Crossover Frequency（クロスオーバー周波数）

サブウーハーから出力する各スピーカーの低音域信号を何 Hz 以下にするかを選びます。

【選択できる項目】

40Hz **60Hz** **80Hz** **90Hz** **100Hz** **110Hz** **120Hz** **150Hz** **200Hz** **250Hz** ：
サブウーハーから出力される各スピーカーの低音域信号を、設定された周波数以下で出力します。
お使いになるスピーカーの低域再生能力に合わせて設定してください。

Advanced ：
各スピーカーごとに、クロスオーバー周波数を設定します。

- “Advanced” の設定では、メニューの “Subwoofer Setup” が “LFE” の場合は、“Speaker Configuration” で “Small” に設定されているスピーカーの設定ができます。また、“LFE+Main” の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。
- “Small” に設定されたスピーカーの場合、クロスオーバー周波数以下の音をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。
- クロスオーバー周波数は、通常 “80Hz” に設定してください。ただし、小型スピーカーを使用する場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。

6 Front Speaker Setup（フロントスピーカーの設定）

各サラウンドモードで使用するフロントスピーカーを選びます。

【選択できる項目】

Normal ：設定を変更する場合は、“Custom” を選びます。

Custom ：“Custom” を選ぶと、サラウンドモードごとに使用するフロントスピーカーをあらかじめ選ぶことができます。

【選択できる項目】

DIRECT/STEREO： **A** **B** **A+B**

MULTI CH： **A** **B** **A+B**

ご注意

“Custom” に設定すると、**<SPEAKERS>** は操作できません。

HDMI Setup（HDMI設定）

HDMIの映像/音声出力に関する設定をします。

●メニュー画面●

```
2.Manual Setup

  1.Speaker Setup
☞2.HDMI Setup
  3.Audio Setup
  4.ZONE2 Setup
  5.Option Setup
```

```
2-2.HDMI Setup

☞Color Space
      ◀ YCbCr ▶

 RGB Range
      ◀ Normal ▶

 Auto Lipsync
      ON◀:▶OFF
```

```
2-2.HDMI Setup

 HDMI Audio Out
      ◀AMP ▶

 HDMI Control
      ON◀:▶OFF

 Power Off Control
      ON◀:▶OFF
```

1 Color Space（カラースペース）

出力する色空間方式を設定します。

【選択できる項目】

YCbCr ：YCbCr 方式で出力します。

RGB ：RGB 方式で出力します。

HDMI/DVI 変換ケーブルを使用して、DVI-D 端子付きモニター（HDCP 対応）と接続した場合は、設定内容に関わらず RGB 形式で出力します。

2 RGB Range（RGB 映像レンジ）

出力する RGB 映像レンジを設定します。

【選択できる項目】

Normal ：16（黒）〜 235（白）の映像レンジで出力します。

Enhanced ：0（黒）〜 255（白）の映像レンジで出力します。黒色が浮く場合に設定します。

“Color Space” の設定が “YCbCr” の場合、この設定は無効になります。

3 Auto Lipsync（オートリップシンク）

出力する音声と映像の時間のずれを自動的に修正します。

【選択できる項目】 **ON** **OFF**

4 HDMI Audio Out（HDMI 音声出力）

HDMI の音声の出力先を設定します。

【選択できる項目】

AMP ：本機に接続されたスピーカーで再生します。

TV ：接続されたテレビで再生します。

ご注意

HDMI コントロール機能が働いているときは、接続されたテレビ側の音声を再生する設定を優先します（☞52、53 ページ「HDMI コントロール機能」）。

5 HDMI Control（HDMI コントロール）

HDMI コントロール機能のオン / オフを設定します。

【選択できる項目】 **ON** **OFF**

- 接続している機器の設定は、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 詳しくは、「HDMI コントロール機能」をご覧ください（☞52、53 ページ）。

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「メニューの操作のしかた」（☞19 ページ）をご覧ください。

6 Power Off Control
（パワーオフコントロール）

HDMI コントロール機能で電源オフを連動させます。

【選択できる項目】 **ON** **OFF**

- “HDMI Control”の設定が“ON”のときに設定できます。
- 接続している機器の設定は、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- “HDMI Control”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
- 本機の電源を切った場合は、HDMI コントロール機能は働きません。電源を入れるか、スタンバイ状態にしてください。
- 詳しくは、「HDMI コントロール機能」をご覧ください（☞52、53 ページ）。

Audio Setup
（音声の設定）

音声の再生に関する設定をします。

●メニュー画面●

```
2.Manual Setup

 1.Speaker Setup
 2.HDMI Setup
☞3.Audio Setup
 4.ZONE2 Setup
 5.Option Setup
```

```
2-3.Audio Setup

☞1.EXT.IN SW Level
 2.2ch Direct/Stereo
 3.Dolby Digital Setup
 4.Auto Surround Mode
 5.EQ Preset
 6.Bilingual Mode
```

1 EXT. IN Subwoofer Level
（外部入力サブウーハーレベルの設定）

EXT. IN モードで再生するときのサブウーハーの設定をします。

【選択できる項目】 **0dB** **+5dB** **+10dB** **+15dB**

“+15dB”に設定することをおすすめします。

2 2ch Direct/Stereo
（2ch ダイレクト / ステレオ）

2 チャンネルモードで再生するときのスピーカーの各種設定をします。

Setting（設定）

設定を変更する場合は、“Custom”を選びます。

【選択できる項目】

Basic：“Speaker Setup”と同じ設定で再生します。

Custom：2 チャンネルモード専用の設定をします。

Front（フロント）

フロントスピーカーの大きさを選びます。

【選択できる項目】

Large **Small**：フロントスピーカーの大きさを選びます。

Subwoofer（サブウーハー）

サブウーハーの有り・無しを選びます。

【選択できる項目】

Yes **No**：サブウーハーの有り・無しを選びます。

Subwoofer Mode（サブウーハーモード）

サブウーハーで再生する低音域信号を選びます。

【選択できる項目】

LFE **LFE+Main**：サブウーハーで再生する低音域信号を選びます。

Crossover（クロスオーバー）

クロスオーバー周波数を設定します。

【選択できる項目】

40Hz **60Hz** **80Hz** **90Hz** **100Hz** **110Hz** **120Hz** **150Hz** **200Hz** **250Hz**：クロスオーバー周波数を選びます。

Distance FL（フロント左までの距離）

リスニングポジションからフロントスピーカー左までの距離を設定します。

【可変できる範囲】 **0.00m ~ 18.00m**

Distance FR（フロント右までの距離）

リスニングポジションからフロントスピーカー右までの距離を設定します。

【可変できる範囲】 **0.00m ~ 18.00m**

ご注意

リスニングポジションから各スピーカーまでの距離の差は、6.00m（20.0ft）以下に設定してください。

3 Dolby Digital Setup
（ドルビーデジタル再生時の設定）

Dolby Digital ソースをダウンミックスで再生するときのダイナミックレンジの設定をします。

【選択できる項目】

ON：圧縮します。フロントスピーカーの音がひずんで聞こえるときに選びます。

OFF：圧縮しません。推奨の設定です。

- フロントスピーカーの音が歪んで聞こえる場合は、“ON”に設定してください。
- センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを使用しない場合、再生音はダウンミックスしてフロントスピーカーから出力します。

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「メニューの操作のしかた」（☞19 ページ）をご覧ください。

4 Auto Surround Mode（オートサラウンドモード）

入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。

【選択できる項目】

ON：記憶します。ラストメモリーしたサラウンドモードで自動的に再生します。

OFF：記憶しません。入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。

- オートサラウンドモードは、次の4種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶させることができます。
  ① アナログやPCMの2チャンネル信号
  ② Dolby DigitalやDTSなどの2チャンネル信号
  ③ Dolby DigitalやDTSなどのマルチチャンネル信号
  ④ Dolby DigitalやDTS以外のPCMのマルチチャンネル信号
- PURE DIRECTモードで再生中は、入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。

5 EQ Preset（EQ プリセット）

MultEQ に関する設定やマニュアル EQ をあらかじめ設定します。

EQ Customize（EQ カスタマイズ）

使用しない“MultEQ”や“Manual EQ”をあらかじめ設定すると、本体やリモコンで“Manual EQ”を選んだときにスキップすることができます。

❑ オートセットアップの前に

【選択できる項目】

Manual：**Used** **Not used**

❑ オートセットアップの後に

【選択できる項目】

Audyssey Byp. L/R：**Used** **Not used**

Audyssey Flat：**Used** **Not used**

Manual：**Used** **Not used**

Direct Mode（ダイレクトモード）

DIRECT や PURE DIRECT モードで“MultEQ”を使用するかどうかを選びます。

【選択できる項目】

ON：“MultEQ”を使用します。

OFF：“MultEQ”を使用しません。

Manual EQ（マニュアル EQ）

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。

❑ Default（初期化）

設定を初期値に戻します。

❑ Base Curve Copy（ベースカーブコピー）

“MultEQ”の“Audyssey Flat”の補正カーブをコピーします。

“Base Curve Copy”は、オートセットアップをおこなった後に表示されます。

❑ Adjust CH（調節チャンネル）

① スピーカーの調節方法を選びます。

【選択できる項目】

Each CH：各スピーカーごとに音色を調節します。

L/R CH：左右のペアごと一緒に音色を調節します。

All CH：すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。

② スピーカーや周波数帯を選び、レベルを調節します。

【選択できる項目】 **63Hz** **125Hz** **250Hz** **500Hz** **1kHz** **2kHz** **4kHz** **8kHz** **16kHz**

【可変できる範囲】 **–20dB** ~ **0dB** ~ **+6dB**

6 Bilingual Mode（バイリンガルモード）

AAC ソースや Dolby Digital ソースの二重音声の出力内容を設定します。

【選択できる項目】

MAIN：主音声のみ出力します。

SUB：副音声のみ出力します。

MAIN/SUB：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。

MAIN+SUB：主音声と副音声をミックスして出力します。

- バイリンガルモードは、AAC ソースおよび Dolby Digital ソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効です。
- 二重音声の情報があるソースを録音する場合は、プレーヤーまたはチューナー側で録音したい音声に切り替えてください。

AAC ソースまたは Dolby Digital ソースで二重音声の情報を検出した場合

設定により入力信号チャンネル表示が点灯します。

- “MAIN”選択時：FL（点灯） C FR
- “SUB”選択時：FL C FR（点灯）
- “MAIN/SUB”または“MAIN+SUB”選択時：FL（点灯） C FR（点灯）

※ DTS ソースで二重音声を検出した場合は、バイリンガルモードの設定に関わらず、“FL”と“FR”が点灯します。
※“MPEG2 AAC”モードの場合、音声はセンタースピーカーより出力されます。フロントスピーカーで再生する場合は、“STEREO”モードなどを選んでください。

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「メニューの操作のしかた」（☞19 ページ）をご覧ください。

ZONE2 Setup（ゾーン2の設定）

ゾーン2で再生する音声の設定をします。

●メニュー画面●

```
2. Manual  Setup

  1. Speaker  Setup
  2. HDMI  Setup
  3. Audio  Setup
☞4. ZONE2  Setup
  5. Option  Setup
```

```
2-4. ZONE2  Setup
☞Level  Lch      :◀   0dB▶
        Rch      :◀   0dB▶
 Vol. Limit      :◀OFF   ▶
 Power  On  Lev. :  Last ▶
 Mute  Lev.      :◀Full ▶
```

ご注意

“ZONE2 Setup”は、“Amp Assign”を“ZONE2”に設定しているときに表示します（☞31ページ）。

1 Level Lch（左レベル）

左チャンネルの出力レベルを調節します。

【可変できる範囲】 –12dB ～ 0dB ～ +12dB

2 Level Rch（右レベル）

右チャンネルの出力レベルを調節します。

【可変できる範囲】 –12dB ～ 0dB ～ +12dB

3 Volume Limit（音量の上限）

音量の上限を設定します。

【選択できる項目】

- **OFF**：設定しません。
- **–20dB**：–20dB まで音量を上げることができます。
- **–10dB**：–10dB まで音量を上げることができます。
- **0dB**：0dB まで音量を上げることができます。

4 Power On Level（電源オン時の音量）

電源を入れたときの音量を設定します。

【選択できる項目】

- **Last**：記憶している前回の主音量で再生します。
- **– – –**：常に電源を入れたときは消音状態です。

【可変できる範囲】

- **–70dB ~ +18dB**：電源オン時の音量レベルを 1dB 単位で設定します。

5 Mute Level（ミューティングレベル）

ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

【選択できる項目】

- **Full**：消音状態になります。
- **–40dB**：現在の主音量から 40dB 下げて再生します。
- **–20dB**：現在の主音量から 20dB 下げて再生します。

Option Setup（その他の設定）

その他の設定をします。

●メニュー画面●

```
2. Manual  Setup

  1. Speaker  Setup
  2. HDMI  Setup
  3. Audio  Setup
  4. ZONE2  Setup
☞5. Option  Setup
```

```
2-5. Option  Setup
☞1. Amp  Assign
  2. Vol. Control
  3. Source  Delete
  4. On-Screen  Display
  5. Quick  Select  Name
  6. Remote  ID  Setup
  7. 2Way  Remote
  8. Display
  9. Setup  Lock
```

1 Amp Assign（アンプの割り当て）

サラウンドバックスピーカーチャンネルのアンプの用途を設定します。

お使いになる環境にあわせて、サラウンドバック用アンプの使用先を自由に設定することができます。
これにより、マルチゾーンでのスピーカー出力や、フロントスピーカーの高音質再生（バイアンプ）をお楽しみいただけます。

【選択できる項目】

- **7.1ch**：SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子に接続されたスピーカーからは、サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。
- **ZONE2**：ゾーン 2 の電源が入っているとき、SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子に接続されたスピーカーからは、ゾーン 2 のチャンネルの音声を出力します。
- **FrontA Bi-Amp**：SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子に接続されたスピーカーからは、バイアンプ用としてフロント A チャンネルの音声を出力します。
- **FrontB Bi-Amp**：SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子に接続されたスピーカーからは、バイアンプ用としてフロント B チャンネルの音声を出力します。

✎

詳しくは、「アンプアサインの設定と接続について」をご覧ください（☞58～60ページ）。

2 Volume Control（音量の設定）

音量の設定をします。

Volume Limit（音量の上限）

主音量の上限を設定します。

【選択できる項目】

- **OFF**：設定しません。
- **–20dB**：–20dB まで音量を上げることができます。
- **–10dB**：–10dB まで音量を上げることができます。
- **0dB**：0dB まで音量を上げることができます。

Power On Level（電源オン時の音量）

電源を入れたときの音量を設定します。

【選択できる項目】

- **Last**：記憶している前回の主音量で再生します。
- **– – –**：常に電源を入れたときは消音状態です。

【可変できる範囲】

- **–80dB ~ +18dB**：電源オン時の音量レベルを 1dB 単位で設定します。

Mute Level（ミューティングレベル）

ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

【選択できる項目】

- **Full**：消音状態になります。
- **–40dB**：現在の主音量から 40dB 下げて再生します。
- **–20dB**：現在の主音量から 20dB 下げて再生します。

3 Source Delete（使用ソースの選択）

使用しない入力ソースを消去し、表示しないように設定します。

【選択できる項目】

- **ON**：使用します。
- **Delete**：使用しない入力ソースを消去し、表示しないように設定します。

Default（初期化）

設定を初期化します。

ご注意

- 現在選択中の入力ソースは、削除できません。
- “Delete”に設定された入力ソースは、**SOURCE SELECT** でも選べなくなります。

4 On-Screen Display（オンスクリーンディスプレイ）

オンスクリーンディスプレイの表示に関する設定をします。

入力信号によるオンスクリーンディスプレイの表示については、12 ページをご覧ください。

Screensaver（スクリーンセーバー）

スクリーンセーバーの表示を設定します。
スクリーンセーバー機能によりモニター画面の焼き付きを防止します。

【選択できる項目】

- **ON**：約 3 分間操作をしないとスクリーンセーバー機能が働きます。
- **OFF**：スクリーンセーバー機能は働きません。

“Screensaver”を“ON”に設定している場合、約 3 分間何も操作しないとスクリーンセーバーが起動します。
△▽◁ ▷ を押すと、スクリーンセーバーが解除され、スクリーンセーバーが起動される前の画面を表示します。

Text（操作内容の表示）

操作内容を表示します。

【選択できる項目】

- **ON**：表示します。
- **OFF**：表示しません。

Master Volume（主音量表示）

主音量を調節するときに主音量レベルを表示します。

【選択できる項目】

- **ON**：表示します。
- **OFF**：表示しません。

iPod Information（iPod 操作時の表示）

iPod 操作時にオンスクリーンディスプレイを表示する時間を設定します。

【選択できる項目】

- **Always**：常に表示します。
- **30Sec**：操作後 30 秒間表示します。
- **10Sec**：操作後 10 秒間表示します。
- **OFF**：表示しません。

Display Mode（ディスプレイモード）

オンスクリーンディスプレイの表示モードを設定します。

【選択できる項目】

- **Mode1**：映像信号がないとき、オンスクリーンディスプレイのちらつきを防止しません。
- **Mode2**：映像信号がないとき、オンスクリーンディスプレイのちらつきを防止します。
“Mode1”でオンスクリーンディスプレイが表示されない場合は、このモードにしてください。

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「メニューの操作のしかた」（☞19 ページ）をご覧ください。

5 Quick Select Name（クイックセレクトネーム）

クイックセレクト 1 ～ 3 の名前を変更します。
16 文字まで入力することができます。

【入力できる文字】

A ~ Z	a ~ z	0 ~ 9	! # % & ' ( ) * + , - . / : ; = " ? @ [\ ]（空白）

Default（初期化）

設定を初期化します。

6 Remote ID Setup（リモコン ID の設定）

リモコンの ID を設定します。

【選択できる項目】

1 **2** **3** **4** ：
使用するリモコンと本機の ID を合わせてください。

ご注意

付属のリモコン（RC-1099）をお使いになる場合、リモコン ID は "1"（お買い上げ時の設定）でお使いください。
別売りのリモコン（RC-7000CI など）を使用する場合に設定してください。使用するリモコンと本機の ID を合わせてください。

7 2Way Remote（双方向リモコン）

双方向リモコンを使用するかしないかを設定します。

【選択できる項目】

Used：使用します。

Not Used：使用しません。

8 Display（ディスプレイの明るさ）

本体のディスプレイ表示の明るさを調節します。

【選択できる項目】

Bright：通常の明るさです。

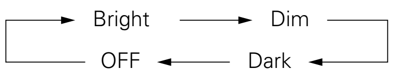
Dim：薄暗くします。

Dark：暗くします。

OFF：操作時以外は消灯します。

本体でも設定できます

<DIMMER> を押す。



"OFF" に設定すると、メニュー設定操作中のディスプレイの明るさは "Dark" になります。

9 Setup Lock（設定の保護）

設定した内容を変更できないように保護します。

【選択できる項目】

ON：保護します。

OFF：保護しません。

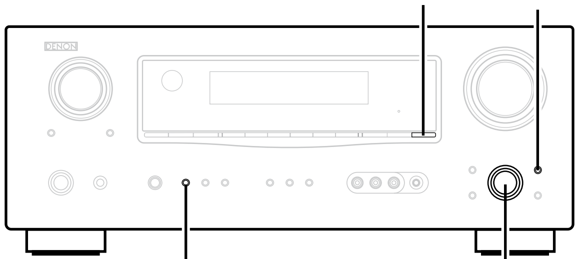
- "Setup Lock" を "ON" に設定すると、以下の設定が変更できなくなります。また、関連するボタンを操作すると、ディスプレイに "SETUP LOCKED!" を表示します。
  - · RESTORER
  - · ナイトモード
  - · MultEQ
  - · Dynamic EQ
  - · Dynamic Volume
  - · チャンネルレベル
  - · オーディオディレイ
- 設定を解除する場合は、**<MENU>** または **[A. MENU]** を押して再度 "Setup Lock" 画面を表示させ、"OFF" に設定し直してください。

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「メニューの操作のしかた」（☞19 ページ）をご覧ください。

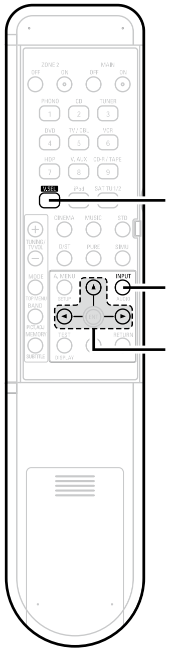
Input Setup（入力の設定）

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**



【裏 面】



入力ソースの選択や入力ソースの再生に関する設定をします。

❑ DVD, HDP, TV/CBL, VCR, V.AUX, TUNER, CD, CDR/TAPE

入力ソース“DVD”“HDP”“TV/CBL”“VCR”“V.AUX”“TUNER”“CD”“CDR/TAPE”のメニューです。

●メニュー画面●

```
3. Input Setup
              ◀  DVD  ▶
             [DVD-3930]
☞1. Assign
  2. Video
  3. Input Mode
  4. Rename
  5. Source Level
```

“Rename”で入力ソース名を変更したときに、表示します。

※ これらの入力ソースは、“iPod Dock”を“Assign”に設定しているときに、以下のメニューの設定ができます。

```
3. Input Setup
              ◀  VCR  ▶
             [VCR/iPod]
  1. Assign
  2. Video
  3. Input Mode
  4. Rename
  5. Source Level
☞6. iPod
```

```
3-6. iPod

☞Repeat Mode   :◀ All  ▶

  Shuffle Mode :◀ OFF  ▶
```

“Input Setup” 内での入力ソースの変えかた

```
3. Input Setup
             ☞◀  CD  ▶

  1. Assign
  2. Video
  3. Input Mode
  4. Rename
  5. Source Level
```

△ を押してメニュー画面の右上にカーソルを合わせ、◁ ▷ を押して入力ソースを変更します。

“Input Setup”内で入力ソースを変えても、現在メインゾーンで選ばれている入力ソースは変わりません。

入力ソースに関する設定

1 Assign（端子の割り当て）

選んだ入力ソースに割り当てる入力端子を設定します。

HDMI In（HDMI 端子）

選んだ入力ソースに割り当てる HDMI 入力端子を設定します。

【入力ソース】 **DVD** **HDP** **TV/CBL** **VCR** **V.AUX**

【選択できる項目】

HDMI1：HDMI 1 入力端子を割り当てます。
HDMI2：HDMI 2 入力端子を割り当てます。
HDMI3：HDMI 3 入力端子を割り当てます。
None：HDMI 入力端子を割り当てません。

入力ソース	DVD	HDP	TV/CBL	VCR	V.AUX
初期設定	**HDMI1**	**HDMI2**	None	**HDMI3**	None

- HDMIでは、映像信号と音声信号を同時に伝送します。“HDMI In”で割り当てた映像信号と“Digital In”で割り当てた音声信号を組み合わせて再生したい場合は、メニューの“Input Mode”を“Digital”に設定してください。
- 本機とテレビをHDMIケーブルで接続したとき、テレビがHDMI音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみをテレビに出力します。
- アナログ端子、デジタル端子およびEXT. IN端子から入力された音声信号をテレビには出力しません。

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「メニューの操作のしかた」（☞19 ページ）をご覧ください。

Digital In（デジタル端子）

選んだ入力ソースに割り当てるデジタル入力端子を設定します。

【入力ソース】 **DVD** **HDP** **TV/CBL** **VCR** **V.AUX** **TUNER** **CD** **CDR/TAPE**

【選択できる項目】

COAX1 ：COAXIAL 1 入力端子を割り当てます。

COAX2 ：COAXIAL 2 入力端子を割り当てます。

OPT1 ：OPTICAL 1 入力端子を割り当てます。

OPT2 ：OPTICAL 2 入力端子を割り当てます。

None ：デジタル入力端子を割り当てません。

入力ソース	DVD	HDP	TV/CBL	VCR	V.AUX	TUNER	CD	CDR/TAPE
初期設定	COAX1	None	OPT1	OPT2	None	None	COAX2	None

Component In（コンポーネント端子）

選んだ入力ソースに割り当てるコンポーネントビデオ（D）入力端子を設定します。

【入力ソース】 **DVD** **HDP** **TV/CBL** **VCR** **V.AUX**

【選択できる項目】

1-D ：コンポーネントビデオ 1 入力端子を割り当てます。

2-D ：コンポーネントビデオ 2 入力端子を割り当てます。

3-D ：コンポーネントビデオ 3 入力端子を割り当てます。

None ：コンポーネントビデオ入力端子を割り当てません。

入力ソース	DVD	HDP	TV/CBL	VCR	V.AUX
初期設定	1-D	2-D	3-D	None	None

iPod Dock

選んだ入力ソースに iPod 用コントロールドックを割り当てます。

【入力ソース】 **DVD** **HDP** **TV/CBL** **VCR** **V.AUX** **TUNER** **CD** **CDR/TAPE**

【選択できる項目】

Assign ：iPod Dock の入力を割り当てます。

None ：iPod Dock の入力を割り当てません。

- お買い上げ時の設定では、iPod 用コントロールドックを VCR（iPod）端子に接続してお使いいただけます。
- “iPod Dock” を “Assign” に設定しても、本機と iPod 用コントロールドックを接続しなければ、その入力は通常の入力ソースとしてお使いいただけます。

2 Video（ビデオ）

選んだ入力ソースの映像の設定をします。

Video Select（ビデオセレクト）

音声を聴きながら映像の入力ソースを切り替えます。

【入力ソース】 **DVD** **HDP** **TV/CBL** **VCR** **V.AUX** **TUNER** **CD** **CDR/TAPE**

【選択できる項目】

DVD **HDP** **TV/CBL** **VCR** **V.AUX** ：
見たい映像の入力ソースを選びます。

Source ：入力ソースと同じ映像と音声を再生します。

本体やリモコンでも操作できます

好きな映像が出るまで、**VIDEO SELECT** を押す。

※ 解除する場合は、**VIDEO SELECT** を押して “Source” を選んでください。

ご注意

- HDMI の入力信号は選べません。
- HDMI を再生中、HDMI モニター出力に他の入力ソースは出力できません。
- “Source Delete” で “Delete” に設定した入力ソースは選べません。
- メニューの “Input Setup” – “Assign” – “Component In” で “HDP” を “None” に設定している場合は、“Video Select” を “HDP” に設定することはできません。

Convert（コンバート）

映像入力信号をモニター出力に自動的に変換します。

【入力ソース】 **DVD** **HDP** **TV/CBL** **VCR** **V.AUX**

【選択できる項目】

ON ：変換します。

OFF ：変換しません。

ご注意

- ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が働かない場合があります。このようなときは、“Video Convert” を “OFF” に設定してください。
- “Convert” を “OFF” に設定すると、ビデオコンバージョン機能は働きません。この場合は、映像入力端子と同じ種類の端子でモニターと接続してください。

i/p Scaler（i/p スケーラー）

i/p スケーラー機能の設定をします。

【入力ソース】 **DVD** **HDP** **TV/CBL** **VCR** **V.AUX**

【選択できる項目】

A to H ：アナログ映像信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。

OFF ：i/p スケーラー機能を使いません。

“Convert” の設定が “OFF” の場合、“i/p Scaler” は設定できません。

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「メニューの操作のしかた」（☞19 ページ）をご覧ください。

Resolution（解像度）

出力する HDMI 映像信号の解像度を設定します。

【入力ソース】 DVD HDP TV/CBL VCR V.AUX

【選択できる項目】

Auto：モニターのパネル画素数を検出し、出力する解像度を自動的に選びます。
480p/576p：480p/576p の解像度で出力します。
1080i：1080i の解像度で出力します。
720p：720p の解像度で出力します。
1080p：1080p の解像度で出力します。

“i/p Scaler”の設定が“A to H”のときに設定できます。

ご注意

- “1080i”の信号を“720p”に変換することはできません。
- “720p”の信号を“1080i”に変換することはできません。

Progressive Mode（プログレッシブモード）

映像素材に最適なプログレッシブモードを選びます。

【入力ソース】 DVD HDP TV/CBL VCR V.AUX

【選択できる項目】

Auto：映像の素材を自動的に判定します。
Video1：ビデオ素材の再生に適しています。
Video2：ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。

“i/p Scaler”の設定が“A to H”のときに設定できます。

Aspect（アスペクト）

480i/576i または 480p/576p の入力信号を HDMI モニター出力端子に出力するときのアスペクト比を設定します。

【入力ソース】 DVD HDP TV/CBL VCR V.AUX

【選択できる項目】

Full：16:9 のアスペクト比で出力します。
Normal：4:3 のアスペクト比で出力します。

“i/p Scaler”の設定が“A to H”のときに設定できます。

3 Input Mode（入力モード）

選んだ入力ソースの入力モードとデコードモードを設定します。選択できる入力モードは、入力ソースや“Assign”の設定によって異なります（☞34、35 ページ）。

Input Mode（入力モード）

選んだ入力ソースの入力モードを設定します。

【入力ソース】 DVD HDP TV/CBL VCR V.AUX TUNER CD CDR/TAPE

【選択できる項目】

Auto：本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。
HDMI ＊1：HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。（TUNER、CD および CDR/TAPE は除きます。）
Digital ＊2：デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。
Analog：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。
EXT. IN：外部入力端子からの入力信号のみを再生します。

＊1：メニューの“Assign”の設定で“HDMI In”で割り当てている入力ソースに対して選べます（☞34 ページ）。
＊2：メニューの“Assign”の設定で“Digital In”で割り当てている入力ソースに対して選べます（☞35 ページ）。

- デジタル信号が正しく入力されると、ディスプレイの“DIG.”表示が点灯します。“DIG.”表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当てや接続を確認してください。
- 入力モードが“EXT. IN”の場合は、サラウンドモードの設定ができません。

本体やリモコンでも操作できます

INPUT MODE を押す。
ボタンを押すたびに、入力モードの表示が切り替わります。

→ Auto → HDMI＊1 → Digital＊2 → Analog → EXT. IN →（Auto に戻る）

＊1：メニューの“Assign”の設定で“HDMI In”で割り当てている入力ソースに対して選べます（☞34 ページ）。
＊2：メニューの“Assign”の設定で“Digital In”で割り当てている入力ソースに対して選べます（☞35 ページ）。

Decode Mode（デコードモード）

選んだ入力ソースのデコードモードを設定します。

【入力ソース】 DVD HDP TV/CBL VCR V.AUX TUNER CD CDR/TAPE

【選択できる項目】

Auto：デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。
PCM：PCM 信号が入力されたときだけデコードして再生します。
DTS：DTS 信号が入力されたときだけデコードして再生します。

- メニューの“Assign”の設定で“HDMI In”または“Digital In”で割り当てている入力ソースに対して選ぶことができます（☞34、35ページ）。
- “PCM”や“DTS”は、それぞれの入力信号を再生するときのみ設定してください。

4 Rename（入力名の変更）

このソースの表示名を変更します。
8 文字まで入力することができます。

【入力できる文字】

A ~ Z　a ~ z　0 ~ 9　! # % & ’ ( ) * + , - . / : ; = ” ? @ [\ ]（空白）

Default（初期化）

設定を初期化します。

5 Source Level（ソースレベル）

選んだ入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。

【可変できる範囲】 –12dB ~ 0dB ~ +12dB

メニューの “Assign” の設定で “HDMI In” または “DIGITAL In” で割り当てている入力ソースに対しては、アナログ入力レベルとデジタル入力レベルを別々に調節することができます。

6 iPod

iPod の再生の設定をします。

【入力ソース】 DVD　HDP　TV/CBL　VCR　V.AUX　TUNER　CD　CDR/TAPE

Repeat Mode（リピートモード）

リピートモードの設定をします。

【選択できる項目】

- **All**：すべての曲をリピート再生します。
- **One**：再生中の曲をリピート再生します。
- **OFF**：リピート再生モードを解除します。

Shuffle Mode（シャッフルモード）

シャッフルモードの設定をします。

❏ DENON製iPod用コントロールドック ASD-1R またはASD-11R接続時

【選択できる項目】

- **Songs**：すべての曲の中からシャッフル再生します。
- **Albums**：再生中のアルバムの中の曲でシャッフル再生します。
- **OFF**：シャッフル再生モードを解除します。

❏ DENON製iPod用コントロールドック ASD-3N またはASD-3W接続時

【選択できる項目】

- **ON**：シャッフル再生します。
- **OFF**：シャッフル再生モードを解除します。

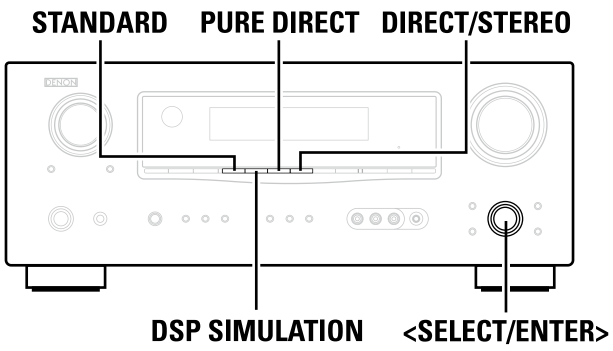
“iPod Dock” の設定でiPod用コントロールドックを割り当てた入力ソースに対して設定できます。

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「メニューの操作のしかた」（☞19 ページ）をご覧ください。

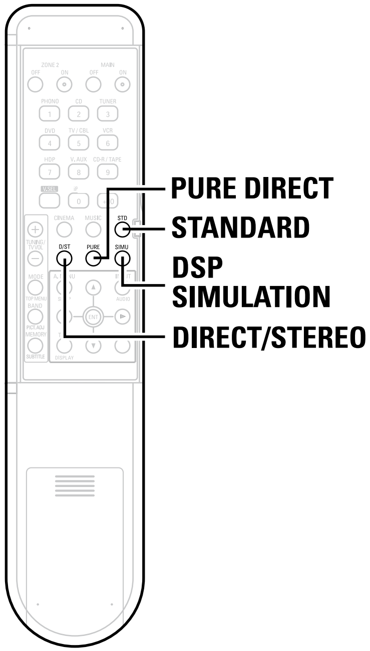
Surround Mode（サラウンドモード）

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**



【裏 面】



①スタンダード再生

プログラムソースに合わせてサラウンド再生を楽しむモードです。

2 チャンネルのソースをサラウンド再生する場合

サラウンドモードの選択のしかた

<SELECT/ENTER> を回すか、**STANDARD** を押して選ぶ。
STANDARD を押すたびに、モードが切り替わります。

【選択できる項目】

DOLBY PLⅡx または **DOLBY PLⅡ** ＊：DOLBY PLⅡx または DOLBY PLⅡ でデコードして、サラウンド再生をします。

DTS NEO:6：DTS　NEO:6 でデコードしてサラウンド再生をします。

＊：DOLBY　PLⅡxは、サラウンドバックスピーカーを使用しているときに選べます。
DOLBY PLⅡは、サラウンドバックスピーカーを使用していないときに選べます。

再生するソースにあわせて選択できるモード

“Cinema”、“Music”、“Game”、“PL”モードは、メニューの“Parameter”－“Surround Parameter”－“Mode”で選びます（☞41 ページ）。

❏DOLBY PLⅡx または DOLBY PLⅡ

Cinema：映画ソースに適したモードです。

Music：音楽ソースに適したモードです。

Game：ゲームに適したモードです。

Pro Logic：プロロジック再生モードです。PLⅡデコーダーで再生する場合に選べます。このモードを選ぶと、表示は“DOLBY PL”になります。

❏DTS NEO:6

Cinema：映画ソースに適したモードです。

Music：音楽ソースに適したモードです。

マルチチャンネルのソースを再生する場合（Dolby Digital、DTS、AAC など）

マルチチャンネルソースのスタンダード再生では、入力しているマルチチャンネル音声の信号形式を検出し、自動的にその専用デコーダーを動作させて、サラウンド再生をおこないます。

【選択できる項目】

STANDARD：

次の表の“ディスプレイ表示”のいずれかのサラウンドモードは、入力信号やサラウンドバックスピーカーの有無により変わります。

	ディスプレイ表示
Dolby Digital（2ch 以外）/ Dolby Digital EX	DOLBY DIGITAL
	DOLBY DIGITAL EX
	DOLBY DIGITAL+PLⅡx CINEMA
	DOLBY DIGITAL+PLⅡx MUSIC
Dolby Digital Plus（＊4）	DOLBY DIGITAL +
Dolby TrueHD（＊4）	DOLBY TrueHD
	DOLBY HD+EX
	DOLBY HD+PLⅡx CINEMA
	DOLBY HD+PLⅡx MUSIC
DTS（5.1ch）/ DTS-ES Discrete 6.1 / DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24	DTS SURROUND
	DTS+PLⅡx CINEMA
	DTS+PLⅡx MUSIC
	DTS+NEO:6
	DTS ES MTRX6.1（＊1）
	DTS ES DSCRT6.1（＊2）
	DTS 96/24（＊3）
DTS-HD（＊4）	DTS-HD HI RES
	DTS-HD MSTR
	DTS-HD+NEO:6
	DTS-HD+PLⅡx CINEMA
	DTS-HD+PLⅡx MUSIC
MPEG-2 AAC（5.1ch）	MPEG2 AAC
	AAC + Dolby EX
	AAC + PLⅡx CINEMA
	AAC + PLⅡx MUSIC
MPEG-2 AAC（1+1ch）	MPEG2 AAC
PCM（multi ch）	MULTI CH IN
	MULTI IN+PLⅡx CINEMA
	MULTI IN+PLⅡx MUSIC
	MULTI CH IN 7.1

＊1：入力信号が“DTS-ES Matrix 6.1”で、本機の“AFDM”の設定が“ON”のときに表示します。
＊2：入力信号が“DTS-ES Discrete 6.1”のときに表示します。
＊3：入力信号が“DTS 96/24”のときに表示します。
＊4：HD AUDIO 信号が入力されたときに、HD AUDIO 表示が点灯します。

詳しくは、65、66 ページをご覧ください。

MPEG-2 AAC について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

❑入力信号チャンネル表示について

プログラムソースにより、入力信号チャンネル表示が点灯します。

●2チャンネルソース

LFE		
FL	C	FR
SL	S	SR
SBL	SB	SBR

STANDARD を押すと、“DOLBY PLⅡx”モードと“DTS NEO:6”モードを切り替えることができます。

●5.1チャンネルソース

LFE		
FL	C	FR
SL	S	SR
SBL	SB	SBR

STANDARD を押すと、5.1 チャンネル再生ができます。
5.1 チャンネルで再生しているときは、“MPEG2 AAC”を表示します。

●モノラルソース

LFE		
FL	C	FR
SL	S	SR
SBL	SB	SBR

STANDARD を押すと、“MPEG2 AAC”を表示します。
音声は、センタースピーカーより出力します。
フロントスピーカーで再生する場合は、サラウンドモード（“STEREO”など）を選んでください。

●二重音声ソース

FL C FR

FL C FR

FL C FR

二重音声の情報がある AAC ソースを再生する場合は、主音声や副音声などの出力内容を選べます。
詳しくは、“Bilingual Mode”（☞30 ページ）をご覧ください。

② DSP シミュレーション再生

7 通りの DENON オリジナルサラウンドの中から、プログラムソースや視聴するシチュエーションに応じてお好みのモードを選ぶことができます。
サラウンドパラメーター（☞41 ページ）を調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。

サラウンドモードの選択のしかた

<SELECT/ENTER> を回すか、**DSP SIMULATION** を押して選ぶ。

【選択できる項目】

5CH/7CH STEREO ＊1 ：ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。

ROCK ARENA ：アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。

JAZZ CLUB ：ライブハウスでのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。

MONO MOVIE ＊2 ：モノラルの映画ソースをサラウンド再生するモードです。

VIDEO GAME ：ビデオゲームのサラウンドに適したモードです。

MATRIX ：ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。

VIRTUAL ：フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

＊1：“5CH STEREO”は、“Surround Parameter”－“SB CH Out”が“OFF に設定されているとき、および“Amp Assign”が“7.1ch”以外に設定されているときに表示します（☞31、42、43 ページ）。
＊2：MONO MOVIE モードでモノラル録音ソースを再生する場合、片チャンネル（左または右）では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られない場合があります。このような場合は、各モードを試してお好みの音場でお楽しみください。

ご注意

入力信号が Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD の場合、DENON オリジナルサラウンドは選べません。

③ ダイレクト再生

モードの選択のしかた

<SELECT/ENTER> を回すか、**DIRECT/STEREO** を押して選ぶ。

【選択する項目】

DIRECT ：

音質調節回路を通さず、高音質で再生するモードです。
入力信号のチャンネルのまま音声を出力します。

入力信号	ディスプレイ表示
アナログ信号 PCM（2ch） Dolby Digital ソース DTS ソース その他の 2ch のデジタル信号	DIRECT
PCM（multi ch）	MULTI CH DIRECT
	M DIRECT + PLⅡx CINEMA
	M DIRECT + PLⅡx MUSIC
	M DIRECT 7.1

詳しくは、65 ～ 68 ページをご覧ください。

④ ステレオ再生

モードの選択のしかた

<SELECT/ENTER> を回すか、**DIRECT/STEREO** を押して選ぶ。

【選択する項目】

STEREO ：

音質調節ができるステレオ再生用のモードです。
フロント左 / 右スピーカーとサブウーハーから音声を出力します。

DIRECT/STEREO を押すたびに、DIRECT モードと STEREO モードを切り替えることができます。

<SELECT/ENTER> を回してもサラウンドモードを選ぶことができます。

❏PCM（2ch）/ Analog / Dolby Digital（2ch）再生時



❏Digital（マルチチャンネル）再生時



ピュアダイレクトモード再生

原音に最も忠実で、極めて高品質な再生ができます。

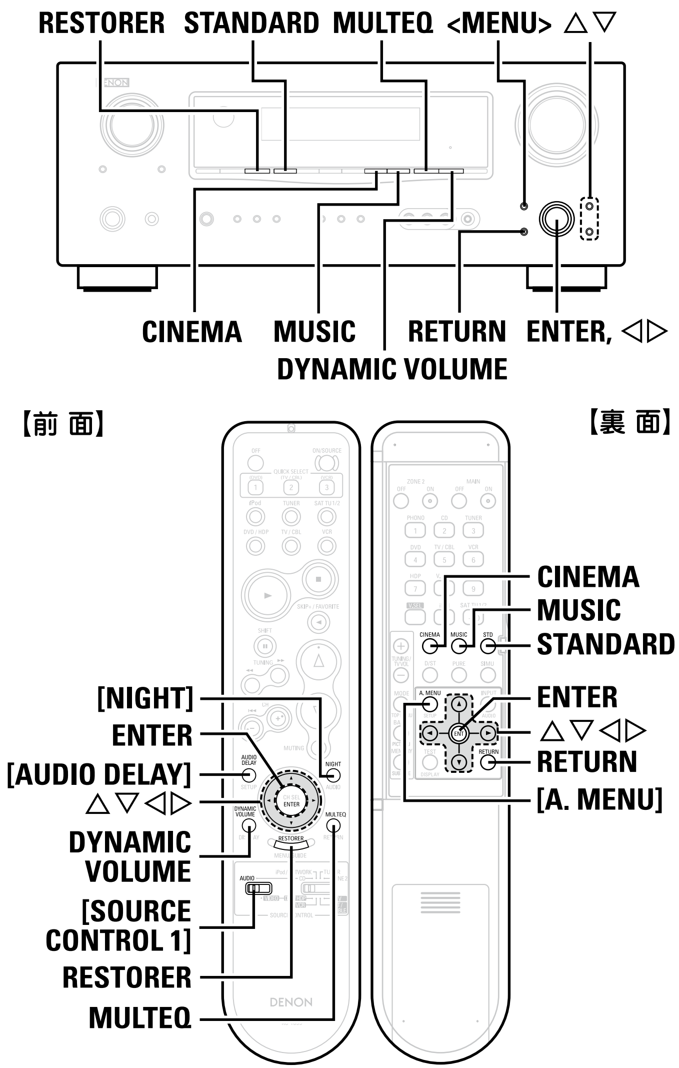
PURE DIRECT を押す。

- 解除するときは、もう一度 **PURE DIRECT** を押してください。
- **PURE DIRECTモード中はメニュー画面を表示しません。また、本体のディスプレイが消灯します。**
- PURE DIRECTモード時のチャンネルレベルおよびサラウンドパラメーターは、DIRECTモードと共通になります。

Parameter（パラメーター）

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの ──→ **BUTTON**
本体のみにあるもの ──→ **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの ──→ **[BUTTON]**



パラメーターの調節のしかた

1 **<MENU> または [A.MENU] を押す。**
メニューを表示します。
※ リモコンで操作する場合は、**[SOURCE CONTROL 1]** を“AUDIO”に設定してください（☞55ページ）。

2 **△▽で“Parameter”を選び、ENTER を押す。**

3 **設定を変更する場合は、△▽で変更したい項目を選び、◁▷で設定を変更する。**
※ 前の項目に戻る場合は、**RETURN** を押してください。
※“Default Yes”を選んだ後に ◁ を押すと、お買い上げ時の設定に戻ります。

4 **ENTER を押して、設定を確定する。**

❏ 調節を終了するには
調節中に、**<MENU>** または **[A.MENU]** を押す。

Surround Parameter
（サラウンドパラメーター）

音場効果を調節します。

調節できるパラメーター（項目）は、次の状況によって異なります。
- **入力信号の有り（再生中）/ 無し（停止中など）**
- **入力信号の種類**
- **サラウンドモードの種類**

各サラウンドモードのときの調節できるパラメーターについては、「サラウンドパラメーター 一覧表」（☞65、66 ページ）をご覧ください。

❑ **Surround Parameter（サラウンドパラメーター）**
- 1 Mode（モード）
- 2 Cinema EQ（シネマ EQ）
- 3 DRC（ダイナミックレンジコントロール）
- 4 Dynamic Range Compression（ダイナミックレンジコンプレッション）
- 5 LFE（低域効果）
- 6 Center Image（センターイメージ）
- 7 Panorama（パノラマ）
- 8 Dimension（ディメンション）
- 9 Center Width（センター幅）
- 10 Delay Time（ディレイタイム）
- 11 Effect Level（エフェクトレベル）
- 12 Room Size（ルームサイズ）
- 13 AFDM
- 14 SB CH Out（サラウンドバックチャンネル出力）
- 15 SUBWOOFER ATT（サブウーハーアッテネーター）
- 16 Subwoofer（サブウーハー）

❑ **Tone（トーン）**
- 17 Tone Control（トーンコントロール）
- 18 Bass（低音）
- 19 Treble（高音）

❑ **Audyssey Settings（Audyssey の設定）**
- 20 MultEQ
- 21 Dynamic EQ
- 22 Dynamic Volume
- 23 Setting（Dynamic Volume の設定）

❑ **RESTORER**

❑ **Night Mode（ナイトモード）**

❑ **Audio Delay（オーディオディレイ）**

●メニュー画面●

```
4.Parameter

☞1.Surround Parameter
 2.Tone
 3.Audyssey Settings
 4.RESTORER
 5.Night Mode
 6.Audio Delay
```

Surround Parameter
（サラウンドパラメーター）

音場効果を調節します。
調節できるパラメーターは、各サラウンドモードによって異なります（☞65、66 ページ）

1 Mode（モード）

再生する映画ソースや音楽ソースなどに合わせてモードを選びます。

❑ **PLⅡx または PLⅡ モード時**

【選択できる項目】

- **Cinema**：映画ソースに適したモードです。
- **Music**：音楽ソースに適したモードです。
- **Game**：ゲームソースに適したモードです。
- **PL**：ドルビープロロジック再生モードです。（4 チャンネル（フロント L、フロント R、センター、サラウンド（モノ））再生 ）

❑ **DTS NEO:6 モード時**

【選択できる項目】

- **Cinema**：映画ソースに適したモードです。
- **Music**：音楽ソースに適したモードです。

本体やリモコンでも操作できます

“Cinema”モードまたは“Music”モードは、本体やリモコンで操作できます。

CINEMA または **MUSIC** を押す。

“Music”モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。

2 Cinema EQ（シネマ EQ）

映画のセリフの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。

【選択できる項目】

- **ON**：“Cinema EQ”を使用します。
- **OFF**：“Cinema EQ”を使用しません。

3 DRC（ダイナミックレンジコントロール）

ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を適度に圧縮します。

【選択できる項目】

- **Auto**：再生するソースによってダイナミックレンジを自動で ON/OFF します。
- **Low**：圧縮率を“弱”に設定します。
- **Mid**：圧縮率を“標準”に設定します。
- **High**：圧縮率を“強”に設定します。
- **OFF**：ダイナミックレンジを圧縮しません。

Dolby TrueHD のときに設定できます。

4 Dynamic Range Compression
（ダイナミックレンジコンプレッション）

ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を適度に圧縮します。

【選択できる項目】

- **OFF**：ダイナミックレンジを圧縮しません。
- **Low**：圧縮率を“弱”に設定します。
- **Mid**：圧縮率を“標準”に設定します。
- **High**：圧縮率を“強”に設定します。

DTS ソースを再生する場合は、対応するソフトのみ表示します。

各パラメーターの調節については「パラメーターの調節のしかた」（☞40ページ）をご覧ください。

5 LFE（低域効果）

低域信号（LFE）レベルを調節します。

【可変できる範囲】 –10dB ～ **0dB**

各プログラムソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。
•Dolby Digital ソース：“0dB”
•DTS の映画ソース：“0dB”
•DTS の音楽ソース：“–10dB”

6 Center Image（センターイメージ）

センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。

【可変できる範囲】 0.0 ～ **0.3** ～ 1.0

7 Panorama（パノラマ）

フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。

【選択できる項目】 ON **OFF**

8 Dimension（ディメンション）

音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。

【可変できる範囲】 0 ～ **3** ～ 6

9 Center Width（センター幅）

センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。

【可変できる範囲】 0 ～ **3** ～ 7

10 Delay Time（ディレイタイム）

遅延時間を調節し、音場イメージの大きさを広げます。

【可変できる範囲】 0 ms ～ **30 ms** ～ 300 ms

11 Effect Level（エフェクトレベル）

エフェクト信号の大きさを調節します。

【可変できる範囲】 1 ～ **10** ～ 15

サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。

12 Room Size（ルームサイズ）

音場の広がり感のイメージを選びます。

【選択できる項目】

- **Small**：小さな音場空間のイメージ。
- **Med.S**：やや小さな音場空間のイメージ。
- **Medium**：標準な音場空間のイメージ。
- **Med.L**：やや大きな音場空間のイメージ。
- **Large**：大きな音場空間のイメージ。

ご注意

“Room Size”は、再生する部屋の大きさを表すものではありません。

13 AFDM

ソースの識別信号を検出して自動的にサラウンドモードを設定します。
専用の識別信号が記録されたソフトのみに働きます。
再生するソフトがドルビーデジタル EX または DTS-ES で記録されている場合は、6.1 チャンネルで再生し、記録されていない場合は、5.1 チャンネルで再生します。

【選択できる項目】 **ON** OFF

【例】ドルビーデジタルソフト（EX フラグあり）の再生

- “AFDM”を“ON”に設定すると、サラウンドモードは自動的に“DOLBY D + PLIIx C”モードになります。
- DOLBY DIGITAL EX モードで再生する場合は、“AFDM”を“OFF”、“SB CH Out”を“MTRX ON”に設定してください。

Dolby Digital EX ソースには、EX フラグが含まれていないものがあります。“AFDM”を“ON”に設定していても、再生モードが自動的に切り替わらない場合は、“SB CH Out”を“MTRX ON”または“PLIIx CINEMA”に設定してください。

14 SB CH Out（サラウンドバックチャンネル出力）

（マルチチャンネルソース再生中に選択表示できます）

サラウンドバックチャンネルの再生方法を選びます。

【選択できる項目】

- **OFF**：サラウンドバックチャンネルは再生しません。
- **MTRX ON**：サラウンドチャンネル信号をデジタルマトリックス処理し、サラウンドバックチャンネルから再生します。
- **PLIIx CINEMA** ＊1：Dolby Pro Logic IIx Cinema モードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。
- **PLIIx MUSIC** ＊2：Dolby Pro Logic IIx Music モードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。
- **ES MTRX** ＊3：DTS 信号を再生する場合にサラウンドバック信号をデジタルマトリックス処理をして再生するモードです。
- **ES DSCRT** ＊4：DTS 信号でディスクリート 6.1ch ソースである認識信号が含まれている場合にソースに含まれているサラウンドバック信号を再生するモードです。
- **DSCRT ON**：DVD などの 7.1ch デジタルディスクリート音声信号に含まれるサラウンドバック信号をディスクリート再生するモードです。

＊1：メニューの“Manual Setup”–“Speaker Setup”–“Speaker Configuration”（☞26、27 ページ）の設定で、“Surround Back Speaker”が“2spkrs”のときに選べます。
＊2：メニューの“Manual Setup”–“Speaker Setup”–“Speaker Configuration”の設定で、“Surround Back Speaker”が“2spkrs”または“1spkr”のときに選べます。
＊3：DTS ソースを再生しているときに選べます。
＊4：ディスクリート 6.1 チャンネルの信号の識別信号が含まれている DTS ソースを再生しているときに選べます。

STANDARD を押すたびに、設定することもできます。
サラウンドバックスピーカーをお使いになるときは、次の設定にしてください。
① “Amp Assign”を“7.1ch”（お買い上げ時の設定）に設定してください。
② “Surround Parameter”の“SB CH Out”を“OFF”以外に設定してください。

各パラメーターの調節については「パラメーターの調節のしかた」（☞40ページ）をご覧ください。

⑭ SB CH Out（サラウンドバックチャンネル出力）
（2 チャンネルソース再生中に選択表示できます）

サラウンドバックスピーカーを使うか使わないかを設定します。

【選択できる項目】

ON ：サラウンドバックスピーカーを使用して再生します。

OFF ：サラウンドバックスピーカーを使用しないで再生します。

⑮ SUBWOOFER ATT
（サブウーハーアッテネーター）

外部入力（EXT. IN）端子使用時のサブウーハーチャンネルのレベルを抑えます。

【選択できる項目】

ON ：サブウーハーチャンネルからの入力を減衰します。

OFF ：サブウーハーチャンネルからの入力を減衰しません。通常はこのモードでお使いください。

オーディオ信号を再生したときに、サブウーハーチャンネルのレベルが大きいと感じる場合は、“ON”に設定してください。

⑯ Subwoofer（サブウーハー）

サブウーハー出力をするかしないかを設定します。

【選択できる項目】

ON ：サブウーハー出力を使用します。

OFF ：サブウーハー出力を使用しません。

Tone（トーン）

トーンを調節します。

⑰ Tone Control（トーンコントロール）

トーンの調節をするかしないかを設定します。

【選択できる項目】

ON ：低音や高音のトーンを調節できます。

OFF ：トーンの調節をしないで再生します。

DIRECT モード中は、トーンの調節ができません。

ご注意

“Dynamic EQ”の設定が“ON”のときには、設定できません。

⑱ Bass（低音）

低音のトーンを調節します。

【可変できる範囲】 **–6dB** ～ **0dB** ～ **+6dB**

⑲ Treble（高音）

高音のトーンを調節します。

【可変できる範囲】 **–6dB** ～ **0dB** ～ **+6dB**

“Bass”および“Treble”は、“Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。

Audyssey Settings（Audyssey の設定）

MultEQ、Dynamic EQ および Dynamic Volume を選びます。

⑳ MultEQ

お好みの補正タイプをお選びください。

【選択できる項目】

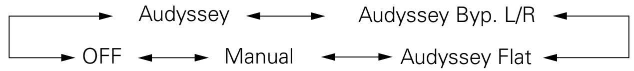
Audyssey ：すべてのスピーカーの周波数特性を最適化します。

Audyssey Byp. L/R ：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。

Audyssey Flat ：すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。

Manual ：“Manual EQ”（☞30 ページ）で調節された周波数特性を適用します。

OFF ：イコライザーを使用しません。



本体やリモコンでも操作できます

MULTEQ を押す。

- “Audyssey”、Audyssey Byp. L/R” または “Audyssey Flat” を選ぶと、“AUDYSSEY MULTEQ” 表示が点灯します。
- オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更した場合は、“AUDYSSEY MULTEQ” 表示が点灯します。

- オートセットアップをおこなった後に、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”を選ぶことができます。
- オートセットアップをおこなうと、“MultEQ”の設定は自動的に“Audyssey”になります。
- オートセットアップで“None”と判定されたスピーカーの設定を変更した場合、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”を選べません。再度オートセットアップをおこなうか、メニューの“Auto Setup” – “Parameter Check” – “Restore”で、オートセットアップ実行後の設定に戻してください（☞25 ページ）。
- メニューの“Manual Setup” – “Audio Setup” – “EQ Preset” – “EQ Customize”（☞30 ページ）で“Not Used”に設定した“MultEQ”および“Manual EQ”は選べません。
- ヘッドホン使用時、“MultEQ”は“OFF”になります。

各パラメーターの調節については「パラメーターの調節のしかた」（☞40ページ）をご覧ください。

㉑ Dynamic EQ

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ 技術と連動することによりすべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

【選択できる項目】

ON ：Dynamic EQ 機能を使用します。

OFF ：Dynamic EQ 機能を使用しません。

本体やリモコンでも操作できます

DYNAMIC VOLUME を押す。

Dynamic EQ / Volume : ON → Dynamic EQ : ON / Volume : OFF → Dynamic EQ / Volume : OFF →（Dynamic EQ / Volume : ON に戻る）

- “Dynamic EQ”は、オートセットアップをおこなった後に設定できます。
- オートセットアップをおこなうと、“MultEQ”の設定は自動的に“Audyssey”になります。
- 次の場合、“Dynamic EQ”は設定できません。
  - “Auto Setup”が完了していない場合
  - オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーから使用するスピーカーを増やした場合
- “MultEQ”を“OFF”に設定すると、“Dynamic EQ”は自動的に“OFF”になります。
- オートセットアップ実行前やオートセットアップ実行後にスピーカーの本数を増やして **DYNAMIC VOLUME** を押した場合に“Run Audyssey”を表示します。このような場合には、オートセットアップをおこなうか、メニューの“Auto Setup”–“Parameter Check”–“Restore”で、オートセットアップ実行後の設定に戻してください。

ご注意

“Dynamic EQ”を“ON”に設定すると、“Tone Control”および“Night Mode”は“OFF”になります。

❑各機能の動作条件

- **Dynamic EQ：**
  “MultEQ”を“ON”に設定しているとき
- **Dynamic Volume：**
  “Dynamic EQ”を“ON”に設定しているとき
- **Setting：**
  “Dynamic Volume”を“ON”に設定しているとき

⑳ MultEQ
　㉑ Dynamic EQ
　　㉒ Dynamic Volume
　　　㉓ Setting

㉒ Dynamic Volume

Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

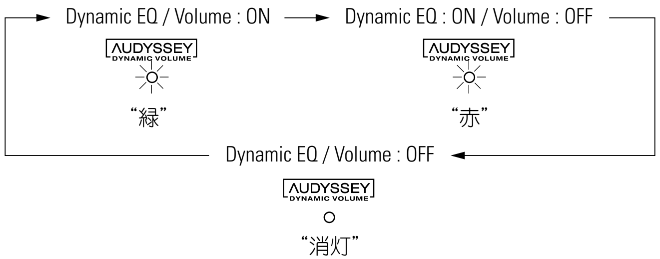
【選択できる項目】

ON ：Dynamic Volume 機能を使用します。
Dynamic Volume の効果は、“Setting”にて設定した値になります。

OFF ：Dynamic Volume 機能を使用しません。

本体やリモコンでも操作できます

DYNAMIC VOLUME を押す。



- “Dynamic Volume”は、オートセットアップをおこなった後に設定できます。
- 次の場合、“Dynamic Volume”は設定できません。
  - “Auto Setup”が完了していない場合
  - オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーから使用するスピーカーを増やした場合
- “MultEQ”を“OFF”に設定すると、“Dynamic Volume”は自動的に“OFF”になります。
- オートセットアップ実行前やオートセットアップ実行後にスピーカーの本数を増やして **DYNAMIC VOLUME** を押した場合に“Run Audyssey”を表示します。このような場合には、オートセットアップをおこなうか、メニューの“Auto Setup”–“Parameter Check”–“Restore”で、オートセットアップ実行後の設定に戻してください。

ご注意

“Dynamic Volume”と“Night Mode”との併用はできません。

㉓ Setting（Dynamic Volume の設定）

“Dynamic Volume”の設定が“ON”のときに設定できます。
Dynamic Volume の効果を設定します。

選択できる項目】

Midnight ：高設定です。すべての音を一定の大きさにします。

Evening ：中設定です。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。

Day ：低設定です。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。

ご注意

- “Setting”は、オートセットアップをおこなった後に設定できます。
- 次の場合、“Setting”は設定できません。
  - “Auto Setup”が完了していない場合
  - オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーから使用するスピーカーを増やした場合
  - “Dynamic Volume”の設定が“OFF”の場合

各パラメーターの調節については「パラメーターの調節のしかた」（☞40ページ）をご覧ください。

Dynamic EQについて

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、すべてのボリューム変化に応じて自動的に最適な周波数特性とサラウンドレベルに補正します。その結果、どのようにボリュームレベルを変更しても、常に最適な低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを楽しむことが可能な技術です。また、正しい補正をおこなうために必要不可欠な条件である、入力（再生）されるコンテンツの情報と、実際に視聴する部屋に出力される音圧レベル情報とを組み合わせています。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ 技術と連動することにより、すべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Dynamic Volumeについて

Audyssey Dynamic Volume は、テレビ番組や CM（コマーシャル）、映画などのコンテンツにおける静かな音のシーンと大きな音のシーンの間におけるボリュームレベルの違いによって発生する問題を解決する技術です。
Dynamic Volume は、入力されるコンテンツを常にモニターし、ユーザーが設定した好みのボリュームレベルに常に自動的に調整することにより、ユーザーからボリューム調整の煩わしさを解放します。再生中のコンテンツの中に含まれる特徴を正確にモニターし、ボリュームの変化が急激であっても、緩やかな変化であってもコンテンツの特徴に忠実に最適なボリューム値（ユーザー設定値）に自動調整をおこないます。
また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより、ボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

RESTORER

圧縮音声を圧縮前に近い状態に復元し、低域と高域の量感を補正して豊かに再生します。

【選択できる項目】

OFF :
RESTORER を使用しません。

Mode1（RESTORER 64）:
高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

Mode2（RESTORER 96）:
圧縮音声全般に対して、低域と高域を共に適切に補正します。

Mode3（RESTORER HQ）:
高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

“iPod”の初期設定は、“Mode3”です。その他は、すべて“OFF”に設定されています。

“OFF”以外に設定すると、“RESTORER”表示が点灯します。

OFF ←→ Mode 1 (RESTORER 64) ←→ Mode 2 (RESTORER 96) ←→ Mode 3 (RESTORER HQ) ←→ OFF

本体やリモコンでも操作できます

再生中に **RESTORER** を押す。

RESTORER機能について

- MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。
- アナログ入力や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときにサラウンドパラメーター内に表示され、設定することができます。

Night Mode（ナイトモード）

夜間に小音量で音声を聞くときに設定します。

【選択できる項目】

OFF : 設定しません。

Low : 調節量を“弱”に設定します。

Mid : 調節量を“標準”に設定します。

High : 調節量を“強”に設定します。

リモコンでも操作できます

[NIGHT] を押す。
“Low”“Mid”“High”を選んだときに、“NIGHT”表示が点灯します。

OFF → Low → Mid → High → OFF

ご注意

- “Dynamic EQ”を“ON”に設定している場合、“Night Mode”は設定できません。
- HD-Audio（Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS-HD）再生時、“Night Mode”は設定できません。

各パラメーターの調節については「パラメーターの調節のしかた」（☞40ページ）をご覧ください。

Audio Delay（オーディオディレイ）

映像と音声の再生タイミングのずれを補正します。

音声を遅らせる時間を設定します。

【可変できる範囲】 **0 ms** ~ **200 ms**

HDMI やコンポーネントビデオ信号の再生中に、“Audio Delay”の調整をしたい場合は、△ を押して“OSD”を“OFF”にすると映像を見ながら調整することができます。（もう一度 △ 押すと、オンスクリーンディスプレイに切り替わります。）

リモコンでも操作できます

[AUDIO DELAY] を押して、**[◁ ▷]** で調節します。

ご注意

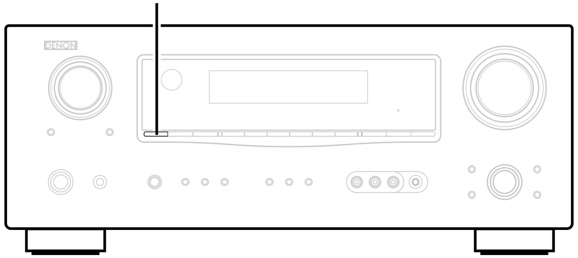
リモコンで操作する場合、オンスクリーンディスプレイは表示されません。

- “EXT. IN”、“DIRECT” および“STEREO” モード（Front Speaker：“Large”、Tone Control：“OFF”、MultEQ：“OFF”、RESTORER：“OFF”、Night Mode：“OFF”）で再生中は、調節できません。
- オートリップシンク補正機能が働いている場合は、0 ～ 100ms の範囲で設定できます。
- “Audio Delay”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

Information（情報）

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**



<STATUS> を押すたびに、本体のディスプレイに現在の設定状態を表示させることもできます。

Status（現在の設定）

現在の設定状態を表示します。

●メニュー画面●

```
5. Information

☞1. Status
  2. Audio Input Signal
  3. HDMI Information
  4. Auto Surround Mode
  5. Quick Select
```

```
5-1. Status

Select Source:DVD
Name         :DVD-3930

Surround Mode:
 DOLBY PLIIx cinema

Input Mode   :Analog
                        1/4
```

1 MAIN ZONE（メインゾーン）

メインゾーンの設定状態を表示します。

【確認できる項目】

Select Source（選択ソース） **Name**（ネーム）
Surround Mode（サラウンドモード）
Input Mode（入力モード） **Rec Select**（Recセレクト）
Video Select（ビデオセレクト）
Source Level（ソースレベル） **MultEQ** **Dynamic EQ**
Dynamic Volume **Night Mode**（ナイトモード） **RESTORER**

2 ZONE2（ゾーン 2）

ゾーン 2 の設定状態を表示します。

【確認できる項目】

Power（電源） **Select Source**（選択ソース）
Volume Level（音量レベル）

各パラメーターの調節については「パラメーターの調節のしかた」（☞40ページ）をご覧ください。

Audio Input Signal
（音声入力信号）

音声入力信号の情報を表示します。

●メニュー画面●

```
5. Information

 1. Status
☞2. Audio Input Signal
 3. HDMI Information
 4. Auto Surround Mode
 5. Quick Select
```

```
5-2. Audio Input Signal

 Surround Mode:
  DOLBY DIGITAL EX

 SIGNAL:Dolby Digital
 fs    :48kHz
 Format:3/2/.1
 Offset:-4dB
```

【確認できる項目】

Surround Mode	：設定されているサラウンドモードを表示します。
SIGNAL	：入力信号の種類を表示します。
fs	：入力信号のサンプリング周波数を表示します。
Format	：入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無）を表示します。
Offset	：ダイアログノーマライゼーションの補正値を表示します。
Flag	：入力信号がマトリックス処理されている場合は“MATRIX”、ディスクリート処理されている場合は“DISCRETE”を表示します。

ダイアログノーマライゼーション機能について

ドルビーデジタルソースの再生中に、自動的に動作します。
この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。
補正値は、**<STATUS>** でも確認できます。

```
   Dial.Norm
 Offset   - 4dB
```

数字は、標準レベルに補正した場合の補正値です。

HDMI Information
（HDMI情報）

HDMIの入力信号やモニターの情報を表示します。

●メニュー画面●

```
5. Information

 1. Status
 2. Audio Input Signal
☞3. HDMI Information
 4. Auto Surround Mode
 5. Quick Select
```

```
5-3. HDMI Signal Info.

  Resolution
    480p

  Color Space
    RGB 4:4:4

  Pixel Depth
    8bits
```

```
5-3. HDMI Monitor Info.

  Interface
   HDMI
  Support Resolution
    480i/p
    576i/p
    1080i:50Hz/60Hz
    720p:50Hz/60Hz
    1080p:50Hz/60Hz
    1080p:24Hz
```

1 HDMI Signal Information
（HDMI 信号情報）

HDMI の入力信号の情報を表示します。

【確認できる項目】

Resolution（解像度）　**Color Space**（カラースペース）
Pixel Depth（ビット数）

2 HDMI Monitor Information
（HDMI モニター情報）

本機に接続された HDMI モニターの情報を表示します。

【確認できる項目】

Interface（インターフェース）
Support Resolution（対応解像度）

Auto Surround Mode
（オートサラウンドモード）

オートサラウンドモードに記憶されている内容を表示します。

入力信号の種類ごとに、ラストメモリーされているサラウンドモードを表示します。

●メニュー画面●

```
5. Information

 1. Status
 2. Audio Input Signal
 3. HDMI Information
☞4. Auto Surround Mode
 5. Quick Select
```

```
5-4. Auto Surround Mode

[Analog][PCM]
  2CH:STEREO

[Digital]
  2CH:DOLBY PLIIx cinema
5.1CH:DOLBY/DTS SURROUND

[Multi ch]
     :MULTI CH IN
```

【確認できる項目】

Analog/PCM 2CH（アナログ/PCM 2CH）
Digital 2CH（デジタル2CH）
Digital 5.1CH（デジタル5.1CH）
Multi ch（マルチチャンネル）

Quick Select
（クイックセレクト）

クイックセレクトに記憶している内容を表示します。

●メニュー画面●

```
5. Information

  1. Status
  2. Audio Input Signal
  3. HDMI Information
  4. Auto Surround Mode
☞5. Quick Select
```

```
5-5. Quick Select

 ☞1. Quick Select 1
   2. Quick Select 2
   3. Quick Select 3
```

【確認できる項目】

Name（ネーム） **Input Source**（入力ソース）

Input Mode（入力モード） **Volume Level**（音量レベル）

MultEQ **Dynamic EQ** **Dynamic Volume**

Front Sp（フロントスピーカー）

Analog/PCM 2CH（アナログ/PCM 2CH）

Digital 2CH（デジタル2CH）

Digital 5.1CH（デジタル5.1CH）

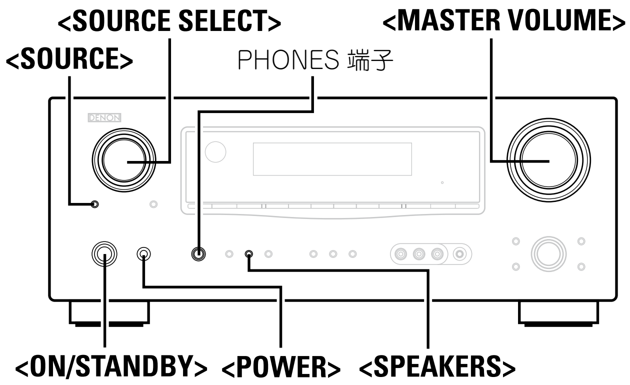
Multi ch（マルチチャンネル）

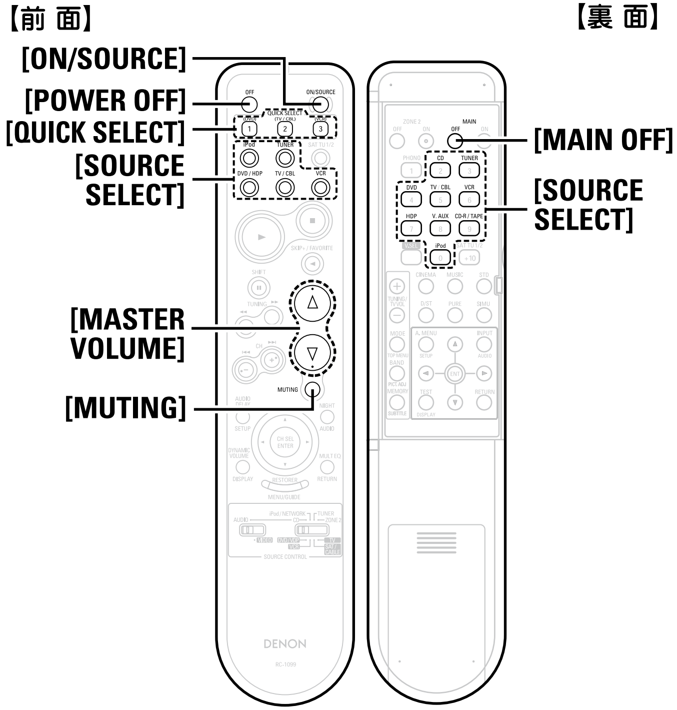
クイックセレクト1～3への記憶のしかたは、53ページをご覧ください。

再生のしかた

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**





準備

電源を入れる

1 **<POWER> を押す。**
電源表示が赤色に点灯して、電源がスタンバイ状態になります。

2 **<ON/STANDBY> または [ON/SOURCE] を押す。**
電源表示が緑色に点滅して、電源が入ります。

※ スタンバイモード時に **[SOURCE SELECT]** を押しても、電源が入ります。この場合、リモコンで選択した入力ソースになります。

※ スタンバイモード時に **[QUICK SELECT]** を押しても、電源が入ります。この場合、リモコンで選択したクイックセレクトモードになります（☞53ページ）。

電源を切る

① **<ON/STANDBY>** または **[POWER OFF]** を押す。
電源がスタンバイ状態になります。

② **<POWER>** を押す。
電源表示が消灯して、電源が切れます。

ご注意

- 電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、**<POWER>** を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ゾーン２の電源がオンのときに、メインゾーンの電源のみオフにしたい場合には、**[MAIN OFF]** を押してください。

入力ソースを選ぶ

SOURCE SELECT で選ぶ。
<SOURCE SELECT> を回すたびに、または **[SOURCE SELECT]** を押すたびに、入力ソースが切り替わります。

入力ソースに "Rec Select" または "Video Select" を選んでいる場合は、**<SOURCE>** を押してから **<SOURCE SELECT>** を回してください。

再生中にできる操作

主音量の調節

<MASTER VOLUME> を回すか、[MASTER VOLUME] を押す。

【可変できる範囲】 – – – –80.0dB ~ 18.0dB

ご注意
入力信号とチャンネルレベルの設定などにより、可変できる範囲が異なります。

一時的に音を消す（ミューティング）

[MUTING] を押す。

- メニューの "Manual Setup" – "Option Setup" – "Volume Control" – "Mute Level" で設定したレベルまで減衰します。
- 解除するときは、もう一度 **[MUTING]** を押してください。主音量を調節しても解除することができます。

ヘッドホンで音を聴く

本機の PHONES 端子に、ヘッドホンのプラグを差し込む。
自動的にスピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意
ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

フロントスピーカーを切り替える

<SPEAKERS> を押す。

→ Front A → Front B → Front A+B →（Front A に戻る）

ご注意
"Front Speaker Setup" で "Custom" に設定すると、**<SPEAKERS>** は操作できません（☞28 ページ）。

映像機器や音声機器の再生

基本操作

1 準備をする。
① BD、DVD や CD などのソフトをセットする。
（☞ 各機器の取扱説明書）
② 映像機器を再生する場合は、モニターの入力を切り替える。（☞ モニターの取扱説明書）

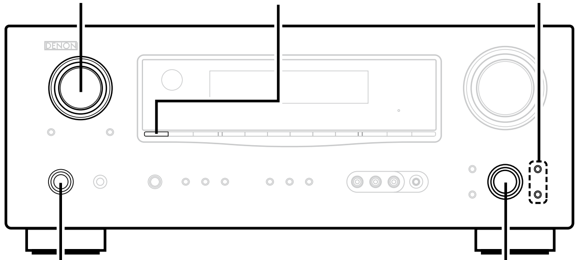
2 <SOURCESELECT> を回すか、[SOURCESELECT] を押して、本機の入力ソースを切り替える。

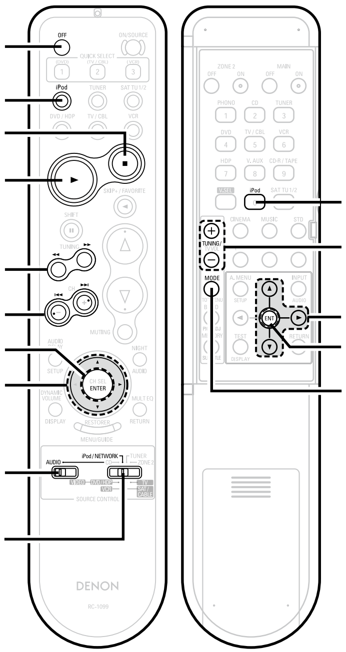
3 再生をはじめる。
（☞ 各機器の取扱説明書）

リモコンで外部機器の操作をおこなうことができます。
「リモコン操作」（☞55ページ）をご覧ください。

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → BUTTON
本体のみにあるもの → <BUTTON>
リモコンのみにあるもの → [BUTTON]





iPod® を再生する

iPod 用コントロールドック（ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W、別売り）を使用することにより、iPod の音楽を再生することができます。また、リモコンでも操作することができます。

iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc. の商標または登録商標です。

※ iPod は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

基本操作

1 準備をする。

① DENON 製 iPod 用コントロールドックに、iPod をセットする。（☞iPod 用コントロールドックの取扱説明書）
② iPod 用コントロールドックの入力を割り当てる。
お買い上げ時の設定では、VCR に iPod 用コントロールドックの入力が割り当てられています。

メニュー：“Input Setup” – “Assign” – “iPod Dock”（☞35 ページ）

2 <SOURCE SELECT> を回すか、[iPod] を押して、操作 1 - ②で割り当てた入力ソースを選ぶ。



（iPod の画面 ）

※ 上記の画面が表示されない場合は、iPodが正しく接続されていない可能性があります。再度接続をやり直してください。

3 [SOURCE CONTROL 1] を “AUDIO”、[SOURCE CONTROL 2] を “iPod/NETWORK” に設定する。

（☞55 ページ「リモコン操作」）

4 [MODE] を 2 秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。

長押しするたびに、モードが切り替わります。
リモートモードのときには、“Remote” を表示します。

【選択できるモード】		ブラウズモード	リモートモード
表示するディスプレイ		本機のディスプレイ	iPod のディスプレイ
再生できるファイル	音声ファイル	○	○
	映像ファイル	○ ＊1	○ ＊2
操作できるボタン	本機のリモコン	○	○
	iPod	×	○

＊1：iPod用コントロールドック ASD-3NまたはASD-3Wを使用時
＊2：ASD-1RまたはASD-11RとiPodの組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

- お買い上げ時の設定は、iPod用コントロールドックをVCR（iPod）端子に接続してお使いいただけます。
- 圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をするには、RESTORERモードをおすすめします（☞45ページ）。お買い上げ時の設定は“Mode3”になっています。
- iPodは、**<ON/STANDBY>** または **[POWER OFF]** で本機の電源をスタンバイ状態にしてから、取り外してください。iPod Dockの入力を割り当てていない入力ソースに切り替えても、iPodを取り外すことができます。
- iPod用コントロールドック ASD-3NまたはASD-3Wを使用する場合は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

音楽を聴く

1 △▽ で項目を選び、ENTER または ▷ で再生したい音楽ファイルを選ぶ。

2 ENTER または ▷ を押す。
再生をはじめます。

❑ 一時停止するには
再生中に **ENTER** または **[▶]** を押す。
もう一度押すと、再生を再開します。

❑ 早送りや早戻しするには
再生中に **[◀◀]**（早戻し）または **[▶▶]**（早送り）を長押しする。

❑ 頭出しするには
再生中に **[I◀◀]**（前の曲の頭出し）または **[▶▶I]**（次の曲の頭出し）を押す。

❑ 停止するには
再生中に **ENTER** を長押しするか、**[■]** を押す。

❑ リピート再生するには
[TUNING –] を押す。

【選択できる項目】 **All** **One** **OFF**

メニュー：“Input Setup” – “iPod” – “Repeat Mode” （☞37ページ）

❑ シャッフル再生するには
[TUNING +] を押す。

- **DENON製iPod用コントロールドックASD-1RまたはASD-11R接続時**

  【選択できる項目】 **Albums** **Songs** **OFF**

- **DENON製iPod用コントロールドックASD-3NまたはASD-3W接続時**

  【選択できる項目】 **ON** **OFF**

メニュー：“Input Setup” – “iPod” – “Shuffle Mode” （☞37ページ）

✎

- ブラウズモードの再生中に **<STATUS>** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名の確認ができます。
- ブラウズモードでは、フォルダ名とファイル名を表示できます。半角英数字と一部の記号のみを表示できます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。
- メニューの“Manual Setup” – “Option Setup” – “On-Screen Display” – “iPod Information”（☞32ページ）で、メニューの表示時間（初期値：30秒）を設定することができます。
  △▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。

iPod の静止画像やビデオを見る

iPod に保存してある写真やビデオのデータをモニターで見ることができます。（スライドショーやビデオ機能がある iPod のみ）

DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R を使用しているとき

1 [MODE] を長押しして、リモートモードにする。
本機のディスプレイに“Remote iPod”を表示します。

2 iPodの画面を見ながら △▽ を押して、“写真”または“ビデオ”を選ぶ。

3 再生したい画像が表示されるまで、[ENTER]を押す。

✎

- iPodの写真データやビデオデータをモニターに映し出すには、iPodの“スライドショー設定”または“ビデオ設定”の“TV出力”を“オン”に設定する必要があります。詳しくは、iPodの取扱説明書をご覧ください。
- DENON製iPod用コントロールドック ASD-3NまたはASD-3Wを使用してiPodのビデオファイルを見る場合は、ブラウズモードにて“iPod” – “Video”を選んでください。

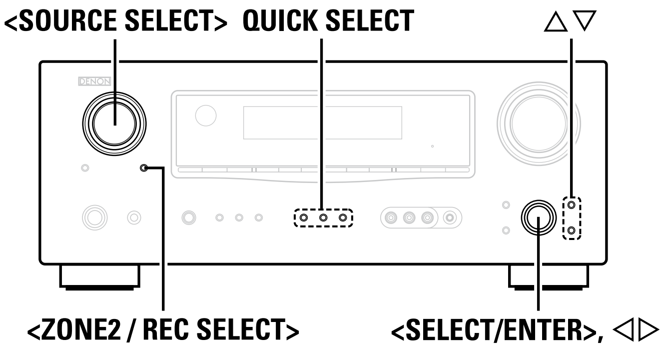
ご注意

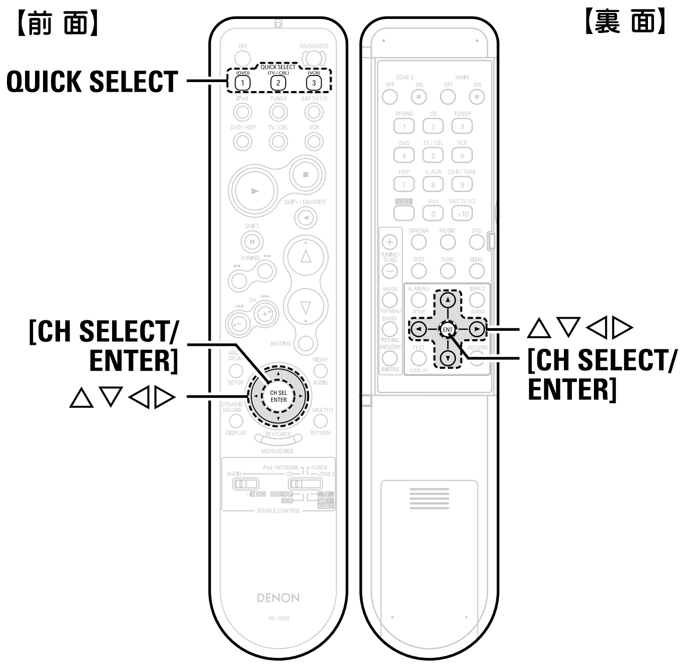
- iPodの種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一、iPodのデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

その他の操作や機能

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**





その他の操作

外部機器での録音 / 録画 (REC OUT モード)

再生中の曲を聴きながら、別のプログラムソースを録音 / 録画することができます。

1 **<ZONE2/REC SELECT> を押す。**
ディスプレイに“ZONE2 Source”を表示します。

2 **“RECOUT Source”が表示されるまで、<SOURCE SELECT> を回す。**
“REC”表示が点灯します。

ZONE2 Source ↔ ZONE2 TUNER ↔ ···· ↔ ZONE2 V.AUX
↕ ↕
RECOUT V.AUX ↔ ······ ↔ RECOUT TUNER ↔ RECOUT Source

3 **<SOURCE SELECT> を回して、録音/録画したい入力ソースを選ぶ。**

4 **プログラムソースを再生する。**
操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

5 **録音/録画をはじめる。**
操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

- 解除する場合は、**<ZONE2/REC SELECT>** を押してから、ディスプレイに“RECOUT Source”が表示されるまで、**<SOURCE SELECT>** を回してください。
- 録音 / 録画する前に、あらかじめ「試し録音」や「試し録画」をおこなってください。
- REC OUT モードで選ばれた入力ソースは、ゾーン 2 からも出力します。
- REC OUT モード中は、リモコンのゾーン 2 モードのボタンは操作できません。

ご注意

- アナログの REC OUT 端子からデジタル信号は出力されません。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。
- メニューの“Manual Setup”–“Option Setup”–“Source Delete”で“Delete”に設定した入力ソースは選べません（☞32 ページ）。

便利な機能

HDMI コントロール機能

本機を HDMI コントロール機能に対応しているテレビやプレーヤーに接続した場合に、以下の操作ができます。
本機の設定以外に、各機器の設定が必要です。詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

- テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。
  テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
- テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。（テレビのスピーカーからの出力と、本機に接続したスピーカーからの出力の切り替え）
- テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。
- テレビの入力切り替え操作に連動して、本機の入力ソース切り替えができます。
- プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。

- テレビの音声を本機で聞きたい場合は、光デジタルまたはアナログ接続をしてください。お使いのテレビに、両方の接続端子が装備されている場合は、光デジタル接続をしてください。
- 本機能をお使いになる場合は、メニューの“Manual Setup”–“HDMI Setup”–“HDMI Control”を“ON”に設定してください（☞28ページ）。

ご注意

HDMIコントロール機能をお使いになる場合、メニューの“Input Setup”–“Assign”–“HDMI In”の設定で、“TV/CBL”を割り当てることはできません。

操作のしかた

1 本機とHDMIコントロール機器に対応している機器をHDMIケーブルで接続する（☞14ページ）。

2 HDMIケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。

3 HDMIケーブルで接続しているすべての機器の設定を確認し、HDMIケーブルでコントロール機能を有効にする。

※ 接続機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 操作1～3は、一度操作すれば二回目以降は必要ありません。
※ いずれかの機器の電源コンセントを抜いた場合は、操作2、3をおこなってください。

4 テレビの入力を、本機に接続したHDMI入力に切り替える。

5 本機の入力をHDMI入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るかを確認する。

6 テレビの電源をスタンバイにし、本機がスタンバイになることを確認する。

✎

本機が動作しない場合は、以下のことをご確認ください。

- メニューの“Manual Setup”–“HDMI Setup”–“HDMI Control”の設定（☞28ページ）が“ON”になっているか。
- メニューの“Manual Setup”–“HDMI Setup”–“Power Off Control”の設定（☞29ページ）が“ON”になっているか。
- テレビのHDMIを使用したコントロール機能の設定が正しく設定されているか。（詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。）
- 以下の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、操作2、3をおこなってください。
  - ・メニューの“Input Setup”–“Assign”–“HDMI In”の設定変更（☞34ページ）
  - ・HDMIで接続している機器の接続変更や機器の増加

ご注意

本機の電源を切ると、HDMI コントロール機能は働きません。電源を入れるかスタンバイ状態にしてください。

チャンネルレベルの調節

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調節をおこなってください。

1 <SELECT/ENTER> または [CH SELECT/ENTER] を押す。

```
Channel Volume

FL ◀  0.0dB▶ SR      0.0dB
C     0.0dB  SBR     0.0dB
FR    0.0dB  SBL     0.0dB
SW    0.0dB  SL      0.0dB

             Fader
             FRONT◀:▶REAR
```

2 △▽、<SELECT/ENTER> または [CH SELECT/ENTER] でスピーカーを選ぶ。

ボタンを押すたびに、スピーカーが切り替わります。

3 ◁ ▷ で音量を調節する。

※ サブウーハーの場合“-12dB”のときに音量を下げる操作をおこなうと、“OFF（なし）”の設定になります。

ご注意

入力ソースが“iPod”のとき、チャンネルレベルの設定はできません。

フェーダー機能

フロント側またはリア側のスピーカーの音量をまとめて調節（減衰）します。

1 <SELECT/ENTER> または [CH SELECT/ENTER] を押す。

2 △▽、<SELECT/ENTER> または [CH SELECT/ENTER] で“Fader”を選ぶ。

ボタンを押すたびに、スピーカーが切り替わります。

3 ◁ ▷ でスピーカーの音量を調節する。

（◁：フロント側、▷：リア側）

✎

- フェーダー機能は、サブウーハーには働きません。
- 一番小さい値に調節されているスピーカーの音量が、-12dB になるまで調節できます。

クイックセレクト機能

現在再生中の入力ソース、入力モード、サラウンドモード、MultEQ や音量の設定を記憶させます。

1 入力ソース、、サラウンドモード、MultEQ、Dynamic EQ、Dynamic Volume、フロントスピーカーや音量の設定を記憶させたい状態に設定する。

2 “Memory”が点灯するまで、QUICK SELECT を長押しする。

再生中の設定が記憶されます。

【お買い上げ時の設定】

	入力ソース	音量
クイックセレクト1	DVD	–40dB
クイックセレクト2	TV/CBL	–40dB
クイックセレクト3	VCR	–40dB

✎

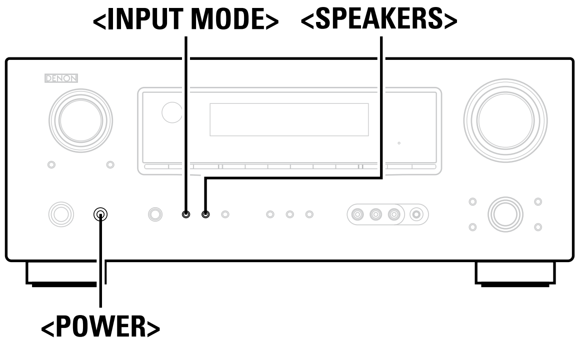
- 設定を呼び出すときは、呼び出したい設定が記憶されている QUICK SELECT を押してください。
- クイックセレクト名を変更することができます（☞33ページ）。

ご注意

メニューの“Manual Setup”–“Option Setup”–“Source Delete”（☞32 ページ）で、クイックセレクトに記憶させている入力ソースを削除すると、そのクイックセレクトの設定も削除されます。このような場合は、もう一度クイックセレクトを記憶させてください。

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**



パーソナルメモリープラス機能

最後に選ばれた設定（入力モード、サラウンドモード、HDMI 出力モード、MultEQ、Dynamic EQ、Dynamic Volume やオーディオディレイなど）を入力ソースごとに設定します。
入力ソースに切り替えると、自動的に前回使用されたときの設定になります。

サラウンドパラメーター、トーンの設定および各スピーカーの音量は、サラウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

バックアップメモリー

電源を切ったり、電源コードを抜いたりした場合でも、各種設定を保存して約 1 週間保持します。

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。

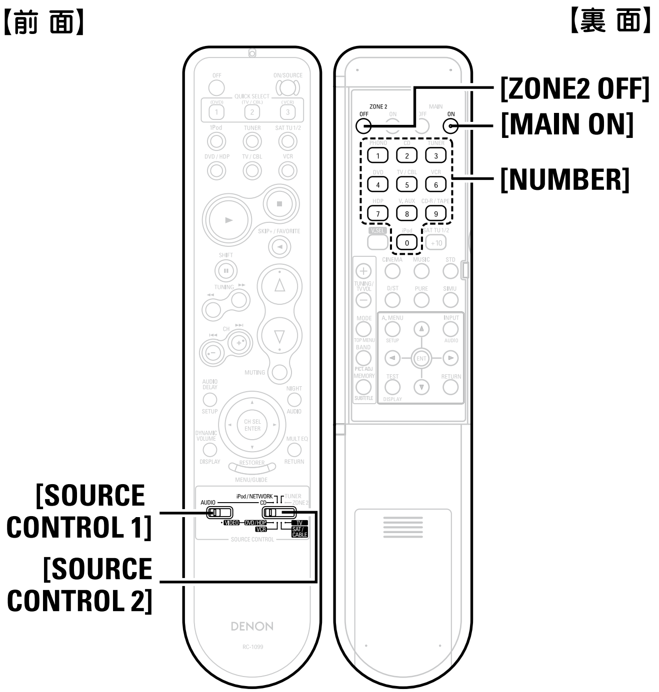
1 **<POWER> を押して電源を切る。**

2 **<INPUT MODE> と <SPEAKERS> を同時に押しながら、<POWER> を押す。**

3 **ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅したら、2つのボタンから指を離す。**

操作 3 でディスプレイ表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、もう一度操作 1 からやり直してください。

リモコン操作



✎

お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。

DENON 製オーディオ機器を操作する

1 **[SOURCE CONTROL 1] を“AUDIO”に切り替える。**

2 **[SOURCE CONTROL 2] を操作したい機器（CD または iPod/NETWORK）に切り替える。**

3 **オーディオ機器を操作する。**

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

プリセット登録する

- 付属のリモコンにプリセット登録すると、各社の機器の操作ができるようになります。
- 機種によっては操作できない場合や、機器が正常に動作しない場合があります。

1 **[SOURCE CONTROL 1] を“AUDIO” または “VIDEO”に切り替える。**

※ **[SOURCE CONTROL 1]** は次のように切り替えてください。
AUDIO：CD を操作する場合。
VIDEO：DVD/HDP、VCR、SAT/CABLE または TV を操作する場合。

2 **[SOURCE CONTROL 2] を登録したい機器に切り替える。**

3 **[ZONE2 OFF] と [MAIN ON] を同時に押す。**
送信表示が点滅します。

4 **プリセットコード表（☞ 巻末）を参照して、登録する機器のメーカーの番号（3 桁）を [NUMBER] を押して入力する。**

5 **続けて他の機器の登録をおこなう場合：操作 1 ～ 4 をくり返しおこなう。**

✎

- メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。
- DVD/HDP および SAT/CABLE は、1 つの機器しかプリセット登録できません。
- VDP（ビデオディスクプレーヤー）は、**[SOURCE CONTROL 2]** を“DVD/HDP”に設定したときにプリセットできます。

プリセット登録した機器を操作する

1 **[SOURCE CONTROL 1] を“AUDIO” または “VIDEO”に切り替える。**

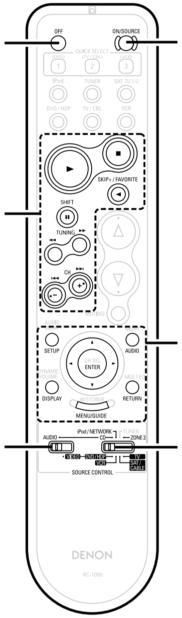
※ **[SOURCE CONTROL 1]** は次のように切り替えてください。
AUDIO：CD を操作する場合。
VIDEO：DVD/HDP、VCR、SAT/CABLE または TV を操作する場合。

2 **[SOURCE CONTROL 2] を操作したい機器に切り替える。**

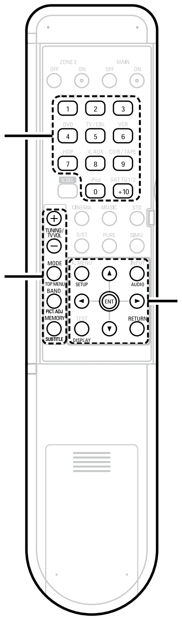
3 **機器を操作する。**

※ 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

❏ 前面



❏ 裏面



機器ボタンごとのボタンのはたらき

❏ 前面

操作機器	CD プレーヤー	iPod	DVD プレーヤー	ブルーレイディスクプレーヤー	ビデオディスクプレーヤー（VDP）	ビデオデッキ	衛星チューナー	ケーブルテレビ	テレビ（モニター）
SOURCE CONTROL 1	**AUDIO**		**VIDEO**						
SOURCE CONTROL 2	**CD**	**iPod/ NETWORK**	**DVD / HDP**			**VCR**	**SAT / CABLE**		**TV**
POWER OFF	–	–	電源オフ		–	–	–	–	–
ON/SOURCE	–	–	電源オン		電源オン / スタンバイ				
▶	再生	再生 / 一時停止	再生				パンチスルー		
■	停止		停止						
SHIFT, ❚❚	一時停止	–	一時停止						
◀, SKIP + / FAVORITE	ディスクスキップ＋	※ Favorites Direct	ディスクスキップ	–	–	–			
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）		マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）						
|◀◀ ▶▶|, CH + –	オートサーチ（頭出し）		オートサーチ（頭出し）			チャンネル切り替え（+、-）			
SETUP	–	–	セットアップ		–	–	–	–	–
△▽◁▷	–	カーソル	カーソル操作		–	–	カーソル操作		
AUDIO	–	–	音声の切り替え		–	–	–	–	–
ENTER	–	確定	設定の確定		–	–	設定の確定		
DISPLAY	–	–	ディスプレイの切り替え		–	–	ディスプレイの切り替え		
RETURN	–	–	リターン		–	–	リターン		
MENU / GUIDE	–	–	メニューの呼び出し		–	–	メニューの呼び出し		

※ iPod 用コントロールドック ASD-3N または ASD-3W を使用時に、**FAVORITE** を操作することができます。

❑ 裏面

操作機器	CD プレーヤー	iPod	DVD プレーヤー	ブルーレイ ディスク プレーヤー	ビデオ ディスク プレーヤー （VDP）	ビデオ デッキ	衛星 チューナー	ケーブルテ レビ	テレビ （モニター）
SOURCE CONTROL 1	**AUDIO**		**VIDEO**						
SOURCE CONTROL 2	**CD**	**iPod/ NETWORK**	**DVD / HDP**			**VCR**	**SAT / CABLE**		**TV**
NUMBER (0 ~ 9, +10)	–	–	数字入力/選曲			–	チャンネル		
TUNING (+, –) / TV VOL (+, –)	⊕ CD ランダム ⊖ CD リピート	⊕ iPod ランダム ⊖ iPod リピート	⊕ DVD ランダム ⊖ DVD リピート	⊕ ブルーレイディスク ランダム ⊖ ブルーレイディスク リピート	⊕ テレビ音量（+） ⊖ テレビ音量（–）		⊕ DBS 音量（+） ⊖ DBS 音量（–）	⊕ ケーブル 音量（+） ⊖ ケーブル 音量（–）	⊕ テレビ 音量（+） ⊖ テレビ 音量（–）
MODE, TOP MENU	–	ページサーチモードの切り替え（1回押し） ブラウズ/リモートモードの切り替え（長押し）	メニューの呼び出し		–	–	メニューの呼び出し		
SETUP	–	–	セットアップ		–	–	–	–	–
△▽◁▷	–	–	カーソル操作		–	–	カーソル操作		
AUDIO	–	–	音声の切り替え		–	–	–	–	–
BAND, PICTURE ADJUST	–	※1 トップ メニュー	画質調整		–	–	–	–	–
ENTER	–	–	設定の確定		–	–	設定の確定		
MEMORY, SUBTITLE	–	※1 お気に入り 登録	サブタイトル		–	–	–	–	–
DISPLAY	–	–	ディスプレイの 切り替え		–	–	ディスプレイの切り替え		
RETURN	–	–	リターン		–	–	リターン		
初期設定（プリセットコード）	DENON （111）	–	DENON （111）	※2 DENON （121）	–	HITACHI （108）	–	ABC （007）	HITACHI （134）
特記事項	①	–	①, ②			①	①, ③		①, ③

【特記事項】

① それぞれのモードには、一つの機器しかプリセット登録することができません。また、新しいコードをプリセット登録すると前の登録は自動的に消去されます。

② DVD のリモコンボタンは、メーカーによって機能名が異なる場合がありますので、あらかじめご確認ください。

③ TV と SAT/CBL モードには CD、iPod/NETWORK、DVD/HDP、VCR のいずれかのボタンを割り当てることができます（☞57 ページ「パンチスルー機能」）。

※ 1：iPod 用コントロールドック ASD-3N または ASD-3W を使用しているときに操作できます。

※ 2：プリセットコードのお買い上げ時の設定は、111（DVD プレーヤー）です。ブルーレイディスクプレーヤーの設定で、リモコンコードを“DENON2”に設定した場合は、ブルーレイディスクプレーヤーのプリセットコード“121”を使用してください。

パンチスルー機能

パンチスルー機能は、**[SOURCE CONTROL 2]** が“SAT/CABLE”または“TV”の位置でも CD、iPod/NETWORK、DVD/HDP または VCR の次の操作ができます。

- 再生
- 停止
- 一時停止
- ディスクスキップ
- 早送り
- 巻き戻し
- サーチ

※ お買い上げ時は、“設定なし”に設定されています。

1 [SOURCE CONTROL 1] を“VIDEO”に切り替える。

2 [SOURCE CONTROL 2] をパンチスルーさせたい機器（SAT/CABLE または TV）に切り替える。

3 [MEMORY] と [RETURN] を同時に押す。

送信表示が点滅します。

4 下表を参照して、パンチスルーしたい機器に対応する番号を入力する。

パンチスルーしたい機器	番号
CD	1
iPod/NETWORK	2
DVD/HDP	4
VCR	5
設定なし	0

アンプアサインの設定と接続について

本機は、次の再生に対応しています。

- **マルチゾーン再生（ゾーン 2）**
- **バイアンプ再生（フロントスピーカー）**

ご注意

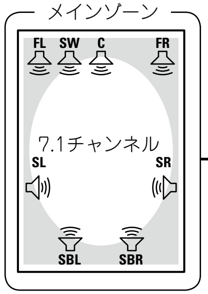
- バイアンプ再生には、バイアンプ接続対応の端子を持つスピーカーをお使いください。
- バイアンプ接続のときは、スピーカー端子の短絡板または短絡用ワイヤーを外してください。

アンプアサイン機能によるマルチゾーンの設定

「設定１」〜「設定３」の中からお好みの再生環境を選び、メニューの"Manual Setup"–"Option Setup" – "Amp Assign"（☞31 ページ）で該当するアンプアサインモードを設定してください。また、スピーカーの接続も「アンプアサインモードの設定と各スピーカー端子に接続するスピーカー」の説明の通りにおこなってください。

設定 1:

● 7.1 チャンネル再生（お買い上げ時の設定）



アンプアサインモード:
7.1ch（お買い上げ時の設定）

❑ アンプアサインモードの設定と各スピーカー端子に接続するスピーカー

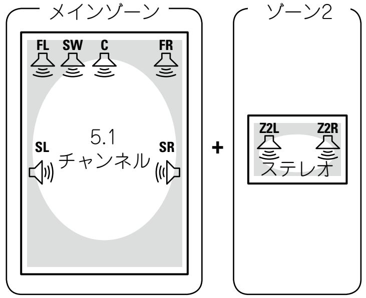
スピーカー端子 ＼ アンプアサインモード	FRONT		CENTER	SURR		SURR. BACK/ AMP ASSIGN	
	R	L		R	L	R	L
7.1ch	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL

- マルチゾーン再生（設定２）をおこなわずに 5.1 チャンネル再生をおこなう場合は、この設定でおこなってください。
- SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子に接続されたスピーカーからは、サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。

設定 2:

●マルチゾーン再生

5.1 チャンネル再生＋ゾーン 2 のステレオ再生



アンプアサインモード:
ZONE2

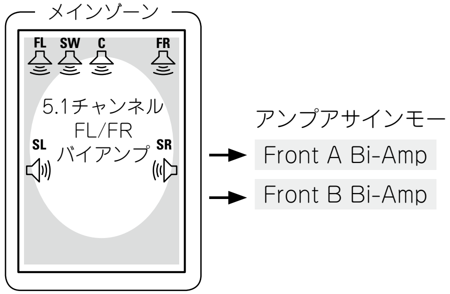
❑ アンプアサインモードの設定と各スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子 ＼ アンプアサインモード	FRONT		CENTER	SURR		SURR. BACK / AMP ASSIGN	
	R	L		R	L	R	L
ZONE2	FR	FL	C	SR	SL	Z2R	Z2L

ゾーン 2 の電源が入っているとき、SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子に接続されたスピーカーからは、ゾーン 2 チャンネルの音声を出力します。

設定 3:

●メインゾーンで FL/FR チャンネルをバイアンプ接続して、5.1 チャンネル再生をする場合



❑ アンプアサインモードの設定と各スピーカー端子に接続するスピーカー

<table>
<tr><th rowspan="2">スピーカー端子
アンプアサインモード</th><th colspan="2">FRONT-A</th><th colspan="2">FRONT-B</th><th rowspan="2">CENTER</th><th colspan="2">SURR</th><th colspan="2">SURR. BACK / AMP ASSIGN</th></tr>
<tr><th>R</th><th>L</th><th>R</th><th>L</th><th>R</th><th>L</th><th>R</th><th>L</th></tr>
<tr><td rowspan="2">Front A Bi-Amp</td><td rowspan="4">FR-A</td><td rowspan="4">FL-A</td><td rowspan="4">FR-B</td><td rowspan="4">FL-B</td><td rowspan="4">C</td><td rowspan="4">SR</td><td rowspan="4">SL</td><td>FR</td><td>FL</td></tr>
<tr><td colspan="2">FL-A/FR-A
バイアンプ接続</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Front B Bi-Amp</td><td>FR</td><td>FL</td></tr>
<tr><td colspan="2">FL-B/FR-B
バイアンプ接続</td></tr>
</table>

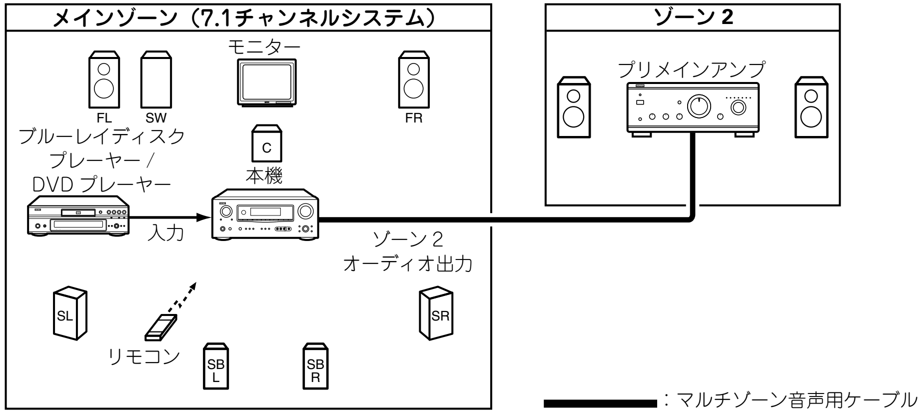
✎

SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子に接続されたスピーカーからは、バイアンプ用としてフロント A またはフロント B チャンネルを出力します。

マルチゾーンの設定と操作

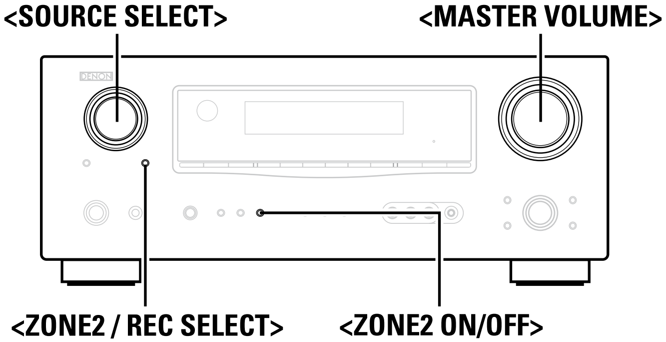
ゾーン 2 用のプリメインアンプを準備してください。

	オーディオ出力端子	オーディオ信号
ゾーン2	ZONE2 OUT	Stereo

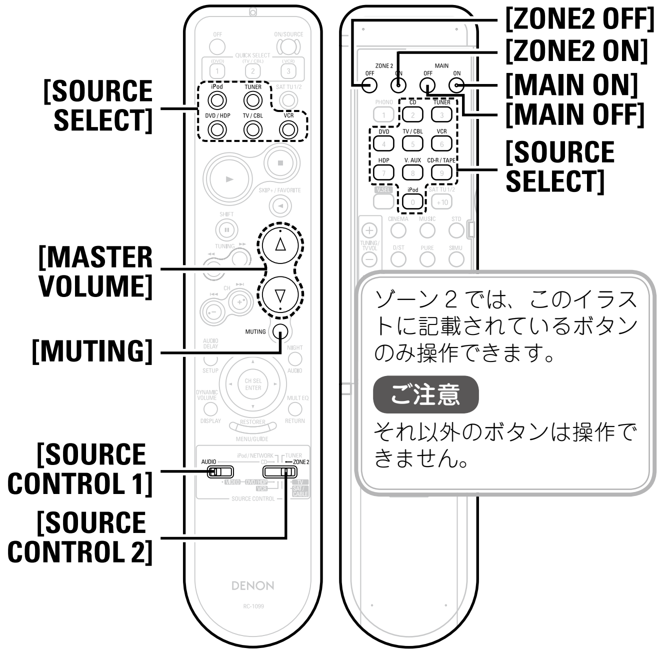


取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**



【前 面】　【裏 面】



マルチゾーンの操作

電源の入 / 切

【本体での操作】

<ZONE2 ON/OFF> を押す。
電源が入ると、ディスプレイのマルチゾーン表示（Z2）が点灯します。

【リモコンでの操作】

[ZONE2 ON] または **[ZONE2 OFF]** を押す。

- スタンバイモード時に **[SOURCE SELECT]** を押すと、電源が入ります。
- ゾーン２を使用しているときに **[MAIN ON]** または **[MAIN OFF]** を押すと、メインゾーンの電源をオン / オフすることができます。

入力ソースの選択

【本体での操作】

① **<ZONE2 / REC SELECT>** で設定するゾーンを選ぶ。
② **<SOURCE SELECT>** を回す。

【リモコンでの操作】

① **[SOURCE CONTROL 1]** を "AUDIO"、**[SOURCE CONTROL 2]** を "ZONE2" に設定する。
② **[SOURCE SELECT]** を押す。

音量の調節

【本体での操作】

① **<ZONE2 / REC SELECT>** で調節したいゾーンを選ぶ。
② **<MASTER VOLUME>** を回して調節する。

【リモコンでの操作】

① **[SOURCE CONTROL 1]** を "AUDIO"、**[SOURCE CONTROL 2]** を "ZONE2" に設定する。
② **[MASTER VOLUME]** を押す。

［可変範囲］ – – – **–70dB** ~ **–40dB** ~ **18dB**

- 音量調節は、メニューの "Manual Setup" – "ZONE2 Setup" – "Volume Limit" で設定された値まで音量を上げることができます（☞31 ページ）。
- ゾーン２の音量は、メニューの "Manual Setup" – "Option Setup" – "Amp Assign" で "ZONE2" を選んだときのみ調節できます。

一時的に音を消す

① **[SOURCE CONTROL 1]** を "AUDIO"、**[SOURCE CONTROL 2]** を "ZONE2" に設定する。
② **[MUTING]** を押す。
メニューの "Manual Setup" - "ZONE2 Setup" - "Mute Level" で設定したレベルまで減衰します（☞31 ページ）。
キャンセルする場合は、音量を調節するか、もう一度 **[MUTING]** を押してください。
ゾーン２の電源がオフのとき、この設定はキャンセルされます。

ゾーン２で選んだ入力ソースの音声を、録音用出力端子からも出力します。

ご注意

COAXIAL 端子、OPTICAL 端子や HDMI 端子から入力されたデジタル音声信号は、ゾーン２では再生できません。

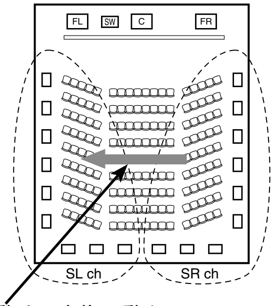
その他の情報

スピーカーの設置について

サラウンドバックスピーカーについて

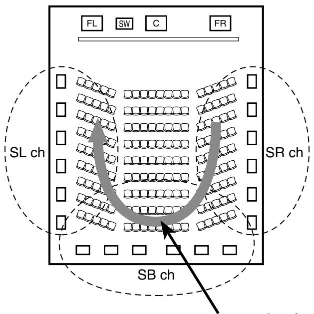
5.1 チャンネルシステムにサラウンドバックスピーカーを追加することにより、真後ろへの定位を容易に実現できます。同時に側方から後方にかけての音像が絞られ、側方から後方へ回り込む音、正面から真後ろへ移動する音など、サラウンド信号の表現力が大幅に向上しました。

5.1ch システムによる定位・音像の変化



SR → SL と移動する音像の動き

6.1ch システムによる定位・音像の変化



SR → SB → SL と移動する音像の動き

また、6.1 チャンネルで録音されたソースだけでなく、従来の 2 〜 5.1 チャンネルソースでもよりサラウンド効果を高めることができます。

サラウンドバックスピーカーの本数について

2 本のスピーカーを使用することをおすすめします。
特にダイポール（双方向）特性のスピーカーをお使いになる場合は、必ず 2 本使用してください。

サラウンドバックスピーカーを使用する場合のサラウンド L、R チャンネルの設置について

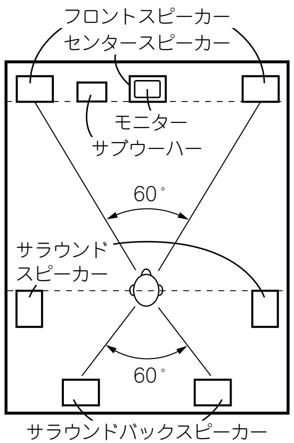
サラウンド L、R チャンネルのスピーカーをやや前寄りに設置することをおすすめします。

スピーカーの設置例

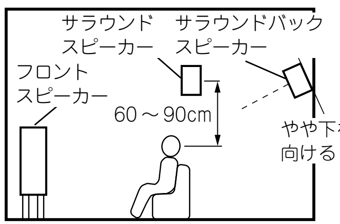
次にスピーカーの設置例をご紹介します。これらを参考に、お手持ちのスピーカーを種類や用途に合わせて設置してください。

【1】 サラウンドバックスピーカーを使用する場合

① 主に映画再生をおこなう場合
お使いになるサラウンドスピーカーがシングルウェイまたは 2 ウェイスピーカーの場合におすすめします。



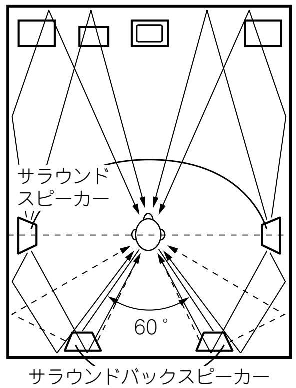
【上面から見た図】



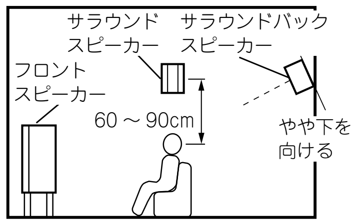
【側面から見た図】

② 映画再生をメインにおこない、サラウンドスピーカーに拡散型スピーカーを使用する場合
映画再生をより効果的におこなうために、サラウンドスピーカーにダイポール特性やトライポール（三方向）特性などを持つ、拡散音場型のスピーカーを用いる場合は、サラウンドスピーカーの設置場所を①に比べてやや前寄りにします。

サラウンド音の視聴ポイントに到達するイメージ

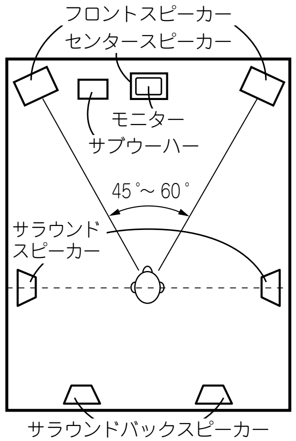


【上面から見た図】

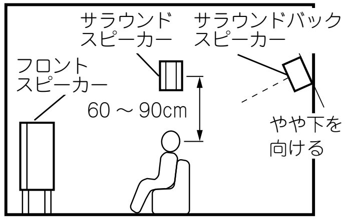


【側面から見た図】

③映画再生または音楽再生のサラウンドスピーカーを使用する場合

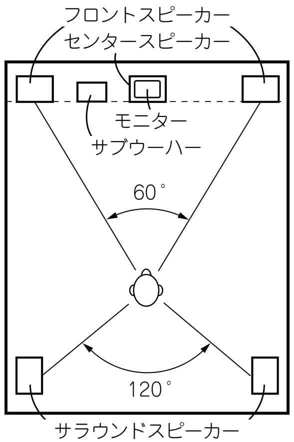


【上面から見た図】

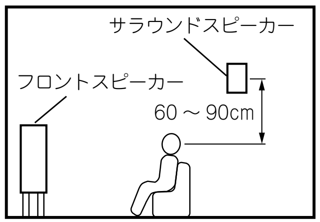


【側面から見た図】

【2】サラウンドバックスピーカーを使用しない場合



【上面から見た図】



【側面から見た図】

サラウンドについて

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンド

Dolby Digital（ドルビーデジタル）

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド 2 チャンネル（SL、SR）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。
AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital Plus（ドルビーデジタルプラス）

Dolby Digital Plus は、ドルビーデジタルを改良した信号フォーマットで、最大 7.1ch のデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来のドルビーデジタルに対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby TrueHD（ドルビー TrueHD）

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。
サンプリング周波数とチャンネルも最大 96kHz/7.1ch に対応し、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

Dolby Pro Logic II（ドルビープロロジック II）

Dolby Pro Logic II は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性 20Hz ～ 20kHz 以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic IIx（ドルビープロロジック IIx）

Dolby Pro Logic IIx は、Dolby Pro Logic II をさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“Cinema”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります。

Dolby Digital EX（ドルビーデジタル EX）

ドルビーデジタル EX は、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット“DOLBY DIGITAL SURROUND EX”を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した 6.1ch のサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた 6.1ch での音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

DTS サラウンド

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1ch のデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1ch のデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1ch のデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、最大 96kHz/7.1ch に対応し、さらにロスレス音声符号化技術によってマスター音声の忠実な再現を可能としています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1ch のデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えて SB チャンネルを追加した 6.1ch のデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に SB チャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1ch 音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS NEO:6™ サラウンド

DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した「DTS NEO:6 Cinema」と、音楽再生に適した「DTS NEO:6 Music」があります。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1ch となります。

本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,451,942 号、5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,226,616 号、6,487,535 号、その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS のロゴ、シンボル、DTS-HD および DTS-HD Master Audio は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc. ©1996-2007 DTS, Inc. 版権所有。

Audyssey

Audyssey MultEQ®

Audyssey MultEQ は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
MultEQ は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

Audyssey Dynamic EQ™

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ 技術と連動することによりすべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume™

Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

本機は、Audyssey Laboratories からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ®、Audyssey Dynamic EQ™ および Audyssey Dynamic Volume™ は、Audyssey Laboratories の商標です。

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

HDMI とは、DVI（Digital Visual Interface）をベースに、民生機器用に機能を最適化した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格です。
非圧縮のデジタル映像と、マルチチャンネルオーディオの転送が 1 つの接続でおこなえます。
また、DVI と同様にデジタル画像信号の暗号化方式である著作権保護技術の HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）にも対応しています。

Deep Color

微小な映像データを増やすことで、色の変化をより滑らかにして、異なる色彩間の微妙なグラデーションを表現することが可能になります。また、黒と白の間に従来よりもより多くのグレーを表現することが可能になります。

xvYCC

次世代の色空間 “xvYCC” は現行のハイビジョンテレビの 1.8 倍の色情報を再現することができます。
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。

Lip Sync

HDMI 1.3 対応機器には、自動的に映像と音声の同期をおこなう機能を内蔵しており、正確な同期処理をおこなうことができます。

“HDMI”、“HDMI ロゴ” および “High-Definition Multimedia Interface”は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

MPEG-2 AAC について

MPEG-2　AAC（Advanced Audio Coding）は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。
MPEG-2　AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

❏ MPEG-2　AAC のスペック（概要）

- アルゴリズム：MAINプロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scalable Sampling Rate）プロファイル
- サンプリング周波数：
  8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数：最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能：LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

❏ 米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

サラウンドパラメーター 一覧表

サラウンドモード	信号と調節可能なモード															
	チャンネル出力					パラメーター ※（ ）内は初期値										
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンド バック 左 / 右	サブ ウーハー	D. Comp ＊1	LFE ＊2	AFDM ＊1	SB CH Out	Cinema EQ.	Mode	Room Size	Effect	Delay time	Subwoofer	DRC ＊3
PURE DIRECT, DIRECT	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×	×	○	○ (Auto)
MULTI CH DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (0dB)	○ (ON)	○	×	×	×	×	×	×	×
STEREO	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (Auto)
EXT. IN	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (0dB)	○ (ON)	○	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (注1)	○ (Cinema)	×	×	×	×	○ (Auto)
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎	×	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (注2)	○ (Cinema)	×	×	×	×	○ (Auto)
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (注1)	○ (Cinema)	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	○ (Auto)
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
5CH/7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	×	×	×	×	×
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	×	×	○ (30 ms)	×	×
VIRTUAL	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×

○：信号あり / 制御可能
×：信号なし / 制御不可能
◎：スピーカー有り無しの設定により、オン / オフ可能

○： 信号あり / 制御可能
×： 信号なし / 制御不可能
注 1：メニューの “Parameter” – “Surround Parameter” – “Mode” の設定が “Cinema” のときに選べます（☞41 ページ）。
注 2：メニューの “Parameter” – “Surround Parameter” – “Mode” の設定が “Cinema” または “PL” のときに選べます（☞41 ページ）。

ご注意

＊1：Dolby Digital および DTS 信号再生時
＊2：Dolby Digital、DTS およびリニア PCM（マルチチャンネル）
＊3：Dolby TrueHD 信号再生時

サラウンドモード	信号と調節可能なモード										
	パラメーター ※（ ）内は初期値										
	PRO LOGIC Ⅱ/Ⅱx MUSICモードのみ			NEO:6 MUSIC モードのみ	EXT. IN モードのみ	Tone (注5)	Night Mode (注5)	MultEQ	Dynamic EQ (注6)	Dynamic Volume (注7)	RESTORER
	Panorama	Dimension	C. Width	Center Image	SW ATT						
PURE DIRECT, DIRECT	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (注4)	○ (注4)	○ (注4)	○
MULTI CH DIRECT	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (注4)	○ (注4)	○ (注4)	×
STEREO	×	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
EXT. IN	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
MULTI CH IN	×	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DTS NEO:6	×	×	×	○ (0.3)	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DOLBY DIGITAL	×	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DOLBY DIGITAL Plus	×	×	×	×	×	○ (0dB)	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DOLBY TrueHD	×	×	×	×	×	○ (0dB)	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DTS SURROUND	×	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DTS-96/24	×	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DTS-HD	×	×	×	×	×	○ (0dB)	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
MPEG2 AAC	×	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
5CH/7CH STEREO	×	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
ROCK ARENA	×	×	×	×	×	○ (注3)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
JAZZ CLUB	×	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
MONO MOVIE	×	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
VIDEO GAME	×	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
MATRIX	×	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
VIRTUAL	×	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○

○： 制御可能
×： 制御不可能
注３：BASS +6dB, TREBLE +4dB
注４：“Audio Setup” – “EQ Preset” – “Direct Mode” の設定により使用できます（☞30 ページ）。
注５：“Dynamic EQ” の設定が “ON” の場合は、設定できません（☞44 ページ）。
注６：“MultEQ” の設定が “OFF” の場合は、設定できません（☞43 ページ）。
注７：“Dynamic EQ” の設定が “OFF” の場合は、設定できません（☞44 ページ）。

入力信号に対するサラウンドモード表示

ボタン / サラウンドモード	注	入力信号: アナログ	PCM: リニアPCM (multi ch)	PCM: リニアPCM (2ch)	DTS-HD: DTS-HD Master Audio	DTS-HD: DTS-HD High Resolution Audio	DTS: DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS: DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS: DTS (5.1ch)	DTS: DTS 96/24	DOLBY: DOLBY TrueHD	DOLBY: DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL (2ch)	MPEG-2 AAC: AAC (5.1ch)	MPEG-2 AAC: AAC (2ch)	MPEG-2 AAC: AAC (1+1ch)
STANDARD																				
DTS SURROUND																				
DTS-HD MSTR		×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS-HD HI RES		×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES DSCRT6.1	*1 *3	×	×	×	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES MTRX6.1	*1 *3	×	×	×	×	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND		×	×	×	×	×	○	○	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24		×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIx CINEMA	*2 *3	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIx MUSIC	*1 *3	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + NEO:6	*1 *3	×	×	×	○	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS NEO:6 CINEMA		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DTS NEO:6 MUSIC		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY SURROUND																				
DOLBY TrueHD		×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL+		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL EX	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×
DOLBY (D+) (HD) +EX	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	●	●	●	×	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx CINEMA	*2 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	● ◎	○	○	○	×	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx MUSIC	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA	*3	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC	*3	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME	*3	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II GAME		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
AAC																				
AAC + DOLBY EX		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
AAC + PL IIx CINEMA		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
AAC + PL IIx MUSIC		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
MPEG2 AAC		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●

注
*1：サラウンドバックスピーカーを“None”に設定している場合は、選べません。
*2：サラウンドバックスピーカーを“1spkr”または“None”に設定している場合は、選べません。
*3：“Amp Assign”の設定が“7.1ch”以外の場合は、選べません。

●：初期状態で選ばれるモード
◎：“AFDM”が“ON”に設定されているときに固定されるモード
○：選択可能なモード
×：選択不可能なモード

ボタン サラウンドモード	注	アナログ	PCM リニアPCM (multi ch)	PCM リニアPCM (2ch)	DTS-HD DTS-HD Master Audio	DTS-HD DTS-HD High Resolution Audio	DTS DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS DTS (5.1ch)	DTS DTS 96/24	DOLBY DOLBY TrueHD	DOLBY DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL DOLBY DIGITAL (2ch)	MPEG-2 AAC AAC (5.1ch)	MPEG-2 AAC AAC (2ch)	MPEG-2 AAC AAC (1+1ch)
STANDARD																				
MULTI CH IN																				
MULTI CH IN		×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI IN + PLIIx CINEMA	*2 *3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI IN + PLIIx MUSIC	*1 *3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI IN + Dolby EX	*1 *3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH IN 7.1	*3	×	● ◎ (7.1)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DIRECT																				
DIRECT		○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MULTI CH DIRECT		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT + PLIIx CINEMA	*2 *3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT + PLIIx MUSIC	*1*3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT + Dolby EX	*1*3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT 7.1	*3	×	○ (7.1)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
PURE DIRECT																				
PURE DIRECT		○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MULTI CH PURE DIRECT		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M PURE D + PLIIx CINEMA	*2 *3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M PURE D + PLIIx MUSIC	*1 *3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M PURE D + Dolby EX	*1 *3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M CH PURE DIRECT 7.1	*3	×	○ (7.1)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DSP SIMULATION																				
5CH/7CH STEREO	*4	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
ROCK ARENA		○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
JAZZ CLUB		○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
MONO MOVIE		○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
VIDEO GAME		○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
MATRIX		○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
VIRTUAL		○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO																				
STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

（入力信号：アナログ～AAC (1+1ch)）

注
*1：サラウンドバックスピーカーを“None”に設定している場合は、選べません。
*2：サラウンドバックスピーカーを“1spkr”または“None”に設定している場合は、選べません。
*3：“Amp Assign”の設定が“7.1ch”以外の場合は、選べません。
*4：サラウンドバックスピーカーを“None”に設定している場合は、“5CH STEREO”を表示します。

●：初期状態で選ばれるモード
◎：“AFDM”が“ON”に設定されているときに固定されるモード
○：選択可能なモード
×：選択不可能なモード

映像信号とモニター出力の関係

ビデオコンバート	入力信号				モニター出力			
	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
ON	×	×	×	×	×	×	×	×
	×	×	×	○	VIDEO	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	×	×	○	×	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	×	○	○	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (1080p)	×	×	×	COMPONENT	×	×
	×	○ (480p～720p)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	×	×
	×	○ (480i / 576i)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	×	○ (1080p)	×	○	VIDEO	COMPONENT*1	VIDEO	VIDEO
	×	○ (480p～720p)	×	○	COMPONENT*1	COMPONENT*1	×	VIDEO
	×	○ (480i / 576i)	×	○	COMPONENT*1	COMPONENT*1	COMPONENT	VIDEO
	×	○ (1080p)	○	×	S-VIDEO	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480p～720p)	○	×	COMPONENT*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480i / 576i)	○	×	COMPONENT*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (1080p)	○	○	S-VIDEO	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480p～720p)	○	○	COMPONENT*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480i / 576i)	○	○	COMPONENT*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	×	×	×	HDMI	×	×	×
	○	×	×	○	HDMI*1	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	○	×	○	×	HDMI*2	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	×	○	○	HDMI*2	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i / 576i以外)	×	×	HDMI	COMPONENT	×	×
	○	○ (480i / 576i)	×	×	HDMI	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	○	○ (1080p)	×	○	HDMI*1	COMPONENT*1	VIDEO	VIDEO
	○	○ (480p～720p)	×	○	HDMI*1	COMPONENT*1	×	VIDEO
	○	○ (480i / 576i)	×	○	HDMI*1	COMPONENT*1	COMPONENT	VIDEO
	○	○ (480i / 576i以外)	○	×	HDMI*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i / 576i)	○	×	HDMI*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i / 576i以外)	○	○	HDMI*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i / 576i)	○	○	HDMI*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO

○：信号あり
×：信号なし
480p ～ 720p : 480p/576p/1080i/720p

×：出力無し
*1：メニュー表示はビデオ信号にスーパーインポーズして出力
*2：メニュー表示は S ビデオ信号にスーパーインポーズして出力
COMPONENT または HDMI：
本体の **MENU** ボタン、リモコンの **A.MENU** ボタン操作時のみオンスクリーンディスプレイ表示
（網掛け）：アナログから HDMI へのアップコンバート機能が“OFF”の場合、映像信号は出力されません。

ビデオコンバート	S-VIDEO MONITOR OUT	入力信号				モニター出力			
		HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
OFF	—	×	×	×	×	×	×	×	×
	—	×	×	×	○	×	×	×	VIDEO
	—	×	×	○	×	×	×	S-VIDEO	×
	使用	×	×	○	○	×	×	S-VIDEO	VIDEO*2
	未使用	×	×	○	○	×	×	—	VIDEO
	—	×	○	×	×	×	COMPONENT	×	×
	—	×	○	×	○	×	COMPONENT*1	×	VIDEO
	—	×	○	○	×	×	COMPONENT*2	S-VIDEO	×
	使用	×	○	○	○	×	COMPONENT*2	S-VIDEO	VIDEO*2
	未使用	×	○	○	○	×	COMPONENT*1	—	VIDEO
	—	○	×	×	×	HDMI	×	×	×
	—	○	×	×	○	HDMI	×	×	VIDEO
	—	○	×	○	×	HDMI	×	S-VIDEO	×
	使用	○	×	○	○	HDMI	×	S-VIDEO	VIDEO*2
	未使用	○	×	○	○	HDMI	×	—	VIDEO
	—	○	○	×	×	HDMI	COMPONENT	×	×
	—	○	○	×	○	HDMI	COMPONENT*1	×	VIDEO
	—	○	○	○	×	HDMI	COMPONENT*2	S-VIDEO	×
	使用	○	○	○	○	HDMI	COMPONENT*2	S-VIDEO	VIDEO*2
	未使用	○	○	○	○	HDMI	COMPONENT*1	—	VIDEO

○：信号あり
×：信号なし

×：出力無し
*1：メニュー表示はビデオ信号にスーパーインポーズして出力
*2：メニュー表示は S ビデオ信号にスーパーインポーズして出力
COMPONENT または HDMI：
本体の **MENU** ボタン、リモコンの **A.MENU** ボタン操作時のみオンスクリーンディスプレイ表示

- メインゾーンのビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-MおよびPAL-60のフォーマットに準拠しています。
- 入力信号がコンポーネントビデオの1080iまたは720pのとき、HDMIへのアップコンバートはそのままの解像度または1080pにアップコンバートして出力します。
- 入力信号がビデオ、Sビデオおよびコンポーネントビデオの480i、480p、576iまたは576pのとき、HDMIへのアップコンバートはメニューの“Input Setup”－“Video”－“Resolution”（☞36ページ）。
- 割り当てられた入力ソース“TUNER”および“iPod”のときに、“Video Select”で映像を出力すると、以下の設定によって上表の映像出力が異なります。
  ①“iPod Information”の設定が“OFF”以外のとき：スーパーインポーズされたSビデオまたはビデオ信号を出力します。
  ②“iPod Information”の設定が“OFF”のとき：信号出力は、上表の通りになります。
  （“iPod Information”の設定に関しては、32ページをご覧ください。）

故障かな？と思ったら

❑ 各接続は正しいですか
❑ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
❑ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
本機が正常に動作しない。	●外部からのノイズや妨害によって本機が誤動作している。	●マイコンを初期化してください。	54
電源が入らない。または、入れてもすぐに切れる。	●電源コードの差し込みが不完全である。	●本機のリアパネルおよび電源コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	18
スピーカーから音が出ない。	●入力機器との接続またはスピーカーケーブルの接続が不完全である。	●接続を確認してください。	13
	●再生したい機器と入力ソースが合っていない。	●接続を確認して、適切な入力ソースを選んでください。	49
	●主音量が小さすぎる。	●主音量を適切な大きさに調節してください。	49
	●消音（ミューティング）モードになっている。	●消音（ミューティング）モードを解除してください。	49
	●ヘッドホンを接続している。	●ヘッドホンを外してください。ヘッドホンを接続していると、スピーカーやプリアウト端子から音が出なくなります。	49
	●デジタル信号が入力されていない。	●接続を確認し、デジタル入力の設定をした入力ソースを選んでください。	35
	●デジタル入力端子が割り当てられている端子と入力モードが合っていない。	●入力モードを設定してください。	36
ディスプレイの表示が消える。	●ディマー機能で、本機のディスプレイ表示を“OFF”にしている。	●“OFF”以外の設定にしてください。	33
	●PURE DIRECT モードになっている。	●PURE DIRECT モード中、ディスプレイは消灯します。	40

症 状	原 因	対 策	関連ページ
ディスプレイが“DOLBY DIGITAL”の表示にならない。	●ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	●ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの取扱説明書をお読みください。	—
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	●機器内部の温度上昇により、保護回路が働いている。	●一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。	—
		●本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	—
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	●指定されたインピーダンス以下のスピーカーを使用している。	●スピーカーは、指定のインピーダンスのものを使用してください。	13
	●スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路が働いている。	●電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどとした後で、もう一度接続し直してください。	13
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	●本機のアンプ回路が故障している。	●電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	–

【リモコン】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
リモコンを操作しても、正常に動作しない。	●乾電池が消耗している。	●新しい乾電池と交換してください。	6
	●本体から離れすぎているか、角度が良くない。	●リモコンは、本機から約 7 メートルおよび 30° 以内の範囲で操作してください。	6
	●本機とリモコンの間に障害物がある。	●障害物を取り除いてください。	6
	●乾電池の ⊕ と ⊖ が正しくセットされていない。	●正しい極性でセットしてください。	6
	●本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバーター式蛍光灯の光など）が当たっている。	●受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。	6
	●本体とリモコンのリモコン ID が合っていない。	●リモコン ID を“1”に設定してください。	33
	●**SOURCE CONTROL** スイッチが正しい位置に設定されていない。	●**SOURCE CONTROL** スイッチを操作する用途にあわせて正しい位置に設定してください。	55

【オーディオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
センタースピーカーから音が出ない。	●テレビや AM 放送などのモノラル音源を、“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）モードで再生している。	●モノラル音源を再生する場合は、“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）以外のサラウンドモードを選んでください。	38
サラウンドスピーカーから音が出ない。	●サラウンドモードが、2 チャンネル再生用（“STEREO”、“DIRECT” または “PURE DIRECT”）になっている。	●サラウンド再生用のモードにしてください。	39、40
サブウーハーから音が出ない。	●サブウーハーの電源が入っていない。	●サブウーハーの電源を入れてください。	—
	●“Speaker Configuration” の “Subwoofer” を “No” に設定している。	●サブウーハーの設定を “Yes” にしてください。	26
	●サブウーハーが正しく接続されていない。	●接続を確認してください。	13
	●サブウーハーの音量が小さくなっている。	●サブウーハーのチャンネルレベルを上げてください。	53
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	●サラウンドバックスピーカーの設定が “None” になっている。	●サラウンドバックスピーカーを “None” 以外に設定してください。	26
	●6.1/7.1 チャンネル再生用のサラウンドモードになっていない。	●サラウンド再生用のモードを選んでください。	38 ～ 40
	●“Parameter” – “Surround Parameter” – “SB CH Out” が “OFF” に設定されている。	●“Parameter” – “Surround Parameter” – “SB CH Out” を “OFF” 以外に設定してください。	42、43
	●サラウンドバックスピーカーのパワーアンプの割り当てをおこなっている。	●サラウンドバックスピーカーからは音声が出力されません。設定を変更してください。	31
リモコンの **TEST** ボタンを押しても、テストトーンが出力されない。	●サラウンドモードが “STANDARD”（Dolby/DTS Surround）モードになっていない。	●サラウンドモードを “STANDARD”（Dolby/DTS Surround）モードにしてください。	38
DTS 音声が出力されない。	●ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの音声出力の設定が、ビットストリームになっていない。	●ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの設定をしてください。詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。	—
	●ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーが DTS 音声の再生に対応していない。	●DTS 対応のプレーヤーをお使いください。	—
	●入力モードの設定が、“PCM” になっている。	●デコードモードを “Auto” または “DTS” にしてください。	36
HDMI の音声信号がスピーカーに出力されない。	●“Manual Setup” – “HDMI Setup” – “HDMI Audio Out” の設定が “TV” になっている。	●“AMP” に設定してください。	28
HDMI 接続しているテレビから音声が出力されない。	●“Manual Setup” – “HDMI Setup” – “HDMI Audio Out” の設定が “AMP” になっている。	●“TV” に設定してください。	28
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	●HDMI 接続をしていない。	●HDMI 接続をしてください。	14、15
	●ブルーレイディスクプレーヤーの音声出力の設定が、ビットストリームになっていない。	●ブルーレイディスクプレーヤーの音声出力を設定してください。詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。	—
	●ブルーレイディスクプレーヤーが DTS 音声の再生に対応していない。	●DTS 対応のブルーレイディスクプレーヤーをお使いください。	—

【ビデオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
映像が映らない。	●本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。	●接続を確認してください。	14 ～ 17
	●本機と接続したモニターの入力端子が入力設定と合っていない。	●モニターの入力端子と入力設定を合わせてください。	—
	●PURE DIRECT モードになっている。	●PURE DIRECT モードを解除してください。	40
	●プレーヤーとの接続がコンポーネント端子でモニターとの接続がビデオ端子（黄）または S ビデオ端子になっている。	●ハイビジョン（1080i/720p）やプログレッシブ映像信号（480p/576p）は、ダウンコンバートされません。プレーヤーをインターレース（480i/576i）の設定にしてください。	—
録画ができない。	●入力ソースとレコーダーのビデオ接続端子（ビデオ、S ビデオ）が一致していない。	●RECOUT のビデオ端子にはビデオコンバート機能が無いので、入力がビデオの場合はビデオケーブルで、S ビデオの場合は S ビデオケーブルで接続してください。	16
DVD から VCR にダビングできない。	—	●故障ではありません。ほとんどの映画ソフトには、コピー防止信号が入っているので、ダビングすることはできません。	—
オンスクリーンディスプレイが表示されない。		●本機を通して HDMI またはコンポーネントビデオ信号をご覧の場合は、本体の **MENU** ボタンまたはリモコンの **A.MENU** ボタンを操作したときに、オンスクリーンディスプレイを表示します。	12
		●本機に HDMI またはコンポーネントビデオ信号のみが入力されている場合は、オンスクリーンディスプレイの文字を映像信号に重ねて表示しません。	12
	●操作内容の表示が “OFF” になっている。	●“Manual Setup” - “Option Setup” - “On-Screen Display” - “Text” を “ON” に設定してください。	32
	●主音量の表示が “OFF” になっている。	●“Manual Setup” - “Option Setup” - “On-Screen Display”-“Master Volume”を“ON” に設定してください。	32
	●iPod 操作時の表示が “OFF” になっている。	●“Manual Setup” - “On-Screen Display” - “iPod Information” を “OFF” 以外に設定してください。	32

【HDMI】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
HDMI オーディオ信号がスピーカーに出力されない。	●HDMI の入力設定が合っていない。	●HDMI オーディオ信号をスピーカーから出力するときは、“AMP” に設定してください。	28
HDMI 接続で映像が映らない。	●HDMI 端子の接続が不完全である。	●接続を確認してください。	14
	●HDMI の入力設定が合っていない。	●“Input Setup” – “Assign” – “HDMI In” で HDMI 端子を割り当てた入力ソースを選んでください。	34
	●本機に接続されたモニターなどが、著作権保護（HDCP）に対応していない。	●著作権保護（HDCP）に対応したモニターを接続してください。	14
	●接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とモニター側の入力対応フォーマットが合っていない。	●接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とモニターの入力対応フォーマットが合っているかを確認してください。	14
HDMI 接続しているテレビから音声が出力されない。	●HDMI の入力設定が合っていない。	●HDMI オーディオ信号をテレビから出力するときは、“TV” に設定してください。	28
接続機器に以下の操作をすると、本機も同じ動作をする。 ●電源の入/切 ●音声を出力する機器の切り替え ●音量の調節 ●入力ソースの切り替え	●HDMI の CEC 機能が働いている。	●Manual Setup” – “HDMI Setup” – “HDMI Control” を “OFF” に設定してください。各機器の電源の入/切のみ操作したい場合は、“Power Off Control” を “OFF” に設定してください。	28、29

【iPod】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
iPod が再生できない。	●iPod Dock を割り当てた入力ソースと合っていない。	●iPod Dock を割り当てた端子に接続し、入力ソースを切り替えてください。	35
	●ケーブルが正しく接続されていない。	●接続をやり直してください。	16
	●iPod 用コントロールドックの AC アダプターがコンセントに挿入されていない。	●AC アダプターを挿入していない場合は、本機と通信することができません。	—

保証と修理について

保証書

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

❑ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

❑ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については『製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内』に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

修理を依頼されるとき

❑ 修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

❑ 修理を依頼されるとき

- 添付の『製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内』に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名…… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号… 保証書または製品背面（または底面や側面）に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❑オーディオ部

●パワーアンプ部

定格出力：	フロント（A、B）：	90W+90W （負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08 %） 140W+140W （負荷 6 Ω、JEITA）
	センター：	90W （負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08 %） 140W （負荷 6 Ω、JEITA）
	サラウンド：	90W+90W （負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08 %） 140W+140W （負荷 6 Ω、JEITA）
	サラウンドバック：	90W+90W （負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08 %） 140W+140W （負荷 6 Ω、JEITA）
出力端子：	フロント： A または B	6 ～ 16 Ω
	A ＋ B	12 ～ 16 Ω
	センター / サラウンド / サラウンドバック：	6 ～ 16 Ω

●アナログ部

入力感度 / 入力インピーダンス：	200mV/47k Ω
周波数特性：	10Hz ～ 100kHz：+1、–3dB（DIRECT モード時）
S/N 比：	100dB（JIS-A）（DIRECT モード時）

❑ビデオ部

●標準映像端子

入出力レベル / インピーダンス：	1Vp-p/75 Ω	
周波数特性：	5 Hz ～ 10MHz：	+1、–3dB（“Video Convert” が “OFF” のとき）

●S 映像端子

入出力レベル / インピーダンス：	Y（輝度）信号：	1Vp-p/75 Ω
	C（色）信号：	0.286Vp-p/75 Ω
周波数特性：	5Hz ～ 10MHz：	+1、–3dB（“Video Convert” が “OFF” のとき）

●色差（D）映像端子

入出力レベル / インピーダンス：	Y（輝度）信号：	1Vp-p/75 Ω
	PB/CB（青色）信号：	0.7Vp-p/75 Ω
	PR/CR（赤色）信号：	0.7Vp-p/75 Ω
周波数特性：	5 Hz ～ 60 MHz：	+0、–3 dB（“Video Convert” が “OFF” のとき）

❑総合

電源：	AC100V 50/60Hz
消費電力：	250W（電気用品安全法による） 0.3W（スタンバイ時）
最大外形寸法：	434（幅）× 171（高さ）× 377（奥行き）mm
質量：	11.4kg

❑リモコン（RC-1099）

乾電池：	R6（単 3 形）乾電池 2 本使用
最大外形寸法：	52（幅）× 243（高さ）× 21（奥行き）mm
質量：	184 g（乾電池を含む）

※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

プリセットコード一覧表

DVD Player

A	Aiwa	009
D	Denon	014, **[111]**＊
H	Hitachi	010
J	JVC	006, 011
K	Konka	012, 013
M	Magnavox	005
	Mitsubishi	004
P	Panasonic	014
	Philips	005, 015, 016, 017
	Pioneer	003, 008
S	Sanyo	018
	Sony	002, 019, 020
T	Toshiba	001, 021, 022
Z	Zenith	023

Blu-Ray Disc Player

D	Denon	**[111]**＊ (Denon 1) 121 (Denon 2)

VDP

D	Denon	028, 029, 112
M	Magnavox	026
	Mitsubishi	028
P	Panasonic	029, 030
	Philips	026
	Pioneer	028, 031
R	RCA	032
S	Sony	033, 034, 035, 036

VCR

A	Admiral	081
	Aiko	095
	Aiwa	009
	Akai	026, 027, 070, 072, 082, 083, 084
	Alba	055
	Amstrad	009
	ASA	042
	Asha	087
	Audio Dynamic	005, 085
	Audiovox	088
	Beaumark	087
	Broksonic	086, 093
C	Calix	088
	Candle	006, 087, 088, 089, 090
	Canon	049, 057
	Capehart	025, 055, 056, 071
	Carver	015
	CCE	095
	Citizen	006, 007, 087, 088, 089, 090, 095
	Craig	007, 087, 088, 091, 115
	Curtis Mathes	006, 049, 073, 080, 087, 090, 092
	Cybernex	087
D	Daewoo	025, 055, 059, 074, 089, 093, 095, 096
	Daytron	025, 055
	DBX	005, 085
	Dumont	053
	Dynatech	009
E	Electrohome	001, 088, 097
	Electrophonic	088
	Emerson	001, 009, 017, 027, 086, 088, 089, 092, 093, 097, 100, 101, 102, 103, 104, 117
F	Flsher	009, 028, 031, 053, 054, 091, 099, 115
G	GE	007, 011, 049, 050, 051, 052, 073, 080, 087
	Go Video	047, 048
	Goldstar	000, 006, 012, 062, 088
	Gradiente	094
	Grundig	042
H	Harley Davidson	094
	Harman Kardon	040, 062
	Hi-Q	091
	Hitachi	009, 013, 023, 026, 058, **[108]**＊, 109, 110, 111
J	JC Penny	004, 005, 007, 023, 028, 049, 062, 085, 087, 088
	Jensen	013, 026
	JVC	004, 005, 006, 026, 029, 043, 044, 045, 046, 085
K	Kenwood	004, 005, 006, 026, 029, 033, 045, 085, 090
	Kodak	088
L	Lloyd	009, 094
	LXI	088
M	Magnavox	015, 016, 042, 049, 063, 106
	Magnin	087
	Marantz	004, 005, 006, 015, 042, 049, 085, 090
	Marta	088
	MEI	049
	Memorex	009, 033, 049, 053, 060, 081, 087, 088, 091, 094, 115
	Metz	123, 124, 125, 126, 127, 128
	MGA	001, 017, 027, 041, 097
	MGN Technology	087
	Midland	011
	Minolta	013, 023
	Mitsubishi	001, 003, 008, 013, 014, 017, 027, 029, 039, 040, 041, 045, 097
	Motorola	081
	Montgomery Ward	001, 002, 007, 009, 049, 063, 081, 115, 117
	MTC	009, 087, 094
	Multitech	007, 009, 011, 087, 090, 094
N	NAD	038
	NEC	004, 005, 006, 018, 026, 029, 045, 061, 062, 085
	Nikko	088
	Noblex	087
O	Optimus	081, 088
	Optonica	021
P	Panasonic	024, 049, 064, 066, 067, 068, 069, 107
	Perdio	009
	Pentax	009, 013, 023, 058, 090
	Philco	015, 016, 049
	Philips	015, 021, 042, 049, 105
	Pilot	088
	Pioneer	005, 013, 029, 036, 037, 038, 045, 085
	Portland	025, 055, 090
	Proscan	063, 080
	Pulsar	060
Q	Quartz	033
	Quasar	034, 035, 049
R	Radio Shack	001, 002, 021, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098, 115
	Radix	088
	Randex	088
	RCA	007, 013, 019, 023, 058, 063, 064, 065, 073, 080, 082, 087
	Realistic	009, 021, 031, 033, 049, 053, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098
	Ricoh	055
S	Salora	033, 041
	Samsung	007, 011, 051, 059, 070, 083, 087, 089, 113
	Sanky	081
	Sansui	005, 026, 029, 045, 061, 085, 114
	Sanyo	032, 033, 053, 087, 091, 115, 116
	SBR	042
	Scott	017, 020, 086, 089, 093, 117
	Sears	013, 023, 028, 031, 033, 053, 054, 088, 091, 098, 099, 115
	Sentra	055
	Sharp	001, 002, 021, 097
	Shogun	087
	Sony	075, 076, 077, 078, 079, 121, 122
	STS	023
	Sylvania	009, 015, 016, 017, 041, 049, 094
	Symphonic	009, 094
T	Tandy	009
	Tashiko	009, 088
	Tatung	004, 026, 030
	Teac	004, 009, 026, 094
	Technics	024, 049
	TMK	087, 092
	Toshiba	013, 017, 020, 041, 059, 089, 098, 099, 117
	Totevision	007, 087, 088
U	Unirech	087
V	Vecrtor Research	005, 062, 085, 089, 090
	Victor	005, 045, 046, 085
	Video Concepts	005, 027, 085, 089, 090
	Videosonic	007, 087
W	Wards	013, 021, 023, 087, 088, 089, 091, 094, 097, 118, 119, 120
X	XR-1000	094
Y	Yamaha	004, 005, 006, 026, 062, 085
Z	Zenith	060, 078, 079

Television

A	Admiral	045, 121
	Adventura	122
	Aiko	054
	Akai	016, 027, 046
	Alleron	062
	A-Mark	007
	Amtron	061
	Anam	006, 007, 036
	Anam National	061, 147
	AOC	003, 007, 033, 038, 039, 047, 048, 049, 133
	Archer	007
	Audiovox	007, 061
B	Bauer	155
	Belcor	047
	Bell & Howell	045, 118
	Bradford	061
	Brockwood	003, 047
C	Candle	003, 030, 031, 032, 038, 047, 049, 050, 122
	Capehart	003
	Celebrity	046
	Circuit City	003
	Citizen	029, 030, 031, 032, 034, 038, 047, 049, 050, 054, 061, 095, 122, 123
	Concerto	031, 047, 049
	Colortyme	003, 047, 049, 135
	Contec	013, 051, 052, 061
	Cony	051, 052, 061
	Craig	004, 061
	Crown	029
	Curtis Mathes	029, 034, 038, 044, 047, 049, 053, 095, 118
D	Daewoo	027, 029, 039, 048, 049, 054, 055, 106, 107, 137
	Daytron	003, 049
	Dimensia	044
	Dixi	007, 015, 027
E	Electroband	046
	Electrohome	029, 056, 057, 058, 147
	Elta	027
	Emerson	029, 051, 059, 060, 061, 062, 118, 123, 124, 139, 148
	Envision	038
	Etron	027
F	Fisher	014, 021, 063, 064, 065, 118
	Formenti	155
	Fortress	012
	Fujitsu	004, 062
	Funai	004, 062
	Futuretech	004
G	GE	020, 036, 037, 040, 044, 058, 066, 088, 119, 120, 125, 147
	Goldstar	000, 015, 029, 031, 039, 048, 051, 056, 057, 067, 068, 069, 116
	Grundy	062
H	Hitachi	029, 031, 051, 052, 070, 111, 112, 113, 124, **[134]**＊
	Hitachi Pay TV	151
I	Infinity	017, 071
J	Janeil	122
	JBL	017, 071
	JC Penny	020, 034, 039, 040, 041, 044, 048, 050, 058, 066, 069, 076, 088, 090, 095, 125, 136, 159
	JCB	046
	JVC	019, 051, 052, 072, 073, 091, 117, 126
K	Kawasho	018, 046
	Kenwood	038, 056, 057
	Kloss	010, 032
	Kloss Novabeam	005, 122, 127, 131
	KTV	074, 123
L	Loewe	071
	logik	144
	Luxman	031
	LXI	008, 014, 017, 024, 040, 044, 063, 071, 075, 076, 077, 118, 125
M	Magnavox	005, 010, 017, 030, 033, 038, 050, 056, 071, 078, 079, 085, 089, 108, 109, 110, 127, 131, 132, 145

	Marantz	015, 017, 071, 080
	Matsui	027
	Memorex	014, 027, 045, 083, 118, 144
	Metz	160, 161, 162, 163
	MGA	001, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 083
	Midland	125
	Minutz	066
	Mitsubishi	001, 016, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 082, 083, 105
	Montgomery Ward	011, 020, 144, 145, 146
	Motorola	121, 147
	MTC	031, 034, 039, 048, 095
N	NAD	008, 075, 076, 128
	National	002, 036, 061, 147
	National Quenties	002
	NEC	031, 038, 039, 048, 057, 084, 086, 135, 147
	Nikko	054
	NTC	054
O	Optimus	128
	Optonica	011, 012, 093, 121
	Orion	004, 139
P	Panasonic	002, 009, 017, 036, 037, 071, 141, 143, 147
	Philco	005, 010, 030, 050, 051, 056, 079, 085, 127, 131, 132, 145, 147
	Philips	005, 015, 017, 050, 051, 056, 078, 087, 088, 089, 131, 132, 147
	Pioneer	124, 128, 142
	Portland	054
	Price Club	095
	Proscan	040, 044, 125
	Proton	035, 051, 092, 129
	Pulsar	042
Q	Quasar	036, 037, 074, 141
R	Radio Shack	011, 044, 063, 093, 118
	RCA	040, 044, 125, 130, 137, 151, 152
	Realistic	014, 063, 093, 118
S	Saisho	027
	Samsung	003, 015, 034, 053, 055, 057, 094, 095, 136, 153
	Sansui	139
	Sanyo	013, 014, 021, 022, 063, 064, 081, 096
	SBR	015
	Schneider	015
	Scott	062
	Sears	008, 014, 021, 022, 023, 024, 025, 040, 052, 057, 062, 063, 064, 065, 073, 075, 076, 097, 098, 125, 159
	Sharp	011, 012, 013, 026, 093, 099, 100, 104, 121
	Siemens	013
	Signature	045, 144
	Simpson	050
	Sony	043, 046, 138, 146, 150
	Soundesign	030, 050, 062
	Spectricon	007, 033
	Squareview	004
	Supre-Macy	032, 122
	Supreme	046
	Sylvania	005, 010, 017, 030, 078, 079, 085, 089, 101, 127, 131, 132, 145, 155
	Symphonic	004, 148
T	Tandy	012, 121
	Tatung	036, 124
	Technics	037
	Teknika	001, 030, 032, 034, 052, 054, 078, 083, 095, 144, 156, 157
	Tera	035, 129
	THOMSON	165, 166
	Toshiba	008, 014, 034, 063, 075, 076, 095, 097, 136, 158, 159
U	Universal	020, 066, 088
V	Victor	019, 073, 126
	Video Concepts	016
	Viking	032, 122
W	Wards	005, 045, 066, 078, 085, 088, 089, 093, 102, 103, 131, 132, 148
Z	Zenith	042, 114, 115, 140, 144, 149
	Zonda	007

Cable

A	ABC	006, **[007]***, 008, 009
	Archer	010, 011
C	Century	011
	Citizen	011
	Colour Voice	012, 013
	Comtronic	014
E	Eastern	015
G	Garrard	011
	Gemini	030, 033, 034
	General Instrument	030, 031, 032
H	Hytex	006
J	Jasco	011
	Jerrold	009, 016, 017, 026, 032
M	Magnavox	018
	Movie Time	019
N	NSC	019
O	Oak	000, 006, 020
P	Panasonic	001, 005
	Philips	011, 012, 013, 018, 021
	Pioneer	002, 003, 022
R	RCA	029
	Regency	015
S	Samsung	014, 023
	Scientific Atlanta	004, 024, 025
	Signal	014
	SL Marx	014
	Starcom	009
	Stargate	014
T	Teleview	014
	Tocom	007, 016
	TV86	019
U	Unika	011
	United Artists	006
	Universal	010, 011
V	Viewstar	018, 019
Z	Zenith	027, 028

Satellite Receiver

A	Alphastar	054
C	Chaparrali	035, 036
D	Dishnet	053
	Drake	037, 038
E	Echostar Dish	062, 066
G	GE	048, 055, 056
	General Instruments	039, 040, 041
	Grundig	070, 071, 072, 073
H	Hitachi	058, 059
	Hughes Networkr	063, 064, 065, 069
J	JVC	057
K	Kathrein	074, 075, 076, 083
M	Magnavoxl	060
N	Nokia	070, 080, 084, 085, 086
P	Philips	060
	Primestar	051
	Proscan	048, 055, 056
R	RCA	048, 055, 056, 068
	Realistic	042
S	Sierra I	036
	Sierra II	036
	Sierra III	036
	Sony	049, 067
	STS1	043
	STS2	044
	STS3	045
	SRS4	046
T	Technisat	077, 078, 079, 081, 082
	Toshiba	047, 050
	Uniden	061

CD Player

A	Aiwa	001, 035, 043
B	Burmster	002
C	Carvery	003, 035
D	Denon	**[111]***, 044
E	Emerson	004, 005, 006, 007
F	Fisher	003, 008, 009, 010
J	JVC	018, 019
	Kenwood	011, 012, 013, 014, 017
M	Magnavox	006, 015, 035
	Marantz	016, 028, 035
	MCS	016, 024
O	Onkyo	025, 027
	Optimus	017, 020, 021, 022, 023
P	Philips	014, 032, 033, 035
	Pioneer	006, 022, 030
S	Sears	006
	Sony	023, 031
T	Teac	002, 009, 028
	Technics	016, 029, 036
W	Wards	035, 037
Y	Yamaha	038, 039, 040, 041
Z	Zenith	042

プリセットコード	111（初期設定）			014
DENON 製 DVD プレーヤー	DVD-900 DVD-1000 DVD-1400 DVD-1500 DVD-1910 DVD-1920 DVD-1930	DVD-2200 DVD-2800 DVD-2800II DVD-2900 DVD-2910 DVD-2930 DVD-3800	DVD-3910 DVD-3930 DVD-A11 DVD-A1XV DVD-A1 DVD-2500BT DVD-3800BD	DVD-800 DVD-1600 DVD-2000 DVD-2500 DVD-3300

[ ]*：お買い上げ時に設定されているプリセットコードです。

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川 1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30 〜 12：00、12：45 〜 17：30
（当社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in China　5411 10051 208DA